



2022

**BULLETIN AND HANDBOOK
OF STUDENT INFORMATION**

学生便覧

**Miyazaki International College
School of Education**

**宮崎国際大学
教育学部**

Be a Star

キャンパスソング

作詞・作曲：黒木 聖也 (第14期生)
編曲：池田 敦子

8

1. ひがしから 歩いてくるー
2. こだかい おかのうえから

11
さわやかな しおかぜと まぶしい たいようのしたー
みわたす きよ たけのまち しぜんにかこまれたー

15
せかいへとは ばたくよー それぞれのこせいがひかる
うつくしいキャンパスー れきしののこる まちなみと

19
おたがいはげましあいー とともにすごす まいにちがー
すみわたるきよ たけのまち ひろがる たいへいようー

23
みらいへのいっばとなるー せかいにちかい M I Cーから
ぼくらのゆめは そのさきへ おもいえがくみらいのじぶんに

27
ひろげてゆくフレンドシップー みんながつどう みんながわらう
きーつとちかづけるはずだー じぶんのゆめ じぶんのちから

31
みんなで作る M I Cー Be A Starー ひ
しんじてゆこう M I Cー

35
とりひとりがしゅやくさー Be A Starー か

39
1. がゆく M I Cー Be
2. Be

44
A Starー せかいへはばたこーうー



2022

**BULLETIN AND HANDBOOK
OF STUDENT INFORMATION**

学生便覧

**Miyazaki International College
School of Education**

**宮崎国際大学
教育学部**

目 次

I 学年暦・大学の沿革・大学の理念等・教育研究

令和4年度 学年暦	3
はじめに	5
建学の精神	6
学校法人宮崎学園・宮崎国際大学の沿革	7
宮崎国際大学の理念・目的	8
創立	8
宮崎国際大学の三つの方針	8
教育学部の教育理念	9
教育学部の三つの方針	9

II 学則・履修規程等

宮崎国際大学学則	15
履修規程	46
表1 開講授業科目一覧表	52
表2 開講授業科目一覧 卒業・小学校教諭一種免許状	55
表2 開講授業科目一覧 幼稚園教諭一種免許状 保育士資格	58
表3 教員免許状申請 1. 小学校教諭一種免許状	61
表3 教員免許状申請 2. 幼稚園教諭一種免許状	63
表4 資格申請 1. 保育士資格	65
2. こども音楽療育士資格	66
3. 情報処理士資格	66
4. 一般社団法人日本知育玩具協会認定資格	66
宮崎国際大学教育学部既修得単位認定規程	67
教育学部学生表彰規程	72
障害学生への支援に関する手続き等について	73

III 学修の手引き

学修の手引き	79
学業指導	79
授業への出席	79
履修義務	79
履修科目登録と変更	79
単位履修に関わる中間・期末試験後における成績評定と履修カルテ・ポートフォリオ及び自己点検シートによる履修指導	80
成績評定及び評定平均	80
評定への異議申し立て	80
学部長リスト及び卒業成績優秀者	81
シラバス	81
教育実習・保育実習に取りかけられる要件（登録・履修できる要件）	81
教育学部卒業論文に関する申し合わせ	82
学生による授業評価	83
学業上の誠実	83
休学	84
退学	84

除籍	84
他大学等で修得した単位の認定について	84
個人情報の取扱いについて	85
高等教育コンソーシアム宮崎及び単位互換	87
その他、教育学部で取得できる資格	87
IV 学生生活	
学生生活上の規則及び情報	93
学費納入	93
誓約書	94
学生証	94
住所等の個人情報の変更届	94
保険	94
定期健康診断及び健康管理	94
施設設備等の利用・借用	95
カウンセリング	96
奨学金制度	96
アルバイト	97
駐車場	97
遺失・紛失物	97
大学行事	98
MIC 講演会シリーズ	98
MIC 大学祭	98
学生アシスタント・ワークスタディ	98
アドバイザー（指導教員）制度	99
アドバイザーアシスタント制度について	99
学生行動規範	100
目的	100
学生の権利	100
学生の責任	100
罰則規定	100
その他の規則	101
喫煙規定	101
飲酒規定	101
学校法人宮崎学園ハラスメント等の防止・対策に関する規定（一部抜粋）	102
宮崎国際大学学友会会則	103
代議員会細則	104
学友会及び部活動	105
学友会の役割	105
部活動	105
クラブやイベントのための施設借用	106
V 設備	
学内施設設備	109
コンピューター施設設備	109
ネットワーク構成	109
ワイヤレスLAN	109

ネットワークセキュリティ	109
インターネット接続	109
個人情報の取扱い	109
学内ネットワーク・オンラインサービス	110
コンピュータ教室・学内ネットワーク利用規則	113
学生教職支援センター	114
教員採用試験合格支援プログラム	115
アカデミック・リソース・センター（ARC）	117
自主学習	117
英語力向上プログラム	118
音楽力向上プログラム	119
自己開発センター（SDC）	120
自己開発センター（SDC）の概要	120
自己開発センター利用規則	120
グローバル教育センター	121
図書館施設設備	122
体育施設	126
学食	127
VI 就職・進学	
TS キャリア 宮崎国際大学のキャリア教育	131
就職・進学支援	132
キャリアサポートセンターの案内	132
企業への提出（応募）書類について	133
授業欠席届（就職活動用）について	134
求人情報の集め方	136
VII インフォメーション	
インフォメーション	141
大学の連絡先	141
業務一覧表	141
地域の医療機関	142
臨時休講	143
教科書の販売	143
教育学部専任教員一覧	144
国際教養学部所属併任教員一覧	145
教育学部非常勤講師一覧	145
国際教養学部専任教員一覧	147
教育学部所属併任教員一覧	149
国際教養学部非常勤講師一覧	149
職員一覧	150
宮崎学園図書館職員一覧	151
VIII キャンパス案内図	
キャンパス案内図	155
諸様式	

I 学年暦・大学の沿革・大学の理念等・教育研究

令和4年度 学年暦（教育学部）

前期			
月	日	曜日	行事
4月	1	(木)	前期開始、
	4	(月)	新入生オリエンテーション、TOEIC IP（1・3年生対象）、
	5	(火)	新入生オリエンテーション
	6	(水)	入学式(午後開式)
	7	(木)	オリエンテーション(2・3・4年生)、胸部レントゲン(4年生)、1年生休講
	11	(月)	前期授業開始、保育者養成実践講座開講(2・3・4年)
	11-15	(月) - (金)	前期履修登録変更期間
	13	(水)	クラブフェア・学友会選挙演説、(1・4年生)
	14	(木)	クラブフェア・学友会選挙演説、投票、学生健康診断
	16	(土)	青島レクリエーション(1年生・AA)、第3回教員採用全国公開模擬試験(教職課程4年生)
	18	(月)	「ひなた教師塾」説明(3・4年生)
	20	(水)	学生健康診断(3年生)
	22	(金)	胸部レントゲン(1年生)
	27	(水)	学生健康診断(2年生)
	28	(木)	胸部レントゲン(2・3年生)
29	(金)	昭和の日、月曜校時実施	
5月	2	(月)	4月29日(金)の振替休日
	3	(火)	憲法記念日
	4	(水)	みどりの日
	5	(木)	こどもの日
7月	14	(木)	特別対策合宿オリエンテーション(教職課程2・3年生)
	17	(日)	第1回オープンキャンパス
	18	(月)	海の日
	30	(土)	補講日(予備日)、前期授業終了
8月～9月	1-5	(月) - (金)	学期末試験期間
	8/6-9/30	(土) - (金)	夏季休業期間
	8/7	(日)	第2回オープンキャンパス
	8/11	(木)	山の日
	9/14-16	(水) - (金)	特別対策合宿(教職課程2・3年生全員 16日午前中まで)
	19	(月)	敬老の日
	23	(金)	秋分の日
9/30	(金)	前期終了	
<small>スケルトリアル事業未定(教職課程1年生) 7月中旬 後期履修アドバイス期間 9月中旬 後期履修登録期間 9月下旬 後期オリエンテーション(全学生) ※諸事情により日程が変更になる場合があります。</small>			

後期			
10月	1	(土)	後期開始
	3	(月)	後期授業開始
	3-7	(月) - (金)	後期履修登録変更期間
	12	(水)	宮崎学園創立記念日、創立記念行事
	21	(金)	大学祭準備 休講予定
	22	(土)	大学祭
	23	(日)	大学祭、後片付け
11月	3	(木)	文化の日
	23	(水)	勤労感謝の日
12月	3	(土)	第1回教員採用全国公開模擬試験(教職課程3年生)
	24-1/9	(土) - (月)	冬季休業期間
1月	1	(日)	元日
	9	(月)	成人の日
	10	(火)	後期授業再開、月曜校時実施
2月	3	(金)	後期授業終了
	6-10	(月) - (金)	学期末試験期間
	11	(土)	建国記念の日
	11-3/31	(土) - (金)	春季休業期間
	23	(木)	天皇誕生日
3月	9	(木)	卒業式
	31	(金)	後期終了
1月下旬 2023年度前期履修登録アドバイス期間 3月中旬 2023年度前期履修登録期間 ※諸事情により日程が変更になる場合があります。			

はじめに

この学生便覧は、本学で学生生活を送るために必要な情報を学生に提供することを目的に編集されています。

新入生は、入学後できるだけ早くこの学生便覧の全体を通読して、「本学の伝統、教育方針、諸手続、規則等」をよく知り、本学でのより良い学生生活をスタートできることを希望します。また、入学後授業科目の履修について、サークル・同好会について、あるいは就職について疑問が生じたときには、この便覧を活用してください。なお、不明瞭な点や詳しい内容については、各自で判断せず、先生や事務局窓口に相談してください。

また、本書のほかに、科目の履修に必要な「シラバス」をホーム・ページからダウンロードして、各自の受講計画の準備に活用してください。

建学の精神

本学の建学の精神は「礼節・勤労」です。

これは、宮崎学園の創設者大坪^{すけひで}資秀先生の教育理念から生まれたもので、本学はこの精神に基づく教育実践により独自の特色ある学風を形成してきました。

「礼節」は自他の人間性を尊び、かつ、己れを律する精神であり、それは平和で幸福な社会を築くための根本原理でもあります。

「勤労」は心身の健康の源であり、心身を労して全てのことに積極的に努力することです。人類が今日まで築いてきた秩序ある社会と文化は、勤労の賜物であり、勤労なくして社会の繁栄と発展は望むべくもありません。

われわれ人類の永遠の願いは、この地球が平和で、国境を越えて共存共栄の社会が築かれることでもあります。我が国の新しい時代を切り拓いていこうとしているあなた自身が、この建学の精神を真摯に受け止め、本学での学生生活の過程で、人格陶冶の指針として生かされるよう祈念します。

学校法人宮崎学園・宮崎国際大学の沿革

1939年（昭和14年）	宮崎女子商業学院、宮崎高等裁縫女学校設立（創立者：大坪資秀）両校合併、宮崎女子実践商業学校と改称
1952年（昭和27年）	新制高等学校令により宮崎女子商業高等学校設置
1955年（昭和30年）	宮崎女子商業学校を宮崎女子高等学校と改称
1959年（昭和34年）	宮崎学園創立20周年
1960年（昭和35年）	宮崎みどり幼稚園設置
1965年（昭和40年）	宮崎女子短期大学設置（保育科定員80名）、宮崎みどり幼稚園を宮崎女子短期大学附属みどり幼稚園に改称
1966年（昭和41年）	宮崎女子短期大学に国文科設置
1967年（昭和42年）	宮崎女子短期大学に初等教育科設置、宮崎女子短期大学附属清武みどり幼稚園設置
1969年（昭和44年）	宮崎女子短期大学に音楽科設置
1974年（昭和49年）	宮崎学園創立35周年
1979年（昭和54年）	宮崎学園創立40周年
1986年（昭和61年）	宮崎女子短期大学に英語科設置
1988年（昭和63年）	宮崎学園第二代理事長に大坪久泰氏就任
1989年（平成元年）	宮崎学園創立50周年
1994年（平成6年）	宮崎国際大学比較文化学部比較文化学科開学（初代学長大坪久泰氏就任：入学定員150名）
1995年（平成7年）	宮崎女子短期大学創立30周年
1998年（平成10年）	宮崎女子短期大学に専攻科（福祉専攻）設置
1999年（平成11年）	宮崎国際大学に教職課程設置（中学校・高等学校教諭一種免許状（英語））、宮崎学園創立60周年
2002年（平成14年）	宮崎女子短期大学に専攻科（音楽療法専攻）設置
2003年（平成15年）	宮崎国際大学比較文化学部比較文化学科入学定員減（定員100名）、宮崎女子短期大学国文科及び英語科を人間文化学科に改組、宮崎女子高等学校を宮崎学園高等学校に改称（男女共学）
2006年（平成18年）	宮崎国際大学の比較文化学部を国際教養学部へ改称
2008年（平成20年）	宮崎女子短期大学を宮崎学園短期大学と改称（男女共学）
2009年（平成21年）	宮崎国際大学第2代学長隈元正行氏就任、宮崎学園創立70周年、宮崎学園中学校開校
2013年（平成25年）	宮崎国際大学第三代学長永田雅輝氏就任
2014年（平成26年）	宮崎国際大学に教育学部児童教育学科設置、宮崎国際大学創立20周年、宮崎学園短期大学に現代ビジネス科設置、宮崎学園第三代理事長に山下恵子氏就任
2015年（平成27年）	宮崎学園短期大学新校舎竣工、宮崎学園短期大学初等教育科・音楽科・人間文化学科廃止
2016年（平成28年）	宮崎学園短期大学専攻科（音楽療法専攻）廃止、幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園設置（幼稚園廃止）
2017年（平成29年）	宮崎国際大学第四代学長山下恵子氏就任、幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園設置（幼稚園廃止）
2019年（令和元年）	宮崎学園創立80周年
2021年（令和3年）	宮崎国際大学第五代学長村上昇氏就任

宮崎国際大学の理念・目的

【理念及び目的】（学則第1条より抜粋）

本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神「礼節・勤労」に基づき人格の陶冶に務め、国際的視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、文化の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。

創 立

本学は建学の精神「礼節・勤労」のもとに創立された学校法人宮崎学園の傘下で、真の国際人を育成するために、平成6年に設立されました。

宮崎学園は昭和14年に創立され、宮崎国際大学をはじめ宮崎学園短期大学、宮崎学園高等学校、宮崎学園中学校、短期大学附属みどり幼稚園と清武みどり幼稚園があります。

宮崎国際大学の三つの方針

【アドミッション・ポリシー】（求める学生像）

宮崎国際大学では、多様な入試方法によって志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価し、適正に選抜する。本学の求める学生像は、以下に示す能力と意欲を持った人とし、国内外から積極的に受け入れる。

1. 建学の精神「礼節・勤労」を尊ぶ教育方針に賛同する人。
2. 国際社会や地域社会への貢献に価値観をもつ人。
3. 学修にあたって、目的意識を明確にもち、自主的な活動をすることを求める人。
4. 本学の学修に十分対応できる基礎学力・基礎技能を有している人。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成・実施の方針）

宮崎国際大学では、倫理観、よき社会人としての基礎学力と教養、職業人としての専門性を有する人材を養成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. クリティカル・シンキングに基づく学修が行える科目を設置する。
2. アクティブ・ラーニング形態の授業が実現できる科目を設置する。
3. 実践的な学修を実行しやすい科目を設置する。
4. 授業科目は、シラバス（授業目標、授業計画、成績評価基準・方法等記入）で明確にして実施する。
5. 学修成果は成績評価基準に基づき厳格に評価する。

【ディプロマ・ポリシー】（卒業までに身につけてほしいこと）

宮崎国際大学では、以下の資質・能力を身につけ、卒業要件となる単位を修得した学生に対し、学位（学士号）を授与する（国際教養学部：学士（比較文化）、教育学部：学士（教育学））。

1. 「礼節・勤労」を尊び、よき社会人としての倫理観をもつこと。
2. 社会人に求められる教養と基礎学力、また専門職に求められる知識と能力を備えること。
3. 社会の課題解決に立ち向かう思考力と実践力をもつこと。

教育学部の教育理念

情報通信技術の急速な発展や社会・経済のグローバル化など、我が国の社会は大きく変化しています。このような現代社会の変化に伴い、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭には、乳幼児・児童の発達段階における保育や教育を適切に行うことができる資質・能力が求められています。すなわち、乳幼児や児童に対する正しい理解や支援・指導のための知識と多面的に考察する能力、またこれに基づく確かな保育・教育実践力を身に付けることが必要不可欠です。地域社会との関わりもより一層重要となっています。本学部では、建学の精神「礼節・勤労」に則り、教育界や一般社会から求められる高度な知識・考察力・実践力等を身につけた教育のスペシャリストの育成を目指します。

教育学部の三つの方針

【アドミッション・ポリシー】（求める学生像）

教育学部では、学部・学科の教育理念、目的及び卒業時にディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能・教育実践力等を修得するために、次のような知識・技能・意欲を有した者を受け入れる方針である。

1. 高等学校における教育内容を幅広く修得している。
2. 教育・保育分野の専門性を生かした職に就く強い意欲がある。
3. 教育・保育分野におけるカリキュラムを学修するために必要な基本的な知識、日本語力、英語力、音楽力を身につけている。
4. 基本的な生活習慣と自学自習の習慣を身につけている。
5. 社会で起こる諸課題について、自発的に調べ、論理的に説明することができる。
6. 高等学校における課外活動・ボランティア活動等の経験があり、また他者と協働してこれらの活動に積極的に参加できる。
7. 卓越した技能（例えば、スポーツ、芸術、文化等）を身につけている。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成・実施の方針）

教育学部では、教育課程を、【教養基礎科目】【教養発展科目】【専門基礎科目】【専門科目】【実習科目（教育・保育）】【卒業論文】に大別し、教養科目では基礎から発展へ、また専門科目では基礎から専門へと体系的かつ段階的に履修する。これらを学修した段階で実習へと進み、教育実践力を身につけるように編成している。最後に、大学で学んだことの集大成として卒業論文をまとめる。

1. よき社会人に求められる教養を身につけ、教育に関わる多様な問題とその解決法を論理的に考える能力を育成するため、【教養基礎科目】として、地域の歴史や文化を体験的に学ぶ

- 「フレッシュマン・セミナー、忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅲ」を、また【教養発展科目】として〔人文・芸術系〕〔国際・社会系〕〔自然科学系〕〔外国語系〕〔健康・体育系〕の科目を配置する
2. 教育者としての情熱、倫理観、社会における役割等を認識するため、「忍ヶ丘教養」をはじめとする「教育原理」「教育心理学」「社会福祉」「社会的養護」「児童家庭福祉」「家庭支援論」等の科目を配置する。
 3. 話す、聞く、書く等の基本的なコミュニケーション能力を培うため、「忍ヶ丘教養」「日本語表現」「ことばと遊び」等の科目を配置する。
 4. 社会の変化に対応して継続的かつ主体的に学ぶ学習能力を身につけるため、「忍ヶ丘教養」「道德教育の指導法」「特別活動の指導法」「協同学習論」「卒業論文」等の科目を配置する。
 5. 専門的な方法論と知識を体系的に学び教育実践力を強化するため、教科に関する専門科目（「国語（書写を含む。）」「社会」「算数」「理科」「家庭」「音楽」「ピアノ・声楽」「生活」「図画工作」「体育」）にわたる科目を設置する他、「情報処理」「教育課程論」「特別支援教育概論」等の科目を配置する。
 6. 専門科目としての基礎的知識を修得するため、【専門基礎科目】【専門科目】（〔教科・基礎技能〕〔教育課程・指導法〕〔生徒指導・教育相談〕〔保育内容・指導法〕〔保育の表現技術〕）【実習科目】及び【卒業論文】を段階的に設置する。教科科目として、各教科教育法（国語科、社会科、算数科、理科、生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科）、「教育相談」「生徒指導・進路指導」「教育実習指導」「教育実習」「教職実践演習（幼・小）」「学級経営論」等の科目を配置する。
 7. 英会話力及び音楽力を培うため、「英語」「子どもの英語活動」「英語コミュニケーション」及び「音楽」「子どもの音楽活動」「ピアノ・声楽」等の科目を配置する。

カリキュラム・ポリシー実施の方針：

- ①各講義について、シラバスで到達目標、講義計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知を図る。
- ②各講義において、単位の実質化に向けて学生の「授業外学修（事前・事後学修等）」を確実に行わせる。
- ③主体的に考える力を育成するため、アクティブ・ラーニング（能動的・主体的学習法）を講義の教育目的に応じて積極的に取り入れる。
- ④学修成果をより効果的にするため、授業の流れ（カリキュラム編成）を理解させ、さらに学修ポートフォリオ・履修カルテを用いて履修・学修指導を行う。
- ⑤成績評価は、定期試験、小テスト及びレポート等の評価の合計を100%とし、評価点に基づき「秀・優・良・可・不可」と判定する。また、各教科の教育法、教育・保育実習等の評価はルーブリックによる評価法を適用し、上記と同様の評価を行う。これらの成績評価は、透明性を担保しつつ、厳格・公平に行う。
- ⑥講義・演習・実習等について、組織的に不断の点検・改善を行う。

【ディプロマ・ポリシー】（卒業までに身に付けてほしいこと）

教育学部では、卒業要件となる128単位及び加算評定平均値1.5以上を修得し、以下に掲げた素養を身につけたと認められる学生に対して卒業を認定し、学位「学士（教育学）」を授与する。

1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。
2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。
3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。
4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。
5. 教育実践力を身につけている。
6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。
7. 基礎的な英会話及び音楽力を身につけている。

II 学則・履修規定等

宮崎国際大学学則

目次

- 第1章 総則
 - 第1節 目的
 - 第2節 組織
 - 第3節 教職員組織
 - 第4節 教育研究評議会
 - 第5節 教授会等
- 第2章 学年、学期、休業日
- 第3章 修業年限
- 第4章 入学
- 第5章 教育課程
- 第6章 履修方法
- 第7章 休学、退学、除籍、転入学・編入学
- 第8章 卒業、学位
- 第9章 研究生、科目等履修生、特別聴講生、外国人留学生及び交換留学生
- 第10章 入学検定料・入学金及び授業料等
- 第11章 奨学金
- 第12章 賞罰
- 第13章 その他の施設
- 第14章 公開講座及び各種講習会等

第1章 総 則

第1節 目 的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神「礼節・勤労」に基づき人格の陶冶に務め、国際的視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、文化の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。

(自己点検・評価)

第1条の2 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。これに関する事項は、別に定める。

第2節 組 織

(学部、学科)

第2条 本学において設置する学部・学科及びその入学定員・編入学定員・収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
国際教養学部	比較文化学科	100名	—	400名
教育学部	児童教育学科	50名	—	200名

2 各学部及び学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 国際教養学部は、大学の目的に沿って、内外の文化、社会と英語に通じた国際人の養成を目

的とする。

比較文化学科は、学部の目的に沿って、国際的リベラル・アーツ教育を行うことを目的とする。

(2) 教育学部は、大学の目的に沿って、高い教養に基づく教育の専門的技術を備えた人材の養成を目的とする。

児童教育学科は、学部の目的に沿って、小学校教諭、幼稚園教諭及び保育士を養成することを目的とする。

第3節 教職員組織

(教職員組織)

第3条 本学に学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、学長補佐、一般職員、その他の職員を置く。

第4条 学長は、本学を代表し、校務をつかさどる。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

3 学部長は、学長を補佐し、学部に関する校務をつかさどる。

4 教授、准教授、講師及び助教は、学生を教授し、その学業を助け、また自らの研究を行なう。

5 学長補佐は、学長の命に従い、校務をつかさどる。

6 一般職員は、総務、教務、学生事務、経理、施設管理その他の業務に従事する。

7 学長が欠けた時は、学校法人理事会がその代理者を定める。

第4節 教育研究評議会

(教育研究評議会)

第5条 本学の運営に係る事項を審議するため、教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会の運営に関する事項は、別に定める。

第5節 教授会等

(教授会)

第6条 各学部に教授会を置き、定期的にこれを開催する。

2 教授会は、議決に関与しない他の教職員・学生・参考人の出席を求め、意見を聴取することができる。

3 教授会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

第7条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 教授会運営に関する規定は、別に定める。

(委員会)

第8条 各学部の教授会に委員会を設置する。委員会に関する規程は別に定める。

第2章 学年、学期、休業日

(学年)

第9条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期	4月1日より9月30日まで
後期	10月1日より翌年3月31日まで

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 土曜日・日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 夏季休業
- (4) 冬季休業
- (5) 春季休業

2 前項の規定にかかわらず、学長は必要があれば臨時に授業等を行ない、休業日を変更し、また臨時休業を定めることができる。

第3章 修業年限

(修業年限)

第12条 本学の修業年限は4年とし、在学年限は8年以下とする。

- 2 転入学者、編入学者又は学士入学者の修業年限は、2年以上とする。
- 3 その他の入学等志望者についての修業年限は、教授会の議を経て、学長が定める。

第4章 入学

(入学の時期)

第13条 入学の時期は、毎学年の始めとする。ただし、秋季入学の場合は、後期の始めとする。

(入学の資格)

第14条 本学に入学することのできる者は、学校教育法第90条及び学校教育法施行規則第150条に定める、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある

と認めた者

(入学者の選考)

第 15 条 本学への入学を志願する者は、別に定める書類に入学検定料を添えて所定の期日までに学長に提出しなければならない。

- 2 入学志願者については、選考の上、合格者を決定する。
- 3 入学検定料は、どのような理由があっても、これを返還しない。

(入学の手続)

第 16 条 合格通知を受けた者は、所定の書類に入学金及び授業料等学生納付金（前期分）を添えて指定期間内に学長に提出しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者について、教授会の議を経て、入学を許可する。
- 3 正当な理由なくして第 1 項の手続きを怠る者は、入学を許可しない。
- 4 入学金以外の既納の授業料等学生納付金は、3 月 31 日正午までに文書で入学辞退の申し出があった場合にのみ返還する。

第 5 章 教育課程

(教育課程)

第 17 条 学部・学科の授業科目及び単位数は、別表 1～16 のとおりとする。

第 6 章 履修方法

(授業科目の種類)

第 18 条 本学の授業科目の種類及び単位数、履修方法その他必要な事項は別に定める。

第 19 条 学生は学期ごとに履修する科目を選択し、所定の期日までに届け出なければならない。

(卒業の要件)

第 20 条 卒業の要件として、国際教養学部は合計 124 単位以上、教育学部は合計 128 単位以上を修得しなければならない。ただし、卒業要件の単位を充足しても、加算評定平均値が 1.5 に満たない場合、もしくは、別に定める英語習熟度の要件に満たない場合は、卒業できない。

- 2 国際教養学部の基礎教育科目、言語科目、海外研修科目、専門教育科目、キャリア教育科目、卒業論文、及び自主研究科目については、別に定める。
- 3 教育学部の教養基礎科目、教養発展科目、専門基礎科目、専門科目、実習科目、卒業論文については、別に定める。
- 4 秋季入学生に関する取扱は、別に定める。
- 5 特別進捗学生に関する取扱は、別に定める。

(教育職員免許状授与の所要資格取得のための履修等)

第 21 条 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び同法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に定める所要の単位を別表 9・別表 15 のとおり修得しなければならない。

- 2 前項の規定により、所要の単位を修得した者が取得できる教員の免許状・資格等の種類は、次のとおりとする。また、情報処理士、上級情報処理士、ビジネス実務士、保育士、こども音楽療育士、の資格を取ることができる。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
国際教養学部	比較文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 情報処理士 上級情報処理士 ビジネス実務士	英語 英語
教育学部	児童教育学科	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 保育士資格 こども音楽療育士 情報処理士 ベビートイ 2 級 キッズトイ 2 級	—

(評価・評定平均値(GPA)及び進級)

第 22 条 評価は次の基準による。

- A (秀) (100～90点)
- B (優) (89～80点)
- C (良) (79～70点)
- D (可) (69～60点)
- F (不可) (59点以下)
- P (合格) (単位のみを修得した場合)
- X (未修得) (単位を未修得の場合)
- O (履修中) (通年科目を履修中の場合)
- I (未評価) (教員が最終の評価を行なえない場合)
- W (辞退) (自主的に科目を辞退した場合)
- R (強制辞退) (教員の判断によって、強制的に科目を辞退させられた場合)
- N (認定) (本学で履修のうえ修得した単位以外で、本学が認定した単位の場合)
- S C (海外研修用代替科目) (海外研修用代替科目として履修のうえ修得した単位の場合)

2 評定平均値 (GPA) は、各科目の評価点 (A : 4、B : 3、C : 2、D : 1、F : 0) とその単位数の積を、卒業要件を満たす、A から F の評価を与えられた科目について合計し、その合計単位数で除したものをいう。

3 一定の成績を修めていない学生については、進級を許可されない場合がある。なお、進級に関する細則は、別に定める。

(単位算定基準)

第 23 条 1 年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め、35 週にわたることを原則とする。各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義 (授業) は、15 時間をもって 1 単位とする。
- (2) 演習は、15 時間又は 30 時間をもって 1 単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技は、30 時間から 45 時間をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文は学修の成果を評価し、単位数は国際教養学部では 7 単位、教育学部では 4 単位と定め、これを授与することができる。

3 第1項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第24条 卒業論文は、あらかじめ個別指導教員の同意を得て届け出た題目について作成し、卒業年次の所定の期日までに提出しなければならない。

(試験)

第25条 試験は、あらかじめ履修科目登録票を提出して履修した科目でなければ、これを受けることができない。

第26条 試験は、毎年2回、学期の終わりに実施する。ただし、学長が教授会の議を経て、定期試験に替え得る方法を認めた科目はこの限りではない。

2 前項の定期試験のほか、臨時に試験を行なうことがある。

(海外研修)

第27条 国際教養学部の学生は、2年次後期に、原則として全員海外研修を行なう。海外研修中でも学生納付金は、第48条により納入しなければならない。

2 その他の時期に海外研修を希望する者は、教授会の議を経て学長がこれを許可する。

3 学長は、教授会の議を経て、教育上有益であると判断した場合には、1年間に限って本学の修業年限に算入し、かつ30単位までを本学において修得したものと認定する。

4 本条の定めるもののほか、海外研修について必要な事項は別に定める。

(遠隔授業による修得単位)

第28条 学則23条第3項の授業方法により修得した単位は、60単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位の中に算入することができる。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第29条 在学中他の大学又は短期大学における授業科目の履修を希望する者は、学長がこれを許可する。

2 学長は、教授会の議を経て、教育上有益であると教授会が判断した場合には、他の大学又は短期大学との協議により、30単位を超えない範囲で本学において修得した単位とみなすことができる。

(本学以外の修得単位の認定)

第30条 本学以外で修得した単位については、学長が教授会の議を経て、本学における修得単位として60単位を超えない範囲で設定することができる。

第7章 休学、退学、除籍、転入学・編入学

(休学)

第31条 疾病その他特別の理由のため、2カ月以上就学することができないときは、保証人連署の上休学願を提出し、許可を得てその学年又は学期中に休学することができる。

2 疾病のために休学する場合には、医師の診断書を休学願に添えなければならない。

3 休学期間は、通算4年を超えることができない。

4 休学期間は在学年限に算入しない。

5 休学期間中の学生納付金は、第48条第3項に準ずる。

6 休学者が復学するときは、所定の期日までに復学願を提出し、許可を受けなければならない。復学は学期の始めからとする。

(退学)

第 32 条 疾病その他の事由により退学したい者は、保証人連署の上退学願を提出し、許可を受けなければならない。

第 33 条 前条によって退学を許可された者が、再入学を願い出るときは、教授会の議を経て、学長がこれを許可する。

2 ただし、再入学の願い出が学期の途中であるときは、次の学期から許可する。

第 34 条 退学を願い出る者は、その学期までの授業料等学生納付金を納入しなければならない。

(除籍)

第 35 条 学長は、次の各号の一に該当する場合は、教授会の議を経て除籍する。

- (1) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- (2) 所定の登録手続きをせず、また休学、退学の手続きをしない者
- (3) 授業料、諸費の未納が 3 ヶ月以上に及ぶ者
- (4) 在学年限を経過してもなお卒業に必要な単位を取得できない者
- (5) 休学期間を超えてもなお復学もしくは退学しない者
- (6) 死亡又は行方不明の者

2 除籍された者が再入学を願い出たときは、学長は教授会の議を経てこれを許可する。

(転学部、編入学・転入学、並びに既修得単位)

第 36 条 学長の許可を受けることなく、他の大学へ入学又は転学部、編入学・転入学することはできない。

2 学生が、他の学部に転学部の志願をしようとするときは、その所属する学部長に願い出て、当該学部及び志願する学部の教授会の議を経て、学長が許可する。

3 文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程・短期大学・高等専門学校・4 年制大学卒業生及び 4 年制大学の 2 学年修了者は、選考の上、他の大学等で修得した単位を認定して、原則として 3 年次に編入学を許可することができる。

4 転入学者に対しては、他の大学で既に修得した単位のうち、本学で認定した単位に応じて、今後履修すべき授業科目及び単位・時間数並びに在学年数を決定する。

5 大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、新たに本学の第 1 年次に入学した学生の既修得単位については、30 単位を超えない範囲で、本学において修得したものとして認定することができる。

第 8 章 卒業、学位

(卒業)

第 37 条 学長は、第 12 条に規定する修業年限以上本学に在学して、所定の単位を修得した者について、教授会の議を経て卒業を認定する。

(学位)

第 38 条 学長は、卒業を認定した者に、学部学科ごとに次の学位を授与する。

国際教養学部比較文化学科	学士（比較文化）
教育学部児童教育学科	学士（教育学）

第 9 章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人留学生及び交換留学生 (研究生)

第 39 条 本学において、特定の専門分野の研究を志願する者があるときは、教育研究に支障のない限り、教授会の議を経て、学長が研究生として入学又は就学を許可する。

- 2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力（国際教養学部については特に英語力）があると認められた者とする。
- 3 研究期間は、1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。
- 4 研究生が、登録した授業科目を履修し、その試験に合格したときは、単位の修得を認め、成績証明書を発行するものとする。
- 5 研究生は、本学学生に関する一般の諸規則を守らなければならない。
- 6 研究生は、授業担当教員の許可を得て、授業に出席するものとする。

（科目等履修生）

第 40 条 本学の学生以外の者で、単位の取得を目的として本学において特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、正規課程の学生の教育研究に支障のない範囲において、教授会の議を経て、学長が科目等履修生として履修を許可することができる。

- 2 履修を許可された者は、所定の期限内に諸費用を納入しなければならない。
- 3 科目等履修生は授業担当教員の許可を得て、授業に出席するものとする。
- 4 交換留学等に関する協定を結んでいる大学からの科目等履修生志願に関わる選考費用その他については別に定める。

（特別聴講学生）

第 41 条 他の大学又は短期大学の学生で、本学において特定授業科目を履修することを志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長が特別聴講学生として、これを許可する。

（外国人留学生）

第 42 条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学及び編入学を志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長が外国人留学生として、これを許可する。

（交換留学生）

第 43 条 国内外の大学の学生で、本学において交換留学生として教育を受けることを志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長がこれを許可する。期間は、1学期間又は2学期間とする。

第 44 条 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人留学生及び交換留学生に関する取扱いは、別に定める。

- 2 帰国生徒、社会人等に関する取扱いは別に定める。

第 10 章 入学検定料・入学金及び授業料等

（入学検定料）

第 45 条 本学学生（研究生を含む）並びに科目等履修生・特別聴講学生の入学検定料については、別に定める。

（入学金等）

第 46 条 本学学生（研究生を含む）の入学金は、別表 17 に定めるところによる。ただし、科目等履修生・特別聴講生は登録料を納入しなければならない。

(再入学金)

第 47 条 第 32 条の規定により、退学した者が再入学を許可された場合には、前条に定める入学金の 2 分の 1 を納入しなければならない。

(授業料・施設設備費)

第 48 条 本学学生（研究生を含む）の授業料・施設設備費は、別表 17 に定めるところによる。これを次の 2 期に分けて指定期日までに納入しなければならない。

前期（4 月 1 日から 9 月 30 日まで） 納期 4 月 10 日まで

後期（10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで） 納期 10 月 31 日まで

2 授業料・施設設備費は、欠席又は停学中であってもこれを減免しない。

3 学期が始まる前に休学願を提出した場合の休学期間中の授業料・施設設備費の納入は免除する。ただし、1 学期につき在籍料として 30,000 円を納入しなければならない。

なお、外国籍の学生が、兵役等出身国の定めにより、やむを得ず休学しなければならない場合は、学長がこれを免除することができる。

4 学期の途中において休学する場合は、その学期分の授業料等学生納付金を納入しなければならない。

(履修料)

第 49 条 科目等履修生・特別聴講生は、別に定める履修料を所定の期日までに納入しなければならない。

(特別試験料)

第 50 条 特別試験（追試験、再試験）の料金については、別に定める。

(退学・除籍者の学納金の取扱い)

第 51 条 退学、除籍の者であっても、既納の学生納付金は返還しない。また、未納のときは、直ちにこれを納入しなければならない。

(延納・分納の届出)

第 52 条 正当な事由により学生納付金を延納・分納しなければならないときは、納期日までに延納・分納を願い出て許可を受けなければならない。

(納入した学生納付金の取扱い)

第 53 条 既納の学生納付金は、いかなる事情があってもこれを返還しない。

第 11 章 奨学金

(奨学金制度)

第 54 条 本学に奨学金制度を設ける。奨学金制度に関する規程は、別に定める。

第 12 章 賞罰

(表彰)

第 55 条 学長は、学生で品行方正かつ学業成績優秀の者で、他の学生の模範となる者は表彰する。

(懲戒)

第 56 条 学長は、学生が、学則又は著しく学生の本分に反する行為を行なったときは、これを懲

戒する。

第 57 条 懲戒は譴責、停学及び退学とする。

2 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行なう。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなく、出席が常でない者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 58 条 前条の決定による懲戒に対し異議ある者は、学長に対して再審査を請求することができる。

第 13 章 その他の施設

第 59 条 本学の学生は、学校法人宮崎学園の国際交流センター及び図書館その他の施設を利用することができる。

2 前項の施設の利用に関する規程は、別にこれを定める。

第 14 章 公開講座及び各種講習会等

第 60 条 学校教育法第 107 条の定めるところに従って、本学における教育研究を広く開放し、文化の向上に資するため、大学休業中又は適時に本学に公開講座及び各種講習会等を開設することができる。

(教員免許状更新講習)

第 61 条 教育職員免許状に基づく、教員免許状の更新講習を実施することができる。

2 教員免許状更新講習に関する事項は別に定める。

附 則

本学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。ただし、比較文化学部は、改正後の学則第 2 条の規定にかかわらず当該学部 に在学する者が当該学部 に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

本学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成31年4月1日から施行する。

2 平成30年度以前の入学生の教育課程は従前の通りとする。

附 則

本学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、令和4年4月1日から施行する。

別表 1 国際教養学部 基礎教育科目

科目	単位数			卒業に必要な 単位数	
	必修	選択 必修	選択		
グローバル教育入門					
フレッシュマン・セミナー	2			8 単位	
世界市民入門	2				
情報通信技術概論	4				
総合科学					
自然・生命科学概論			2	各コースの卒業に必要な単位数は履修規程で別に定める	
数理思考概論			2		
人文科学					
美術史概論			2		
宗教学概論			2		
哲学概論			2		
文学概論			2		
歴史学概論			2		
社会科学					
人類学概論			2		
経済学概論			2		
政治学概論			2		
心理学概論			2		
社会学概論			2		
社会課題の研究					
異文化間コミュニケーションの理解			2		
国際社会の課題			2		
比較政治の課題			2		
人間関係の課題			2		
現代日本の芸術文化					
日本の大衆文化			2		
日本の美術			2		
日本の写真表現と撮影法			2		
ビジネス・マネジメント					
マーケティング		2			
会計学1		2			
会計学2			2		
簿記		2			
現代ビジネス論		2			
ビジネス実務総論1		2			
ビジネス実務総論2			2		
経営戦略入門			2		
英語教育					
英語学習のための言語学		2			
英語学習のための文学		2			

英語発音指導のための音韻学		2	
英語文学 A		2	
英語文学 B		2	
教職概論		2	
教職英語		2	
教育原理		2	
健康の科学		1	
体育実技		1	
日本国憲法		2	
教育課程論		2	
教育制度論		2	
第二言語習得論 1		2	
教育と ICT 活用の方法		1	
異文化理解概論		2	

別表 2 国際教養学部 言語科目

科 目	単位数			卒業に必要な単位数
	必修	選択必修	選択	
コミュニケーション英語 1	4			4 単位以上 各コースに必要な単位数は履修規程で別に定める
コミュニケーション英語 2	4			
コミュニケーション英語 3	4			
アカデミック英語 1	4			
アカデミック英語 2	4			
アカデミック英語 3	4			

言語科目 (日本語)

科 目	単位数			卒業に必要な単位数
	必修	選択必修	選択	
日本語表現 1		2 ☆		6 単位 日本人学生は☆から 6 単位
日本語表現 2		2 ☆		
日本語表現 3		2 ☆		
日本語初級		2 ◎		6 単位 到達度別クラス編成 留学生は◎から 6 単位 また、日本語上達者は「日本語表現」を受講することができる。
日本語中級		2 ◎		
日本語上級 1		2 ◎		
日本語上級 2		2 ◎		

別表 3 国際教養学部 海外研修科目

科 目	単位数		卒業に必要な単位数
	必修	選択	
英語 (E S L)	6		1 4 単位
自由研究	2		
地域研究	6		

別表 4 国際教養学部 専門教育科目 (グローバル・リベラル・アーツコース)

	科 目	必修	選択 必修	選択	
人 文 科 学	美術				各コースの 卒業に必要な 単位数は 履修規程で 別に定める
	美術と社会			2	
	国際美術の課題			2	
	言語と文学				
	英語による世界の諸文学			2	
	日本文学			2	
	比較文学			2	
	言語学の課題			2	
	英文学			2	
	米文学			2	
	中国研究			2	
	韓国研究			2	
	哲学と宗教				
	論理学			2	
	倫理学			2	
	ヨーロッパ主知主義史			2	
	宗教学の課題			2	
	歴史				
	日本の歴史			2	
	現代世界史			2	
比較歴史学			2		
近世ヨーロッパ			2		
歴史と歴史学の課題			2		
社 会 科 学	人類学				各コースの 卒業に必要な 単位数は 履修規程で 別に定める
	世界民族誌学			2	
	人類学の課題			2	
	政治学				
	比較外交政策論			2	
	日本の政治			2	
	国際政治経済論			2	
	心理学				
	異常心理学			2	
	人間の発達			2	
	カウンセリング			2	
	心理学の課題			2	
	ポジティブ心理学			2	
	社会学				
	社会学理論			2	
日本の社会			2		
社会学の課題			2		
学 際 的	研究法Ⅰ データ収集			2	
	研究法Ⅱ データ分析			2	
	グローバル・スタディの基礎1			2	
	グローバル・スタディの基礎2			2	

研究	紛争研究と平和論			2	各コースの卒業単位に必要な単位数は履修規程で別に定める
	英語ディベート論			2	
	国際コミュニケーション論			2	
	国際関係論			2	
	日本と東アジア			2	
	北米の社会問題			2	
	アルゴリズム的思考法			2	
	コンピューター・プログラミングの基礎			2	
	地球環境			2	
	プレゼンテーションとパブリック・スピーキング			2	
	現代の写真			2	

別表 5 国際教養学部 専門教育科目 (国際ビジネス・マネジメントコース)

科 目	必修	選択必修	選択	卒業に必要な単位数
ミクロ経済学		2		各コースの卒業に必要な単位数は履修規程で別に定める
マクロ経済学		2		
経営学特論		2		
国際貿易		2		
観光産業		2		
国際ビジネス			2	
産業組織論			2	
近代労働経済学			2	
開発の経済学			2	
日本経済 1			2	
日本経済 2			2	
経済学トピックス 1			2	
経済学トピックス 2			2	
投資運用 1			2	
投資運用 2			2	
コーポレートファイナンス 1			2	
コーポレートファイナンス 2			2	
アントレプレナーシップ研究 1			2	
アントレプレナーシップ研究 2			2	
ホスピタリティマネジメント 1			2	
ホスピタリティマネジメント 2			2	
ウェデザインの原則			2	
ビジネス英語			2	
企業実習			2	
ビジネス実践演習			2	
IBM インターンシップ			1	

別表 6 国際教養学部 専門教育科目 (英語教育コース)

科 目	必修	単位数		卒業に必要な 単位数科目
		選択 必修	選 択	
特別活動の指導法		2		コースの卒業 に必要な単位 数は履修規程 で別に定める
英語科教育法1		2		
第二言語習得論2		2		
北米の思想と文化		2		
イギリスの思想と文化1		2		
コミュニケーションのための教育技術と教育機器		2		
英語学1		2		
英語学2		2		
英語文学の理解		2		
英語文学分析1		2		
英語文学分析2			2	
英語科教育法2		2		
英語科教育法3		2		
英語科教育法4		2		
アカデミック・スピーキング		2		
アカデミック・ライティング		2		
多文化共生論		2		
イギリスの思想と文化2		2		
道德教育論		2		
総合的な学習の時間の指導法		1		
生徒・進路指導論		1		
教育相談		2		
教育心理学		2		
特別支援教育概論		2		
介護等体験		1		
事前・事後指導		1		
教育実習Ⅰ		2		
教育実習Ⅱ		2		
教職実践演習(中・高)		2		
指導のための英語表現		2		

別表 7 国際教養学部 キャリア教育科目

科 目	単位数			卒業に必要な 単位数
	必修	選択	自由	
キャリア・デザイン1		2		2単位選択必
日本事情1		2		
キャリア・デザイン2		2		
日本事情2		2		2単位選択必修
キャリア・デザイン3		2		
日本事情3		2		
キャリア・アクティビティー			1	2単位選択必修
情報通信技術技能の応用			2	
自然災害と防災			2	

別表 8 国際教養学部 卒業論文

科 目	単位数		卒業に必要な 単位数
	必修	選択	
卒業論文 1	2		6 単位
卒業論文 2	4		

別表 9 国際教養学部 自主研究科目

科 目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文科学の文献講読 1			2	
人文科学の文献講読 2			2	
社会科学の文献講読 1			2	
社会科学の文献講読 2			2	
中国語 1			2	
中国語 2			2	
韓国語 1			2	
韓国語 2			2	
日本の地域文化 1			1	
日本の地域文化 2			1	
日本の地域文化 3			1	
日本の地域文化 4			1	
企業簿記			2	

別表 10 国際教養学部 教職関連科目（教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目）、情報処理士に関する科目、上級情報処理士に関する科目、ビジネス実務士に関する科目

科 目	単位数		備考
	必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	英語学習のための言語学	2	
	英語発音指導のための音韻学	2	
	英語学 1	2	
	英語学 2	2	
	第二言語習得論 1	2	
	第二言語習得論 2		2
	英語による世界の諸文学		2
	英語学習のための文学	2	
	文学概論		2
	英語文学 A	2	
	英語文学 B	2	
	英語文学の理解		2
	英語文学分析 1		2
	英語文学分析 2		2
	英文学		2
米文学		2	

教職英語	2	
指導のための英語表現	2	
アカデミック・ライティング	2	
アカデミック・スピーキング	2	
ビジネス英語		2
異文化理解概論	2	
北米の思想と文化		2
多文化共生論		2
イギリスの思想と文化 1		2
イギリスの思想と文化 2		2
英語科教育法 1	2	
英語科教育法 2	2	
英語科教育法 3	2	
英語科教育法 4	2	

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
教育の基礎的 理解に関する 科目	教職概論	2		
	教育原理	2		
	教育心理学	2		
	教育制度論	2		
	特別支援教育概論	2		
	教育課程論	2		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	道徳教育論	2		
	総合的な学習の時間の指導法	1		
	特別活動の指導法	2		
	コミュニケーションのための教育技術と教育機器	2		
	教育と ICT 活用の方法		1	
	生徒・進路指導論	1		
	教育相談	2		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
教育実践に関 する科目	事前・事後指導	1		
	教育実習 I	2		
	教育実習 II	2		
	教職実践演習（中・高）	2		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
教育職員免許 法施行規則第 66条の6に	日本国憲法	2		
	健康の科学	1		
	体育実技	1		

定める科目	アカデミック英語 1～3	4	
	情報通信技術概論	4	

情報処理士資格

領域	科目名	単位数		備考
		必修	選択	
領域 1	情報通信技術概論	4		総修得単位数 10 単位以上
	卒業論文 1		2	
領域 2	研究法 1：データ収集	2		
	研究法 2：データ分析		2	
領域 3	フレッシュマン・セミナー	2		
	世界市民入門		2	

上級情報処理士資格

領域	科目名	単位数		備考
		必修	選択	
領域 1	情報通信技術概論	4		総修得単位数 24 単位以上
	情報通信技術技能の応用		2	
	卒業論文 1		2	
領域 2	アルゴリズム的思考法	2		
	コンピューター・プログラミングの基礎		2	
	研究法 1：データ収集	2		
	研究法 2：データ分析		2	
領域 3	フレッシュマン・セミナー	2		
	世界市民入門		2	
	プレゼンテーションとパブリック・スピーキング		2	
	コミュニケーションのための教育技術と教育機器		2	
	国際コミュニケーション論		2	
	キャリア・デザイン 1		2	
	キャリア・デザイン 2		2	
キャリア・デザイン 3		2		

ビジネス実務士資格

領域	科目名	単位数		備考
		必修	選択	
領域 1	経済学概論		2	選択科目の単位数 10 単位以上
	国際ビジネス論		2	
	フレッシュマン・セミナー		2	
	情報通信技術概論		4	
	簿記	2		
領域 2	世界市民入門	2		
	キャリア・デザイン 1		2	
	キャリア・デザイン 2		2	
領域 3	国際コミュニケーション論	2		
	キャリア・デザイン 3		2	
	IBM インターンシップ		1	

他大学履修・読み替え認定科目

科 目	単位数		備考
	必修	選択	
人文科学認定科目 1		2	
人文科学認定科目 2		2	
人文科学認定科目 3		2	
人文科学認定科目 4		3	
人文科学認定科目 5		3	
人文科学認定科目 6		3	
社会科学認定科目 1		2	
社会科学認定科目 2		2	
社会科学認定科目 3		2	
社会科学認定科目 4		3	
社会科学認定科目 5		3	
社会科学認定科目 6		3	
地域研究認定科目 1		2	
地域研究認定科目 2		2	
地域研究認定科目 3		2	
地域研究認定科目 4		3	
地域研究認定科目 5		3	
地域研究認定科目 6		3	
地域研究認定科目 7		3	

別表 11 国際教養学部 グローバル・リーダーシップ・プログラム科目

科 目	単位数		備考
	必修	選択	
国際政治経済論	2◎		◎から2単位 ☆から2単位、 それぞれ必修
国際関係論	2◎		
論理学	2☆		
倫理学	2☆		
比較歴史学		2	
国際コミュニケーション		2	
グローバル・スタディの基礎1		2	
グローバル・スタディの基礎2		2	
紛争研究と平和論		2	

別表 12 教育学部 教養教育分野（教養基礎科目・教養発展科目）

科 目		単位数		卒業に必要な 単位数
		必修	選択	
教 養 基 礎 科 目	フレッシュマン・セミナー	2		必修科目 8 単位
	忍ヶ丘教養Ⅰ	2		
	忍ヶ丘教養Ⅱ	2		
	忍ヶ丘教養Ⅲ	2		
教 養 発 展 科 目	文学		2	2 単位選択必修
	教師とは何か～史的省察～		2	
	倫理学		2	
	心理学概論		2	
	日本語表現		2	
	音楽と文化		2	
	こども音楽療育概論		2※	※卒業単位に含まれない。
	こども音楽療育演習		1※	
	こども音楽療育実習		1※	
	おもちゃと絵本Ⅰ		1※	
	おもちゃと絵本Ⅱ		1※	
	国際社会論		2	
	現代社会と歴史		2	6 単位選択必修 但し、プログラミング入門は、情報 処理士資格取得 には必修
	日本国憲法	2		
	数学と生活		2	
	環境と科学		2	
	生命と科学		2	
	食の科学		2	
	自然災害と防災		2	
	プログラミング入門		2	
	情報処理	2		
	教育と ICT 活用の方法		1	
	英語Ⅰ	2		必修科目 10 単位、 選択科目 10 単位 （選択必修 8 単位 を含む。）以上
英語Ⅱ		2		
英語コミュニケーションⅠ	1			
英語コミュニケーションⅡ	1			
Special Studies in EnglishⅠ		1		
Special Studies in EnglishⅡ		1		
健康の科学	1			
体育実技	1			
子どもと食育		2		

別表 1 3 教育学部 専門教育分野（専門基礎科目・専門科目・実習科目）

科 目		単位数		卒業に必要な 単位数
		必修	選択	
専門 基礎 科目	教職概論	2		専門教育分野の 必修科目19単 位、選択科目77 単位以上
	教育原理	2		
	教育心理学	2		
	教育制度論	2		
	特別支援教育概論	2		
	保育原理		2	
	子ども家庭福祉		2	
	社会福祉		2	
	子ども家庭支援論		2	
	社会的養護Ⅰ		2	
	保育者論		2	
専 門 科 目	保育の心理学		2	
	子ども家庭支援の心理学		2	
	子どもの理解と援助		1	
	子どもの保健		2	
	子どもの健康と安全		1	
	子どもの食と栄養		2	
	臨床心理学		2	
	国語Ⅰ（書写を含む）	2		
	国語Ⅱ		2	
	社会Ⅰ		2	
	社会Ⅱ		2	
	算数Ⅰ	2		
	算数Ⅱ		2	
	理科Ⅰ		2	
	理科Ⅱ		2	
	生活		2	
	音楽	2		
	図画工作		2	
	家庭		2	
	体育		2	
	英語		2	
	ピアノ・声楽Ⅰ	1		
	ピアノ・声楽Ⅱ		1	
	ピアノ・声楽Ⅲ		1	
	ピアノ・声楽Ⅳ		1	
	子どもの音楽活動	1		
	国語科教育法Ⅰ		2	
	国語科教育法Ⅱ		2	
	社会科教育法Ⅰ		2	
	社会科教育法Ⅱ		2	
算数科教育法Ⅰ		2		
算数科教育法Ⅱ		2		
理科教育法Ⅰ		2		

	理科教育法Ⅱ	2
	生活科教育法	2
	音楽科教育法	2
	図画工作科教育法	2
	家庭科教育法	2
	体育科教育法	2
	英語科教育法Ⅰ	2
	英語科教育法Ⅱ	2
	道德教育の指導法	2
	総合的な学習の時間の指導法	1
	特別活動の指導法	2
	特別支援教育概論	2
	教育の方法と技術	2
	学級経営論	2
	協同学習論	2
	教育課程論	2
	環境教育論	2
	学習の科学	2
	生徒指導・進路指導	2
	幼児理解	2
	教育相談	2
	保育課程論	2
	保育内容総論	1
	保育内容指導法（健康）	2
	保育内容指導法（人間関係）	2
	保育内容指導法（環境）	2
	保育内容指導法（言葉）	2
	保育内容指導法（音楽表現）	2
	保育内容指導法（造形表現）	2
	障害児保育	2
	子育て支援	1
	社会的養護Ⅱ	1
	乳児保育Ⅰ	2
	乳児保育Ⅱ	1
	ことばと遊び	2
	音楽と遊び	2
	造形表現演習	1
	幼児体育演習	1
実習科目	教育実習指導	1
	教育実習Ⅰ（小学校）	4
	教育実習Ⅰ（幼稚園）	2
	教育実習Ⅱ（幼稚園）	2
	保育実習指導Ⅰ	2
	保育実習Ⅰa	2
	保育実習Ⅰb	2
	保育実習指導Ⅱ	1

保育実習Ⅱ		2
保育実習指導Ⅲ		1
保育実習Ⅲ		2
教職実践演習(幼・小)		2
保育実践演習		2
介護等体験		1
学校インターンシップ	1	

別表 14 教育学部 卒業論文

科 目	単位数		卒業に必要な 単位数
	必修	選択	
卒業論文	4		4単位

別表 15 教育学部 教職関連科目(教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する教科、大学が独自に設定する科目、施行規則66条の6に関する科目、領域及び保育内容の指導法に関する科目、領域に関する専門的事項、告示別表第1による教科目、告示別表第2による教科目、告示による教科目)、こども音楽療育に関する科目、情報処理士に関する科目、一般社団法人日本知育玩具協会認定資格に関する科目

(1) 小学校教諭一種免許状

科 目	単位数		備考	
	必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	国語Ⅰ(書写を含む)	2	30単位以上 ★から2科目4単位 選択必修	
	国語Ⅱ			2★
	社会Ⅰ	2		
	社会Ⅱ			2★
	算数Ⅰ	2		
	算数Ⅱ			2★
	理科Ⅰ	2		
	理科Ⅱ			2★
	生活			2●
	音楽	2		
	ピアノ・声楽Ⅰ	1		
	ピアノ・声楽Ⅱ		1	
	ピアノ・声楽Ⅲ		1	
	ピアノ・声楽Ⅳ		1	
	図画工作		2●	
	家庭		2	
	体育		2●	
	英語	2		
	国語科教育法Ⅰ	2		
	国語科教育法Ⅱ		2■	
	社会科教育法Ⅰ	2		
社会科教育法Ⅱ		2■		
算数科教育法Ⅰ	2			
			●から1科目2単位 選択必修	
			■から2科目4単位 選択必修	

	算数科教育法Ⅱ		2 ■	
	理科教育法Ⅰ	2		
	理科教育法Ⅱ		2 ■	
	生活科教育法	2		
	音楽科教育法	2		
	図画工作科教育法	2		
	家庭科教育法	2		
	体育科教育法	2		
	英語科教育法Ⅰ	2		
	英語科教育法Ⅱ	2		

科 目		単位数		備考
		必須	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	2		10 単位以上
	教職概論	2		
	教育制度論	2		
	教育心理学	2		
	特別支援教育概論	2		
	教育課程論	2		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の指導法	2		10 単位以上
	総合的な学習の時間の指導法	1		
	特別活動の指導法	2		
	教育の方法と技術	2		
	教育と ICT 活用の方法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
教育実践に関する教科	教育実習指導	1		5 単位以上
	教育実習Ⅰ（小学校）	4		
	教育実践演習（幼・小）	2		2 単位以上

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	子どもの音楽活動	1		2 単位以上
	学級経営論	2		
	プログラミング入門		2	
	協同学習論		2	
	環境教育論		2	
	学習の科学		2	

介護等体験	1	
学校インターンシップ	1	

科 目	単位数		備考	
	必修	選択		
施行規則 66条の6に 関する 科目	日本国憲法	2	8 単位以上	
	健康の科学	1		
	体育実技	1		
	英語Ⅰ	2		
	英語Ⅱ			2
	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
	情報処理	2		

(2) 幼稚園教諭一種免許状

科 目	単位数		備考
	必修	選択	
領域及び 保育内容 に関する 科目	保育内容総論	1	「領域及び保育内容 の指導法に関する科 目」「領域に関する専 門的事項」について 併せて16単位以上
	保育内容指導法（健康）	2	
	保育内容指導法（人間関係）	2	
	保育内容指導法（環境）	2	
	保育内容指導法（言葉）	2	
	保育内容指導法（音楽表現）	2	
	保育内容指導法（造形表現）	2	

科 目	単位数		備考	
	必修	選択		
領域に 関する 専門的 事項	国語Ⅰ（書写を含む。）	2	「領域及び保育内容 の指導法に関する科 目」「領域に関する専 門的事項」について 併せて16単位以上 □から1科目2単位 選択必修	
	国語Ⅱ			2
	算数Ⅰ	2		
	算数Ⅱ			2
	生活			2□
	音楽	2		
	ピアノ・声楽Ⅰ	1		
	ピアノ・声楽Ⅱ			1
	ピアノ・声楽Ⅲ			1
	ピアノ・声楽Ⅳ			1
	図画工作			2□
	体育			2□

科 目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎的 教育の 理解 に関する 科目	教育原理	2	10 単位以上
	教職概論	2	
	教育制度論	2	
	教育心理学	2	

	臨床心理学		2
	特別支援教育概論	2	
	教育課程論	2	
	保育課程論	2	

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	2		4 単位以上
	教育と ICT 活用の方法		1	
	幼児理解	2		
	教育相談	2		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
科 目 す 践 教 る に 育 教 関 実	教育実習指導	1		5 単位以上
	教育実習Ⅰ（幼稚園）	2		
	教育実習Ⅱ（幼稚園）	2		
	教育実践演習（幼・小）	2		2 単位以上

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
定 大 学 が 独 自 に 設 置 す る 科 目	子どもの音楽活動	1		14 単位以上 「大学が独自に開設する科目」の選択科目又は最低履修単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて 10 単位以上
	環境教育論		2	
	ことばと遊び		2	
	音楽と遊び	2		
	プログラミング入門		2	
	学校インターンシップ	1		

科 目		単位数		備考
		必修	選択	
施 行 規 則 関 する 科 目 66 条 の 6 に	日本国憲法	2		8 単位以上
	健康の科学	1		
	体育実技	1		
	英語Ⅰ	2		
	英語Ⅱ		2	
	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
情報処理	2			

(3) 保育士資格

	科 目	単位数		備考
		必修	選択	
告示別表第1による教科目	保育原理	2		51 単位以上
	教育原理	2		
	子ども家庭福祉	2		
	社会福祉	2		
	子ども家庭支援論	2		
	社会的養護 I	2		
	保育者論	2		
	保育の心理学	2		
	子どもの家庭支援の心理学	2		
	子どもの理解と援助	1		
	子どもの保健	2		
	子どもの健康と安全	1		
	子どもの食と栄養	2		
	保育課程論	2		
	保育内容総論	1		
	保育内容指導法 (健康)	2		
	保育内容指導法 (人間関係)	2		
	保育内容指導法 (環境)	2		
	乳児保育 I	2		
	乳児保育 II	1		
	障害児保育	2		
	社会的養護 II	1		
	子育て支援	1		
	音楽と遊び	2		
	造形表現演習	1		
	幼児体育演習	1		
	保育実習 I a	2		
	保育実習 I b	2		
保育実習指導 I	2			
保育実践演習	2			

	科 目	単位数		備考
		必修	選択	
告示別表第2による教科目	教職概論	2		9 単位以上 (うち保育実習指導 II 又は保育実習指導 III から 1 単位以上、 保育実習 II 又は保育実習 III から 2 単位以上) ○から 1 単位選択必修 ◎から 2 単位選択必修 ただし、保育実習指導 II と保育実習 II 又は、保育実習指導 III と保育実習 III の組み合わせとす
	幼児理解		2	
	臨床心理学		2	
	保育内容指導法 (言葉)		2	
	保育内容指導法 (音楽表現)		2	
	保育内容指導法 (造形表現)		2	
	子どもの音楽活動	1		
	ことばと遊び	2		
	保育実習指導 II		1 ○	
	保育実習指導 III		1 ○	

保育実習Ⅱ		2◎	ること。
保育実習Ⅲ		2◎	

	科 目	単位数		備考
		必修	選択	
告示による 教科目	文学		2	8 単位以上 2 単位選択必修
	教師とは何か～史的省察～		2	
	倫理学		2	
	心理学概論		2	
	日本語表現		2	
	音楽と文化		2	
	国際社会論		2	
	現代社会と歴史		2	
	日本国憲法	2		2 単位選択必修
	数学と生活		2	
	環境と科学		2	
	生命と科学		2	
	食の科学		2	
	情報処理	2		
	子どもと食育		2	
	英語Ⅰ	2		
	英語Ⅱ		2	
	英語コミュニケーションⅠ	1		
	英語コミュニケーションⅡ	1		
	健康の科学	1		
体育実技	1			

(4) こども音楽療育士資格

領域	科目名	単位数		備考
		必修	選択	
領域 1	教育心理学	2		4 単位以上修得
	保育の心理学		2	
	障害児保育		2	
	特別支援教育概論		2	
	心理学概論		2	
	臨床心理学		2	
	子どもの保健		2	2 単位以上修得
	子どもの健康と安全		2	
	保育内容指導法（健康）		2	
	保育内容指導法（環境）		2	
	生命と科学		2	4 単位以上修得
	ピアノ・声楽Ⅰ	1		
	ピアノ・声楽Ⅱ		1	
	子どもの音楽活動	1		
	音楽と遊び		2	
	音楽科教育法		2	
	音楽		2	
	音楽と文化		2	

領域 2	こども音楽療育概論	2		
	こども音楽療育演習	1		
領域 3	こども音楽療育実習	1		

(5) 情報処理士資格

領域	授業科目名	単位数		備考
		必修	選択	
領域 1	情報処理	2		
	倫理学		2	
領域 2	プログラミング入門	2		
	教育の方法と技術	2		
領域 3	フレッシュマン・セミナー		2	
	忍ヶ丘教養Ⅰ		2	
	忍ヶ丘教養Ⅱ		2	
	忍ヶ丘教養Ⅲ	2		
	日本語表現		2	

(6) 一般社団法人日本知育玩具協会認定資格に関する科目

授業科目名	単位数		備考
	必修	選択	
おもちゃと絵本Ⅰ		1	ベビー玩具 2 級およびキッズ玩具 2 級取得に必要な科目
おもちゃと絵本Ⅱ		1	

別表 16 高等コンソーシアム宮崎との単位互換科目、一般社団法人学修評価・教育開発協議会の単位互換科目、分野・学部横断カリキュラム、学部共同開講する教職科目

(1) 高等コンソーシアム宮崎との単位互換科目

科目	単位数		備考
	必修	選択	
道徳教育論	2		国際教養学部
日本国憲法	2		
健康の科学	1		

(2) 一般社団法人学修評価・教育開発協議会の単位互換科目

科目	単位数		備考
	必修	選択	
経験学習Ⅰ		2	
経験学習Ⅱ		2	
日本の地域文化		2	

(3) 分野・学部横断カリキュラム

科目	単位数		備考
	必修	選択	
フレッシュマン・セミナー	2		国際教養学部
世界市民入門	2		
情報通信技術概論	2		
文学		2	

教師とは何か～史的省察～		2	教育学部 2単位選択必修 4単位選択必修
倫理学		2	
心理学概論		2	
日本語表現		2	
音楽と文化		2	
数学と生活		2	
環境と生活		2	
生命と科学		2	
食の科学		2	
自然災害と防災		2	
情報処理	2		

(4) 共通開設科目

科目	単位数	備考
教育原理	2	全学共通開設
教職概論	2	
教育制度論	2	
特別支援教育概論	2	
教育課程論	2	
総合的な学習の時間の指導法	1	
特別活動の指導法	2	
教育とICT活用の方法	1	
教育相談	2	

別表 17 入学金・授業料・施設設備費

入 学 金	200,000円	
授 業 料	国際教養学部	850,000円
	教育学部	750,000円
施設設備費	260,000円	

履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、宮崎国際大学（以下「本学」という。）学則第18条の規定により、本学教育学部の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(学期)

第2条 学則第10条の規定に基づき、本学の授業は、2学期制とする。

前期 4月1日より9月30日まで

後期 10月1日より3月31日まで

(学科、コース)

第3条 学部に次の学科を置き、コースを設ける。

2 児童教育学科

小学校教諭・幼稚園教諭（小幼）コース

幼稚園教諭・保育士（幼保）コース

コースへの配属は、別に定める手続きを経て1年次前期末に仮決定する。なお、コース仮決定後の変更を希望する学生は、1年次後期末に再度調整し、決定する。この後の変更は原則として認めない。また、コース配属において、著しい偏りが生じる場合には、幼保コースについて25人を上限として調整する。

(授業科目等)

第4条 授業科目は、教養基礎科目、教養発展科目、専門基礎科目、専門科目・実習科目及び卒業論文に区分する。

2 前項の授業科目は、必修科目、選択科目に分類する。

3 コース別の授業の名称、単位数及び卒業に必要な単位数は、表1、2のとおりとする。

(単 位)

第5条 学則第23条の規定に基づき、授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間をもって1単位とする。

(2) 演習については、15時間（各教科の教育法など）又は30時間（ピアノ・声楽、子どもの音楽活動、子どもの英語活動など）をもって1単位とする。

(3) 実習及び実技等については、30時間から45時間をもって1単位とする。

(授業科目等の公示)

第6条 各学期に開講する授業科目、担当教員、授業計画等を記した授業概要（シラバス）及び授業時間割等は年度初めに公示する。

2 授業科目の一部については、年度により開講しないことがある。

3 授業科目の一部について、受講生数を制限することがある。また、受講者数が著しく少ない場合、その授業科目によっては不開講となることがある。

(授 業)

第7条 授業時間及び休講等については、下記のとおりとする。

(1) 授業時間

- 1 時限目 9：05～10：35
- 2 時限目 10：45～12：15
- 3 時限目 13：00～14：30
- 4 時限目 14：40～16：10
- 5 時限目 16：20～17：50

(2) 休講・臨時休校・補講

① 休講

本学又は授業担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがある。休講通知は学生課電子掲示板及びメールで連絡する。

② 臨時休校

宮崎県南部・平野部に暴風・大雨・洪水警報が同時に発令された場合は休校とする。ただし、警報のいずれかが解除された場合の授業の取扱いは次のとおりとする。

警報解除時刻	授業開始時刻
午前6時まで	平常どおり
午前6時から午前10時まで	3時限から
午前10時以降	終日休講

注1 交通機関が麻痺し、通学不能となった場合は、公欠扱いとする。

注2 電話による問い合わせには、混乱を避けるため、応じない。

③ 補講

補講は、担当教員が独自に行う場合及び行事予定に定められた期間内に実施する場合とがある。後者の場合は、学生課電子掲示板及びメールで連絡する。

(履修登録)

第8条 学生は、学則第19条の定めるところにより、毎学年度学期初めの所定の期日までに、履修しようとする授業科目について、履修登録を行わなければならない。ただし、原則として、上級年次に配当されている授業科目の履修登録はできない。

- 2 登録等は、所定の履修計画（案）を作成し、担当教員の承認を受けた後、登録期間中にWeb登録を行わなければならない。
- 3 登録内容に不備あるいは変更がある場合は、所定の期日までに修正の手続きを行い、確定しなければならない。
- 4 すでに単位を修得した授業科目については、学部長の許可により必要に応じて再履修登録することができる。
- 5 授業時間が重複する授業科目は登録することはできない。
- 6 教育・保育実習の登録・履修は、原則として別に定める要件を満たした場合に許可される。

(欠席の取り扱い)

第9条 学生は前条の履修の届出を行った授業に出席しなければならない。

- 2 病気又はその他やむを得ない事由により授業を欠席するときは所定の手続きに従い届出なければならない。
- 3 次の各号の一に該当する事由により授業を欠席する場合は、これを欠席として扱わない。

- (1) 服喪（3親等まで）として別に定める日数。
- (2) 学校保健安全法第19条に定める出席停止又はこれに類する措置を大学が指示した場合。
- (3) 自己に責任のない事故又は事件。
- (4) 課外活動等で九州大会以上の大会への参加など。
- (5) そのほか、学部長がやむを得ないと認めたとき。

（登録単位の制限）

第10条 学生は適切に授業科目を履修するため、履修科目として年間に登録することができる単位数の上限（以下「上限単位数」という。）は、原則として48単位までとする。ただし、卒業論文、演習（外国語を除く）、実験、実習及び集中講義などの授業科目は除く。

（定期試験）

第11条 定期試験は、原則として所定の試験期間中に行うものとする。なお、実施期日は2週間前までに公示する。

- 2 定期試験は、100点法で採点し、その得点を学修の評価とする。
- 3 次の各号の一に該当する者には、定期試験の受験資格が与えられない。
 - (1) 当該学期の履修登録をしていない者
 - (2) 授業出席回数が3分の2に満たない者
 - (3) 学費を指定期間内に納入していない者
 - (4) 休学及び停学中の者
 - (5) その他

（不正行為）

第12条 定期試験等における次の行為について、学則56条及び57条により教授会の議を経て処分を行う他、当該科目又は当該学期の全科目の単位認定を無効とする。

- (1) 試験時において監督者の指示に従わない場合。
- (2) 当該試験においてカンニング等の不正行為で解答したと認められた場合。
- (3) 当該授業の履修登録者以外が当該試験の受験者と偽って受験した場合。
- 2 前項(1)～(3)による不正行為を認めた場合は、直ちに当該試験の受験を中止させ、解答用紙を回収の上退場を命ずるものとする。
- 3 第1項(3)による不正の場合は当該受験者及び学生証の貸与を行った者も処分の対象とする。

（追試験）

第13条 追試験は、下記に述べる病気、災害その他特別の事情により受験できなかった場合に追試験を受けることができる。定期試験を休んだ日の翌日から7日以内に、「追試験願」及び以下の証明書類を教務係へ提出すること。なお、正当な理由と判断されない場合は、追試験を許可しない。

（定期試験を欠席した理由と証明書類）

定期試験を欠席した理由	「追試験願」に添付する証明書類
天災その他非常災害	特になし
交通機関の突発事故	遅延証明書（公共交通機関の場合） 事故証明書（車等運転時の事故）など

負傷又は疾病	診断書など
三親等内の親族の死亡による忌引	死亡通知書など
就職試験の受験	就職試験の通知文（日時・場所・試験内容等がわかるもの）など
その他教育学部が相当と認める理由	事前に教務係に申し出ること

2 追試験に関する不正行為等は第 12 条を準用する。

（再試験）

第 14 条 定期試験を受験して不合格になった者に対して担当教員が必要とみとめた場合、本人の申請により所定の手続きを経て再試験を受験することができる。

- 2 再試験は、学期末の所定の時期に行う。
- 3 再試験の成績は、最高 60 点とする。ただし、実験、実習及び実技等の授業科目については、再試験を行わない。
- 4 再試験に関する不正行為等は第 12 条を準用する。

（成績評価の基準）

第 15 条 成績の評価は、試験又はこれに代わる方法によって判定する。

2 成績評価は、学則第 22 条に規定する評価・評定平均値を用いて判定する。なお、GPA は、以下の計算式により算出する。すなわち、1 人の学生が修得してきた授業科目の成績評定（評価）ごとに、以下の表のように GP (Grade Point) を与え、それを平均したものを GPA (Grade Point Average) という。

成績評価	評 点	G P
秀 (A)	90 点～100 点	4
優 (B)	80 点～89 点	3
良 (C)	70 点～79 点	2
可 (D)	60 点～69 点	1
不可 (F)	59 点以下	0

$$GPA = (A \text{ の修得単位数} \times 4 + B \text{ の修得単位数} \times 3 + C \text{ の修得単位数} \times 2 + D \text{ の修得単位数} \times 1) / \text{履修登録単位数}$$

- 3 演習、実習、実技等の授業科目については、製作品、レポート等をもって成績評価に加えることができる。
- 4 学生は、成績評価に疑義があるときは、所定の期日までに教務部に申し出ることができる。

（実習科目の履修）

第 16 条 教員免許状及び保育士資格の取得に関わる実習科目の履修は、それぞれの免許状・資格の取得希望者のみを対象とする。

- 2 前項の実習科目を履修するに当たっては、所定の期日までに資格・免許状の「取得希望届」を学生課に提出しなければならない。
- 3 第1項の実習科目に関する履修要件は別に定める。

(卒業論文の登録)

第17条 卒業論文を登録できる者は、次の要件を満たさなければならない。

- (1) 各学期のGPAの平均値が1.5以上であること。
- (2) 卒業要件単位数128単位のうち、90単位以上を修得していること。
- (3) 卒業論文の取り扱い(題目、発表、提出等)は別に定める。

(卒業要件)

第18条 4年以上在学し、128単位以上を次の基準に従って修得しなければならない。

- (1) 教養教育分野については、教養基礎科目で必修8単位、教養発展科目で必修10単位及び選択科目10単位以上、合計28単位以上を修得しなければならない。
- (2) 専門教育分野については、専門基礎科目で必修8単位、専門科目で必修8単位、専門科目並びに実習科目を含めた科目から選択80単位以上、合計96単位以上を修得しなければならない。
- (3) 卒業論文として、4単位修得しなければならない。

(卒業見込み証明書)

第19条 卒業見込み証明書は、前年度末までに総修得単位数が90単位以上の者に交付することができる。

(編入学)

第20条 編入学は、当該年度の学生定員50人に欠ける人数について、次の要件を満たし、かつ別に定める編入学試験に合格したものについて、原則として3年次への編入を認める。なお、編入学は平成28年度から行う。

- 1) 短期大学を卒業した者及び平成28年度卒業見込みの者
 - 2) 大学を卒業した者及び平成28年度卒業見込みの者
 - 3) 大学に2年以上在学し、62単位以上取得した者
- 2 編入学における単位認定は別に定める。なお、単位認定の上限は62単位とし、教授会の議を得て認定する。

(他大学等における授業科目の履修)

第21条 学則第29条に規定する本学在学中における他大学等での履修を希望する者は、履修しようとする授業科目について、所定の期日までに他大学等授業科目履修願を学生課に提出しなければならない。

- 2 前項の規定は、留学、その他やむを得ない事情があると認められる場合には、他大学等における単位の修得後の届出によることができる。
- 3 単位の認定は別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第22条 学則第30条に規定する入学前の授業科目の単位の修得の認定を希望する者は、所定の期日までに教務課に既修得単位認定願を提出しなければならない。

- 2 既修得単位の認定は別に定める。

(補則)

第 23 条 学則及びこの規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から一部改正・施行する。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から一部改正・施行する。

表1 開講授業科目一覧表

科目区分		授業科目の名称	科目番号	配当年次	単位数	授業形態	担当教員名	備考	
教養基礎科目	忍ヶ丘教養	フレッシュマン・セミナー	MIC 101	1前	2	講義	桑原重雄・保田昌秀		
		忍ヶ丘教養Ⅰ	SIN 103	1後	2	講義			
		忍ヶ丘教養Ⅱ	SIN 203	2前	2	講義	守川美輪・田川一希・山下愛実		
		忍ヶ丘教養Ⅲ* ^①	SIN 204	2後	2	講義	坂倉真衣・田川一希・山下愛実		
教養教育分野科目	人と文化	文学	JIN 101	1後	2	講義	菅 邦男*		
		教師とは何かー史的省察ー	JIN 108	1後	2	講義	河原 国男		
		倫理学	JIN 103	1後	2	講義	横山 裕*		
		心理学概論	JIN 104	1前	2	講義	小澤 拓大*	併任(短大)	
		日本語表現	JIN 105	1前	2	講義	松本 俊二*		
		音楽と文化	JIN 106	1前	2	講義	小澤 真美子*	併任(短大)	
		こども音楽療育概論	KOD 201	2前	2	講義	日高 まり子		
		こども音楽療育演習	KOD 202	2後	1	演習	日高 まり子		
		こども音楽療育実習	KOD 203	2通	1	実習	日高 まり子		
		おもちゃと絵本Ⅰ	KOD 101	1後	1	講義	藤田篤・堀之内信子		
		おもちゃと絵本Ⅱ	KOD 102	1前	1	講義	藤田篤・堀之内信子		
		国際・社会系	国際社会論	KOK 202	2前	2	講義	藤井 久美子*	
		現代社会と歴史	KOK 201	2前	2	講義	未定		
		日本国憲法	KOK 101	1前	2	講義	佐保 忠智*		
	自然科学系	数学と生活	SIZ 101	1後	2	講義	渡邊 耕二		
		環境と科学	SIZ 102	1後	2	講義	田川 一希		
		生命と科学	SIZ 103	1後	2	講義	坂倉 真衣		
		食の科学	SIZ 301	1前	2	講義	福田 亘博		
		自然災害と防災	SIZ 202	2.3.4後	2	講義	福田 亘博		
		プログラミング入門	SIZ 106	3前	2	演習	御手洗 正文*	併任(短大)	
		情報処理	SIZ 105	1前	2	演習	保田 昌秀		
		教育とICT活用の方法	SIZ 107	1後	1	講義	小林 博典*		
		外国語系	英語Ⅰ	GAI 101	1前	2	講義	石濱 博之	
			英語Ⅱ	GAI 201	1後	2	講義	石濱 博之	
	英語コミュニケーションⅠ		GAI 102	1後	1	演習	マーク・ウォーターフィールド		
	英語コミュニケーションⅡ		GAI 202	2前	1	演習	ポール・リチャーズ		
	Special Studies in EnglishⅠ		GAI 302	3前	1	演習	マーク・ウォーターフィールド		
	Special Studies in EnglishⅡ		GAI 401	3後	1	演習	ポール・リチャーズ		
	健康・体育系	健康の科学	KEN 101	1後	1	講義	村上 昇		
		体育実技	KEN 102	1前	1	実技	後藤 芳郎*		
子どもと食育		KEN 301	1後	2	講義	福田 亘博			
専門教育分野科目	専門基礎科目	教職概論	SEN 101	1前	2	講義	河原 国男		
		教育原理	SEN 102	1後	2	講義	河原 国男		
		教育心理学	SEN 103	1後	2	講義	野崎 秀正*		
		教育制度論	SEN 301	3後	2	講義	湯田 拓史*		
		特別支援教育概論	SEN 325	3後	2	講義	安東 未廣		
		保育原理	SEN 104	1前	2	講義	山下 愛実		
		子ども家庭福祉	SEN 305	3後	2	講義	高橋 博*		
		社会福祉	SEN 303	3前	2	講義	高橋 博*		
		子どもの家庭支援論	SEN 402	3後	2	演習	木村 匡登*	併任(短大)	
		社会的養護Ⅰ	SEN 306	3後	2	講義	高橋 博*		
	保育者論	SEN 105	1後	2	講義	山下 愛実			
	対象の理解	保育の心理学	TAI 204	2前	2	講義	野崎 秀正*		
		子ども家庭支援の心理学	TAI 205	3前	2	講義	木村 匡登*	併任(短大)	
		子どもの理解と援助	TAI 206	3前	1	演習	野崎 秀正*		
		子どもの保健	TAI 303	3前	2	講義	花畑 明美*		
		子どもの健康と安全	TAI 304	3後	1	演習	花畑 明美*		
		子どもの食と栄養	TAI 101	2後	2	演習	福田 亘博		
臨床心理学		TAI 203	2後	2	講義	安東 桃子*			

科目区分	授業科目の名称	科目番号	配当年次	単位数	授業形態	担当教員名	備考	
専門教育分野	教科・基礎技能	国語Ⅰ(書写を含む。)	KYO 107	1前	2	講義	有嶋 誠	
		国語Ⅱ	KYO 108	2後	2	講義	有嶋 誠	
		社会Ⅰ	KYO 109	1後	2	講義	藤本 将人*	
		社会Ⅱ	KYO 110	2前	2	講義	藤本 将人*	
		算数Ⅰ	KYO 111	1前	2	講義	渡邊 耕二	
		算数Ⅱ	KYO 112	2前	2	講義	渡邊 耕二	
		理科Ⅰ	KYO 113	1前	2	講義	坂倉 真衣	
		理科Ⅱ	KYO 114	2前	2	講義	坂倉 真衣	
		生活	KYO 201	1後	2	講義	坂倉 真衣	
		音楽	KYO 105	1前	2	演習	日高 まり子	
		図画工作	KYO 202	1前	2	演習	守川 美輪	
		家庭	KYO 203	2後	2	講義	白石 知子	
		体育	KYO 106	1前	2	演習	日高 正博*	
		英語	KYO 209	2後	2	講義	石濱 博之	
		ピアノ・音楽Ⅰ	KYO 204	2前	1	演習	土田悦子*・本田奈留美* 栗原美妃*・浜月春佳* 南園加奈子*・高橋秀代* 明石美美代*・高橋千恵美*	
		ピアノ・音楽Ⅱ	KYO 205	2後	1	演習	土田悦子*・本田奈留美* 栗原美妃*・浜月春佳* 南園加奈子*	
		ピアノ・音楽Ⅲ	KYO 301	3前	1	演習	浜月春佳*・東清香*	
		ピアノ・音楽Ⅳ	KYO 302	3後	1	演習	浜月春佳*・東清香*	
	子どもの音楽活動	KYO 206	2後	1	演習	日高 まり子		
	教育課程・指導法	国語科教育法Ⅰ	SID 301	3前	2	演習	菅 邦男*	
		国語科教育法Ⅱ	SID 302	3後	2	演習	菅 邦男*	
		社会科教育法Ⅰ	SID 304	3前	2	演習	吉村 功太郎*	
		社会科教育法Ⅱ	SID 305	3後	2	演習	吉村 功太郎*	
		算数科教育法Ⅰ	SID 307	2後	2	演習	渡邊 耕二	
		算数科教育法Ⅱ	SID 308	3前	2	演習	渡邊 耕二	
		理科教育法Ⅰ	SID 201	2後	2	演習	坂倉 真衣	
		理科教育法Ⅱ	SID 310	3前	2	演習	坂倉 真衣	
		生活科教育法	SID 202	2前	2	演習	坂倉 真衣	
		音楽科教育法	SID 209	2前	2	演習	日高 まり子	
		図画工作科教育法	SID 210	2後	2	演習	守川 美輪	
		家庭科教育法	SID 314	3前	2	演習	白石 知子	
		体育科教育法	SID 322	3前	2	演習	日高 正博*	
		英語科教育法Ⅰ	SID 323	3前	2	演習	石濱 博之	
		英語科教育法Ⅱ	SID 324	3後	2	演習	石濱 博之	
		道德教育の指導法	SID 205	2前	2	講義	椋木 香子*	
総合的な学習の時間の指導法		SID 211	2後	1	講義	遠藤 宏美*		
特別活動の指導法		SID 206	2後	2	講義	中原邦博・遠藤宏美*		
教育の方法と技術		SID 207	2前	2	講義	渡邊耕二・坂倉真衣		
学級経営論		SID 318	3前	2	講義	中原 邦博		
協同学習論		SID 319	3後	2	講義	野崎 秀正*		
教育課程論		SID 208	2前	2	講義	遠藤 宏美*		
環境教育論		SID 320	3後	2	講義	坂倉 真衣		
学習の科学		SID 401	4前	2	講義	田川 一希		
生徒指導・教育相談		生徒指導・進路指導	SEI 201	2後	2	講義	立元 真	
		幼児理解	SEI 301	3後	2	講義	久松 尚美*	併任(短大)
		教育相談	SEI 202	2前	2	講義	安東 末廣	

科目区分	授業科目の名称	科目番号	配当年次	単位数	授業形態	担当教員名	備考	
専門教育分野 実習科目	保育内容・指導法	保育課程論	FOI 201	2前	2	講義	椋木 香子*	
		保育内容総論	FOI 202	2後	1	演習	福島 裕子*	
		保育内容指導法(健康)	FOI 203	2後	2	演習	城戸 佐智子	
		保育内容指導法(人間関係)	FOI 204	2後	2	演習	山下 愛実	
		保育内容指導法(環境)	FOI 205	2前	2	演習	田川 一希	
		保育内容指導法(言葉)	FOI 206	2後	2	演習	尾之上 高哉*	
		保育内容指導法(音楽表現)	FOI 207	2前	2	演習	日高 まり子	
		保育内容指導法(造形表現)	FOI 208	1前	2	演習	守川 美輪	
		障害児保育	FOI 301	3前	2	演習	安東 未廣	
		子育て支援	FOI 303	3後	1	演習	有木 正浩*	
		社会的養護Ⅱ	FOI 304	4前	1	演習	高橋 博*	
		乳児保育Ⅰ	FOI 102	1後	2	演習	小川 美由紀*	併任(短大)
		乳児保育Ⅱ	FOI 103	2前	1	演習	小川 美由紀*	併任(短大)
	保育の表現技術	ことばと遊び	HYO 101	1前	2	演習	工藤 道子*	
		音楽と遊び	HYO 102	1後	2	演習	佐々木 由喜子	併任(短大)
		造形表現演習	HYO 301	3前	1	演習	守川 美輪	
		幼児体育演習	HYO 302	3後	1	演習	城戸 佐智子	
		教育実習指導	JIS 301	3後	1	実習	白石知子・城戸佐智子・杉田康之	
	実習	教育実習Ⅰ(小学校)	JIS 302	3後	4	実習	白石知子・杉田康之	
		教育実習Ⅰ(幼稚園)	JIS 303	3後	2	実習	城戸佐智子・杉田康之	
		教育実習Ⅱ(幼稚園)	JIS 304	3後	2	実習	城戸佐智子・杉田康之	
		保育実習指導Ⅰ	JIS 201	2後	2	演習	田川一希・山下愛実	
		保育実習Ⅰa	JIS 202	2後	2	実習	田川一希・山下愛実	
		保育実習Ⅰb	JIS 305	3前	2	実習	田川一希・山下愛実	
		保育実習指導Ⅱ	JIS 401	4前	1	演習	田川一希・山下愛実	
		保育実習Ⅱ	JIS 402	4前	2	実習	田川一希・山下愛実	
		保育実習指導Ⅲ	JIS 403	4前	1	演習	未定	
保育実習Ⅲ		JIS 404	4前	2	実習	未定		
学校インターンシップ		JIS 203	1前	1	実習	福田 亘博		
実践演習		教職実践演習(幼・小)	ENS 401	4後	2	演習	河原国男・渡邊耕二	
		保育実践演習	ENS 402	4後	2	演習	守川美輪・城戸佐智子	
介護等体験	介護等体験	KAI 301	3前	1	実習	白石知子・杉原康之		
卒業論文	卒業論文	RON 401	4通	4	演習	福田亘博・保田昌秀 河原国男・白石知子 守川美輪・渡邊耕二 石濱博之・日高まり子 坂倉真衣・城戸佐智子 田川一希・山下愛実		

*①：専門教育分野では、「福田亘博・村上 真・保田昌秀・河原国男・白石知子・守川美輪・渡邊耕二・石濱博之・日高まり子・坂倉真衣・城戸佐智子・田川一希・山下愛実」の各教員研究室へ4名～5人程度配属され、所定の課題についてゼミ形式で指導・助言を受け、取りまとめた後口頭発表する。

表2 開講授業科目一覧 卒業・小学校教諭一種免許状

授業科目の名称	配当年次	授業形態	卒業				小学校	
			単位数		備考	単位数		備考
			必修	選択		必修	選択	
フレッシュマン・セミナー	1前	講義	2		必修科目8単位	2		
忍ヶ丘教養Ⅰ	1後	講義	2			2		
忍ヶ丘教養Ⅱ	2前	講義	2			2		
忍ヶ丘教養Ⅲ	2後	講義	2			2		
文学	1後	講義		2	※1 2単位選択 必修		2	
教師とは何かー史的省察ー	1後	講義		2			2	
倫理学	1後	講義	※1	2			2	
心理学概論	1前	講義		2			2	
日本語表現	1前	講義		2			2	
音楽と文化	1前	講義		2			2	
こども音楽療育概論	2前	講義		2				
こども音楽療育演習	2後	演習		1				
こども音楽療育実習	2通	実習	※2	1		※2 卒業単位に含まれない		
おもちゃと絵本Ⅰ	1後	講義		1				
おもちゃと絵本Ⅱ	1前	講義		1				
国際社会論	2前	講義		2			2	
現代社会と歴史	2前	講義		2		2		
日本国憲法	1前	講義	2			2		
数学と生活	1後	講義		2	※3 6単位選択 必修		2	
環境と科学	1後	講義		2			2	
生命と科学	1後	講義		2			2	
食の科学	1前	講義	※3	2			2	
自然災害と防災	2,3,4後	講義		2			2	
プログラミング入門	3前	演習		2		但し、プログラミング入門は、情報処理士資格取得には必修	2	
情報処理	1前	演習	2				2	
教育とICT活用の方法	1後	講義		1			1	
英語Ⅰ	1前	講義	2				2	
英語Ⅱ	1後	講義		2			2	
英語コミュニケーションⅠ	1後	演習	1			1		
英語コミュニケーションⅡ	2前	演習	1			1		
Special Studies in EnglishⅠ	3前	演習		1	必修科目10単位選択科目10単位(選択必修8単位を含む。)以上		1	
Special Studies in EnglishⅡ	3後	演習		1			1	
健康の科学	1後	講義	1				1	
体育実技	1前	実技	1				1	
子どもと食育	1後	講義		2			2	
教職概論	1前	講義	2			必修科目19単位選択科目77単位以上	2	
教育原理	1後	講義	2				2	
教育心理学	1後	講義	2				2	
教育制度論	3後	講義	2				2	
特別支援教育概論	3後	講義	2				2	
保育原理	1前	講義		2			2	
子ども家庭福祉	3後	講義		2			2	
社会福祉	3前	講義		2			2	
子どもの家庭支援論	4前	演習		2			2	
社会的養護Ⅰ	3後	講義		2			2	
保育者論	1後	講義		2			2	
保育の心理学	2前	講義		2			2	
子ども家庭支援の心理学	3前	講義		2			2	
子どもの理解と援助	3後	演習		1			1	
子どもの保健	3前	講義		2			2	
子どもの健康と安全	3後	演習		1			1	

授業科目の名称	配当 年次	授業 形態	卒業		備考	小学校		備考
			単位数			必修	選択	
			必修	選択				
子どもの食と栄養	2後	演習		2		2		
臨床心理学	2後	講義		2		2		
国語Ⅰ（書写を含む。）	1前	講義	2			2		
国語Ⅱ	2後	講義		2			2	
社会Ⅰ	1後	講義		2		2		
社会Ⅱ	2前	講義		2			2	
算数Ⅰ	1前	講義	2			2		※4
算数Ⅱ	2前	講義		2			2	2科目4単位選択必修
理科Ⅰ	1前	講義		2		2		
理科Ⅱ	2前	講義		2			2	
生活	1後	講義		2			2	
音楽	1前	演習	2			2		※5
図画工作	1前	演習		2			2	1科目2単位選択必修
家庭	2後	講義		2			2	
体育	1前	演習		2			2	
英語	2後	講義		2		2		
ピアノ・声楽Ⅰ	2前	演習	1			1		
ピアノ・声楽Ⅱ	2後	演習		1			1	
ピアノ・声楽Ⅲ	3前	演習		1			1	
ピアノ・声楽Ⅳ	3後	演習		1			1	
子どもの音楽活動	2後	演習	1			1		
国語科教育法Ⅰ	3前	演習		2		2		
国語科教育法Ⅱ	3後	演習		2			2	
社会科教育法Ⅰ	3前	演習		2		2		※6
社会科教育法Ⅱ	3後	演習		2			2	2科目4単位選択必修
算数科教育法Ⅰ	2後	演習		2		2		
算数科教育法Ⅱ	3前	演習		2			2	
理科教育法Ⅰ	2後	演習		2		2		
理科教育法Ⅱ	3前	演習		2			2	
生活科教育法	2前	演習		2		2		
音楽科教育法	2前	演習		2		2		
図画工作科教育法	2後	演習		2		2		
家庭科教育法	3前	演習		2		2		
体育科教育法	3前	演習		2		2		
英語科教育法Ⅰ	3前	演習		2		2		
英語科教育法Ⅱ	3後	演習		2		2		
道徳教育の指導法	2前	講義		2		2		
総合的な学習の時間の指導法	2後	講義		1		1		
特別活動の指導法	2後	講義		2		2		
教育の方法と技術	2前	講義		2		2		
学級経営論	3前	講義		2		2		
協同学習論	3後	講義		2			2	
教育課程論	2前	講義		2		2		
環境教育論	3後	講義		2			2	
学習の科学	4前	講義		2			2	
生徒指導・進路指導	2後	講義		2		2		
幼児理解	3後	講義		2			2	
教育相談	2前	講義		2		2		
保育課程論	2前	講義		2			2	

授業科目の名称	配当年次	授業形態	卒業		備考	小学校	
			単位数			単位数	
			必修	選択		必修	選択
保育内容総論	2後	演習		1		1	
保育内容指導法(健康)	2後	演習		2		2	
保育内容指導法(人間関係)	2後	演習		2		2	
保育内容指導法(環境)	2前	演習		2		2	
保育内容指導法(言葉)	2後	演習		2		2	
保育内容指導法(音楽表現)	2前	演習		2		2	
保育内容指導法(造形表現)	1前	演習		2		2	
障害児保育	3前	演習		2		2	
子育て支援	3後	演習		1		1	
社会的養護Ⅱ	4前	演習		1		1	
乳児保育Ⅰ	1後	演習		2		2	
乳児保育Ⅱ	2前	演習		1		1	
ことばと遊び	1前	演習		2		2	
音楽と遊び	1後	演習		2		2	
造形表現演習	3前	演習		1		1	
幼児体育演習	3前	演習		1		1	
教育実習指導	3後	演習		1	1		
教育実習Ⅰ(小学校)	3後	実習		4	4		
教育実習Ⅰ(幼稚園)	3後	実習		2		2	
教育実習Ⅱ(幼稚園)	3後	実習		2		2	
保育実習指導Ⅰ	2後	演習		2		2	
保育実習Ⅰa	2後	実習		2		2	
保育実習Ⅰb	3前	実習		2		2	
保育実習指導Ⅱ	4前	演習		1		1	
保育実習Ⅱ	4前	実習		2		2	
保育実習指導Ⅲ	4前	演習		1		1	
保育実習Ⅲ	4前	実習		2		2	
学校インターンシップ	1前	実習	1		1		
教職実践演習(幼・小)	4後	演習		2		2	
保育実践演習	4後	演習		2		2	
介護等体験	3前	実習		1	1		
卒業論文	4通	演習	4		必修科目4単位		必修科目4単位

1. 卒業要件については、履修規定第18条を参照。
2. 免許取得に必要な単位については、表3教員免許状申請を参照。

表2 開講授業科目一覧 幼稚園教諭一種免許状 保育士資格

授業科目の名称	配当年次	授業形態	幼稚園		備考	保育士		備考
			単位数			必修	選択	
			必修	選択				
フレッシュマン・セミナー	1前	講義	2			2		
忍ヶ丘教養Ⅰ	1後	講義	2			2		
忍ヶ丘教養Ⅱ	2前	講義	2			2		
忍ヶ丘教養Ⅲ	2後	講義	2			2		
文学	1後	講義		2			2	※8
教師とは何かー史的省察ー	1後	講義		2			2	2単位選択 必修
倫理学	1後	講義		2		※8	2	
心理学概論	1前	講義		2			2	
日本語表現	1前	講義		2			2	
音楽と文化	1前	講義		2			2	
こども音楽療育概論	2前	講義	/	/		/	/	
こども音楽療育演習	2後	演習	/	/		/	/	
こども音楽療育実習	2通	実習	/	/		/	/	
おもちゃと絵本Ⅰ	1後	講義	/	/		/	/	
おもちゃと絵本Ⅱ	1前	講義	/	/		/	/	
国際社会論	2前	講義		2			2	
現代社会と歴史	2前	講義		2			2	
日本国憲法	1前	講義	2			2		
数学と生活	1後	講義		2			2	※9
環境と科学	1後	講義		2			2	※9から6単位以上選択必修
生命と科学	1後	講義		2			2	
食の科学	1前	講義		2			2	
自然災害と防災	2.3.4後	講義		2			2	
プログラミング入門	3前	演習		2			2	
情報処理	1前	演習	2			2		
教育とICT活用の方法	1後	講義	1				1	
英語Ⅰ	1前	講義	2			2		
英語Ⅱ	1後	講義		2			2	
英語コミュニケーションⅠ	1後	演習	1			1		
英語コミュニケーションⅡ	2前	演習	1			1		
Special Studies in EnglishⅠ	3前	演習		1			1	
Special Studies in EnglishⅡ	3後	演習		1			1	
健康の科学	1後	講義	1			1		
体育実技	1前	実技	1			1		
子どもと食育	1後	講義		2			2	
教職概論	1前	講義	2			2		
教育原理	1後	講義	2			2		
教育心理学	1後	講義	2				2	
教育制度論	3後	講義	2				2	
特別支援教育概論	3後	講義	2				2	
保育原理	1前	講義		2		2		
子ども家庭福祉	3後	講義		2		2		
社会福祉	3前	講義		2		2		
子どもの家庭支援論	4前	演習		2		2		
社会的養護Ⅰ	3後	講義		2		2		
保育者論	1後	講義		2		2		
保育の心理学	2前	講義		2		2		
子ども家庭支援の心理学	3前	講義		2		2		
子どもの理解と援助	3後	演習		1		1		
子どもの保健	3前	講義		2		2		

授業科目の名称	配当 年次	授業 形態	幼稚園		備考	保育士		備考
			単位数			必修	選択	
			必修	選択				
子どもの健康と安全	3後	演習		1		1		※9
子どもの食と栄養	2後	演習		2		2		
臨床心理学	2後	講義		2			2	
国語Ⅰ（書写を含む。）	1前	講義	2			2		
国語Ⅱ	2後	講義		2			2	
社会Ⅰ	1後	講義		2			2	
社会Ⅱ	2前	講義		2			2	
算数Ⅰ	1前	講義	2			2		
算数Ⅱ	2前	講義		2			2	
理科Ⅰ	1前	講義		2			2	
理科Ⅱ	2前	講義		2			2	
生活	1後	講義		2			2	
音楽	1前	演習	2		※7	2		
図画工作	1前	演習		2	1科目2単位選択必修		2	
家庭	2後	講義		2			2	
体育	1前	演習		2			2	
英語	2後	講義		2			2	
ピアノ・声楽Ⅰ	2前	演習	1			1		
ピアノ・声楽Ⅱ	2後	演習		1			1	
ピアノ・声楽Ⅲ	3前	演習		1			1	
ピアノ・声楽Ⅳ	3後	演習		1			1	
子どもの音楽活動	2後	演習	1			1		
国語科教育法Ⅰ	3前	演習		2			2	
国語科教育法Ⅱ	3後	演習		2			2	
社会科教育法Ⅰ	3前	演習		2			2	
社会科教育法Ⅱ	3後	演習		2			2	
算数科教育法Ⅰ	2後	演習		2			2	
算数科教育法Ⅱ	3前	演習		2			2	
理科教育法Ⅰ	2後	演習		2			2	
理科教育法Ⅱ	3前	演習		2			2	
生活科教育法	2前	演習		2			2	
音楽科教育法	2前	演習		2			2	
図画工作科教育法	2後	演習		2			2	
家庭科教育法	3前	演習		2			2	
体育科教育法	3前	演習		2			2	
英語科教育法Ⅰ	3前	演習		2			2	
英語科教育法Ⅱ	3後	演習		2			2	
道德教育の指導法	2前	講義		2			2	
総合的な学習の時間の指導法	2後	講義		1			1	
特別活動の指導法	2後	講義		2			2	
教育の方法と技術	2前	講義	2				2	
学級経営論	3前	講義		2			2	
協同学習論	3後	講義		2			2	
教育課程論	2前	講義	2				2	
環境教育論	3後	講義		2			2	
学習の科学	4前	講義		2			2	
生徒指導・進路指導	2後	講義		2			2	
幼児理解	3後	講義	2				2	

授業科目の名称	配当年次	授業形態	幼稚園		備考	保育士		備考
			単位数			必修	選択	
			必修	選択				
教育相談	2前	講義	2					
保育課程論	2前	講義	2			2		
保育内容総論	2後	演習	1			1		
保育内容指導法(健康)	2後	演習	2			2		
保育内容指導法(人間関係)	2後	演習	2			2		
保育内容指導法(環境)	2前	演習	2			2		
保育内容指導法(言葉)	2後	演習	2				2	
保育内容指導法(音楽表現)	2前	演習	2				2	※9
保育内容指導法(造形表現)	1前	演習	2				2	
障害児保育	3前	演習		2		2		
子育て支援	3後	演習		1		1		
社会的養護Ⅱ	4前	演習		1		1		
乳児保育Ⅰ	1後	演習		2		2		
乳児保育Ⅱ	2前	演習		1		1		
ことばと遊び	1前	演習		2		2		
音楽と遊び	1後	演習	2			2		
造形表現演習	3前	演習		1		1		
幼児体育演習	3前	演習		1		1		
教育実習指導	3後	演習	1				1	
教育実習Ⅰ(小学校)	3後	実習		4			4	
教育実習Ⅰ(幼稚園)	3後	実習	2				2	
教育実習Ⅱ(幼稚園)	3後	実習	2				2	
保育実習指導Ⅰ	2後	演習		2		2		
保育実習Ⅰa	2後	実習		2		2		
保育実習Ⅰb	3前	実習		2		2		
保育実習指導Ⅱ	4前	演習		1			1○	
保育実習Ⅱ	4前	実習		2			2○	○の組み合わせ、又は、◎の組み合わせで3単位選択必修
保育実習指導Ⅲ	4前	演習		1			1◎	
保育実習Ⅲ	4前	実習		2			2◎	
学校インターンシップ	1前	実習	1				1	
教職実践演習(幼・小)	4後	演習	2				2	
保育実践演習	4後	演習		2		2		
介護等体験	3前	実習		1			1	
卒業論文	4通	演習	4		必修科目 4単位	4		必修科目 4単位

1. 卒業要件については、履修規定第18条を参照。
2. 免許取得に必要な単位については、表3教員免許状申請を参照。
3. 資格取得に必要な単位については、表4資格申請を参照。

表3 教員免許状申請

1. 小学校教諭一種免許状

(1) 教科及び教職に関する科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目		施行規則に定める単位	本学で開設する科目		備考
科目区分	各科目に含める必要事項		名称	単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	国語Ⅰ（書写を含む。）	2	
		社会	国語Ⅱ	2	
		算数	社会Ⅰ	2	
		理科	社会Ⅱ	2	
		生活	算数Ⅰ	2	
		音楽	算数Ⅱ	2	
		図画工作	理科Ⅰ	2	
		家庭	理科Ⅱ	2	
		体育	生活	2	
		外国語	音楽	2	
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語（書写を含む。）	ピアノ・声楽Ⅰ	1	
		社会	ピアノ・声楽Ⅱ	1	
		算数	ピアノ・声楽Ⅲ	1	
		理科	ピアノ・声楽Ⅳ	1	
		生活	図画工作	2	
		音楽	家庭	2	
		図画工作	体育	2	
		家庭	英語	2	
		体育	国語科教育法Ⅰ	2	
		外国語	国語科教育法Ⅱ	2	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	社会科教育法Ⅰ	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）	社会科教育法Ⅱ	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	算数科教育法Ⅰ	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	算数科教育法Ⅱ	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	理科教育法Ⅰ	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	理科教育法Ⅱ	2		
の道徳、相談法等及び生徒学習の指導の時間等	道徳の理論及び指導法	生活科教育法	2		
	総合的な学習の時間の指導法	音楽科教育法	2		
	特別活動の指導法	図画工作科教育法	2		
	教育の方法及び技術	家庭科教育法	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	体育科教育法	2		
	生徒指導の理論及び方法	英語科教育法Ⅰ	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	英語科教育法Ⅱ	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育原理	2		
		教職概論	2		
		教育制度論	2		
		教育心理学	2		
		特別支援教育概論	2		
		教育課程論	2		
		道徳教育の指導法	2		
		総合的な学習の時間の指導法	1		
		特別活動の指導法	2		
		教育の方法と技術	2		
		教育とICT活用の方法	1		
	生徒指導・進路指導	2			
	教育相談	2			
	（生徒指導・進路指導）	(2)			

教育職員免許法施行規則に規定する科目		施行規則に定める単位	本学で開設する科目		備考
科目区分	各科目に含める必要事項		名称	単位数	
教育する実践に関	教育実習	5	教育実習指導	1	
			教育実習Ⅰ（小学校）	4	
	学校体験活動				
	教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小）	2	
大学が独自に設定する科目		2	子どもの音楽活動	1	
			学級経営論	2	
			プログラミング入門	2	
			協同学習論	2	
			環境教育論	2	
			学習の科学	2	
			介護等体験	1	
			学校インターンシップ	1	
法定単位 計		59	本学履修単位 計	103	

(2) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目		施行規則に定める単位	単位修得済授業科目		備考
			名称	単位数	
日本国憲法		8	日本国憲法	2	
体育			健康の科学	1	
			体育実技	1	
			英語Ⅰ	2	
外国語コミュニケーション			英語Ⅱ	2	
			英語コミュニケーションⅠ	1	
			英語コミュニケーションⅡ	1	
情報処理				2	
法定単位 計		8	本学履修単位 計	12	

※ 「表2 開講授業科目一覧(小幼コース)」小学校欄をあわせて確認してください。

表3 教員免許状申請

2. 幼稚園教諭一種免許状

(1) 教科及び教職に関する科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目		施行規則に定める単位	本学で開設する科目		備考
科目区分	各科目に含める必要事項		名称	単位数	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	16	国語 I (書写を含む。)	2	
			国語 II	2	
			算数 I	2	
			算数 II	2	
			生活	2	
			音楽	2	
			ピアノ・声楽 I	1	
			ピアノ・声楽 II	1	
			ピアノ・声楽 III	1	
	ピアノ・声楽 IV	1			
保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	16		図画工作	2	
			体育	2	
			保育内容総論	1	
			保育内容指導法(健康)	2	
			保育内容指導法(人間関係)	2	
			保育内容指導法(環境)	2	
			保育内容指導法(言葉)	2	
			保育内容指導法(音楽表現)	2	
			保育内容指導法(造形表現)	2	
			教育の基礎的理解に関する科目	10	
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)	2				
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	2				
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	2				
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	2				
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	2				
道徳、総合的な学習の時間等の指導、教育相談等に関する科目	4		教育の方法と技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	
			教育とICT活用の方法	1	
			幼児理解	2	
			教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	2	

教育職員免許法施行規則に規定する科目		施行規則に定める単位	本学で開設する科目		備考
科目区分	各科目に含める必要事項		名称	単位数	
教育実践科目に関する	教育実習	5	教育実習指導	1	※1
			教育実習Ⅰ（幼稚園）	2	
			教育実習Ⅱ（幼稚園）	2	
	学校体験活動				
	教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小）	2	
大学が独自に設定する科目		14	子どもの音楽活動	1	※2
			環境教育論	2	
			ことばと遊び	2	
			音楽と遊び	2	
			プログラミング入門	2	
			学校インターンシップ	1	
法定単位 計		51	本学履修単位 計	66	

教育職員免許法施行規則第6条第1項表備考第12号により、教育実習Ⅰ（小学校）の4単位を修得した場合、教育実習Ⅱ（幼稚園）単位については、教育実習Ⅰ（小学校）の4単位のうち2単位をもってあてる。

※1

※2 「大学が独自に開設する科目」の選択科目又は最低履修単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて10単位以上を修得

(2) 教育職員免許法施行規則第6条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目		施行規則に定める単位	単位修得済授業科目		備考
			名称	単位数	
日本国憲法		8	日本国憲法	2	
体育			健康の科学	1	
			体育実技	1	
外国語コミュニケーション			英語Ⅰ	2	
			英語Ⅱ	2	
			英語コミュニケーションⅠ	1	
			英語コミュニケーションⅡ	1	
情報処理			情報処理	2	
法定単位 計		8	本学履修単位 計	12	

※ 「表2 開講授業科目一覧(小幼コース)(幼保コース)」幼稚園欄をあわせて確認してください。

表4 資格申請

1. 保育士資格

	系列	授業科目の名称	配当年次	授業形態	単位数		備考
					必修	選択	
告示	教養科目	文学	1後	講義		2	2単位選択必修
		教師とは何かー史的省察ー	1後	講義		2	
		倫理学	1後	講義		2	
		心理学概論	1前	講義		2	
		日本語表現	1前	講義		2	
		音楽と文化	1前	講義		2	
		国際社会論	2前	講義		2	
		現代社会と歴史	2前	講義		2	
		日本国憲法	1前	講義	2		
		数学と生活	1後	講義		2	
		環境と科学	1後	講義		2	2単位選択必修
		生命と科学	1後	講義		2	
		食の科学	1前	講義		2	
		情報処理	1前	演習	2		
		子どもと食育	1後	講義		2	
		英語Ⅰ	1前	講義	2		
		英語Ⅱ	1後	講義		2	
		英語コミュニケーションⅠ	1後	演習	1		
		英語コミュニケーションⅡ	2前	演習	1		
		健康の科学	1後	講義	1		
体育実技	1前	実技	1				
告示別表第1	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	1前	講義	2		告示別表第1より51単位以上
		教育原理	1後	講義	2		
		子ども家庭福祉	3後	講義	2		
		社会福祉	3前	講義	2		
		子どもの家庭支援論	4前	演習	2		
		社会的養護Ⅰ	3後	講義	2		
	保育者論	1後	講義	2			
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	2前	講義	2		
		子ども家庭支援の心理学	3前	講義	2		
		子どもの理解と援助	3後	演習	1		
		子どもの保健	3前	講義	2		
		子どもの健康と安全	3後	演習	1		
		子どもの食と栄養	2後	演習	2		
	保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	2前	講義	2		
		保育内容総論	2後	演習	1		
		保育内容指導法(健康)	2後	演習	2		
		保育内容指導法(人間関係)	2後	演習	2		
		保育内容指導法(環境)	2前	演習	2		
		音楽と遊び	1後	演習	2		
		造形表現演習	3前	演習	1		
		幼児体育演習	3前	演習	1		
		乳児保育Ⅰ	1後	演習	2		
		乳児保育Ⅱ	2前	演習	1		
		障害児保育	3前	演習	2		
		社会的養護Ⅱ	4前	演習	1		
		子育て支援	3後	演習	1		
	保育実習	保育実習指導Ⅰ	2後	演習	2		
		保育実習Ⅰa	2後	実習	2		
		保育実習Ⅰb	3前	実習	2		
	総合演習	保育実践演習	4後	演習	2		
告示別表第2	保育の本質・目的に関する科目	教職概論	1前	講義	2		6単位以上選択必修
	保育の本質・目的に関する科目	幼児理解	3後	講義		2	
	保育の本質・目的に関する科目	臨床心理学	2後	講義		2	
	保育の本質・目的に関する科目	保育内容指導法(言葉)	2後	演習		2	
		保育内容指導法(音楽表現)	2前	演習		2	
		保育内容指導法(造形表現)	1前	演習		2	
		子どもの音楽活動	2後	演習	1		
	ことばと遊び	1前	演習		2		
	保育実習	保育実習指導Ⅱ	4前	演習		1○	
		保育実習Ⅱ	4前	実習		2○	
保育実習指導Ⅲ		4前	演習		1◎		
保育実習Ⅲ		4前	実習		2◎		

2. こども音楽療育士資格

領域	科目名	配当年次	授業形態	単位数		備考
				必修	選択	
領域 1	教育心理学	1後	講義	2		4単位以上取得
	保育の心理学	2前	講義		2	
	障害児保育	3前	演習		2	
	特別支援教育概論	3後	講義		2	
	心理学概論	1前	講義		2	
	臨床心理学	2後	講義		2	
	子どもの保健	3前	講義		2	2単位以上取得
	子どもの健康と安全	3後	演習		2	
	保育内容指導法（健康）	2後	演習		2	
	保育内容指導法（環境）	2前	演習		2	
	生命と科学	1後	講義		2	4単位以上取得
	ピアノ・声楽Ⅰ	2前	演習	1		
	ピアノ・声楽Ⅱ	2後	演習		1	
	子どもの音楽活動	2後	演習	1		
音楽と遊び	1後	演習		2		
音楽科教育法	2前	演習		2		
音楽	1前	演習		2		
音楽と文化	1前	講義		2		
領域 2	こども音楽療育概論	2前	講義	2		
	こども音楽療育演習	2後	演習	1		
領域 3	こども音楽療育実習	2通	実習	1		

3. 情報処理士資格

領域	科目名	配当年次	授業形態	単位数		備考
				必修	選択	
領域 1	情報処理	1前	演習	2		10単位以上取得
	倫理学	1後	講義		2	
領域 2	プログラミング入門	3前	演習	2		
	教育の方法と技術	2前	講義	2		
領域 3	フレッシュマン・セミナー	1前	講義		2	
	忍ヶ丘教養Ⅰ	1後	講義		2	
	忍ヶ丘教養Ⅱ	2前	講義		2	
	忍ヶ丘教養Ⅲ	2後	講義	2		
	日本語表現	1前	講義		2	

4. 一般社団法人日本知育玩具協会認定資格

科目名	配当年次	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
おもちゃと絵本Ⅰ	1後	講義		1	ベビートイ2級及びキッズトイ2級取得に必要な科目
おもちゃと絵本Ⅱ	1前	講義		1	

宮崎国際大学教育学部既修得単位認定規程

(趣旨)

第1条 この規定は、宮崎国際大学学則第30条に基づき、宮崎国際大学教育学部（以下、「本学部」という）に入学、編入した者が他大学、短期大学（以下、「他大学」という）において履修した授業科目について修得した単位（以下、「既修得単位」という。）の認定に必要な事項を定めるものとする。

(単位認定の申請)

第2条 単位認定を受けようとする者（以下、「申請者」）は、所定の期日までに、以下の書類を本学学長に申請しなければならない。

- (1) 既修得単位認定願（別紙様式1） 1通
- (2) 他大学の成績証明書 1通
- (3) シラバスなど認定を受けようとする授業科目の概要を示した書類 1部
- (4) 単位修得証明書（入学前に教職等資格に関する科目で修得した科目がある場合のみ）1通
- (5) その他既修習得単位の認定に必要な書類

(既修得単位の認定基準他)

第3条 認定を受けようとする授業科目及び単位数は、本学部における授業科目及び単位数と同等以上と認められなければならない。

- 2 既修得単位として認定できる授業科目は、本学部の一般教養科目・専門基礎科目に限る。
- 3 免許状、資格の取得に関わる専門基礎科目については授業科目内容のおおよそ8割以上が一致することとする。

(単位認定の審査)

第4条 学長は、前条の規定により申請のあった場合、申請者が所属する学部の長（以下、「学部長」とする）に既修得単位認定委員会（以下、「委員会」とする）の招集を依頼しなければならない。学部長は速やかに委員会を招集し、単位申請の審査を行わねばならない。

- 2 委員会は、第3条に定める認定基準に則り、審査を行う。
- 3 委員会は、審査を行うにあたり必要と認めるときは、当該申請者に対して説明を求めるか、若しくは必要な資料の提出を求めることができる。また関係科目担当教員の意見を聞くことができる。
- 4 委員会は審査結果を基に審査結果書（別紙用紙2）を作成する。

(既修得単位認定)

第4条 学部長は、教授会において委員会から提出された審査結果書の内容を諮らなければならない。学長は、審査結果書の内容に関する教授会の議を経て、既修得単位の認定を行う。

(申請者への通知)

第5条 学長は第4条の規定により単位認定を行ったときは、速やかに既修得単位認定通知書(別紙様式3)を申請者に交付しなければならない。

(成績の表記)

第6条 認定した授業科目の成績の表記は、「認定」とする。

(修業年限)

第7条 第4条の規定により既修得単位の認定を行った場合においても、修業年限の短縮は、行わない。

附則

この規程は平成26年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成29年4月1日から施行する。

附則

この規程は平成30年4月1日から施行する。

附則

この規程は令和3年4月1日から施行する。

既 修 得 単 位 認 定 願

令和 年 月 日

宮崎国際大学 学長 殿

所属学部 学部 学科

入学年度 令和 年度

フリガナ

氏名（自署） 印

私は、下記の大学等において別添「成績証明書」のとおり単位を修得していますので、宮崎国際大学学則第 30 条及び第宮崎国際大学教育学部既修得単位認定規程に基づき既修得単位を認定し
 くださるよう申請します。

記

単位を修得した大学等 大学・短期大学・高等専門学校

学部 学科・課程

上記大学等の在学期間 年 月 入学 年 月 卒業・中退

認定授業科目及び単位

科目区分	本学認定授業科目		既修得授業科目名	
	科目名	単位数	科目名	単位数
合計				

令和 年 月 日

宮崎国際大学 学長 殿

既修得単位認定委員会

委員長

既修得単位認定審査結果書

令和 年 月 日付で依頼のありましたこのことについて、本委員会で審査した結果、下記のと通りの審査結果となりましたので通知します。

記

1 入学年度 令和 年度 (年次編入学・再入学)

2 学籍番号

フリガナ

3 氏 名

4 認定授業科目及び単位

科目区分	本学認定授業科目		既修得授業科目名		審査結果
	科目名	単位数	科目名	単位数	
合計					

※ 審査結果は、「可」または「不可」で記入すること

既修得単位認定通知書

令和 年 月 日

令和 年度入学

殿

宮崎国際大学 学長

宮崎国際大学学則第 30 条及び宮崎国際大学教育学部既修得単位認定規程により、下記の授業科目及び単位を本学教育学部において修得したものと認定する。

科目区分	本学認定授業科目	
	科目名	単位数
合計		

教育学部学生表彰規程

平成 27 年 9 月 11 日

学 長 裁 定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、宮崎国際大学学則第 55 条の規定に基づき、教育学部学生の表彰に関し必要な事項を定めるものとする。

(表彰の基準)

第 2 条 表彰は、教育学部学生及び学生団体のうち、次の各号のいずれかに該当するものについて行うものとする。

- (1) 学業成績等において、各学期末に GPA が 3.8 以上に該当すると認められたもの
- (2) 課外活動等において、国内外の競技会、公演会、展覧会等において優秀な成績を修め、又は高い評価を受けたもの
- (3) 社会活動・ボランティア活動等において、公的機関等から表彰を受ける等社会的に高い評価を受けたもの
- (4) 人命救助、犯罪防止、災害救助等に貢献したことにより、公的機関等から表彰を受ける等社会的に高い評価を受けたもの
- (5) 前各号に掲げるもののほか、特に優れた業績、功績等があったと認められるもの

(表彰候補者の推薦)

第 3 条 学部長等は、前条各号のいずれかに該当すると認められる学生又は学生団体がある場合は、別紙様式（推薦書）により学長に推薦するものとする。

(被表彰者の選考及び決定)

第 4 条 学長は、前条の規定に基づき推薦された表彰候補者について、教育研究評議会の議を経て、表彰を決定する。

(表彰の方法)

第 5 条 表彰は、学長が表彰状を授与することにより行う。

2 前項の表彰状に添えて、記念品を贈呈することがある。

(表彰の時期)

第 6 条 表彰は、被表彰者が決定された後、速やかに行うものとする。

(事務)

第 7 条 表彰に関する事務は、教務部教務係において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規程に定めるもののほか、学生及び学生団体の表彰の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行し、施行日以後の学生及び学生の団体の活動について適用する。

障害学生への支援に関する手続き等について

全国の大学において、障害のある学生、障害があることなどを理由に特別な配慮を必要とする学生（以下、障害学生と略す）の在籍数が年々増加しています。独立行政法人日本学生支援機構（以下、「機構」という）の調査によれば、平成 27 年 5 月 1 日現在、21,721 人の障害のある学生が大学等に在籍しており、これは全学生の 0.68%に当たります。平成 17 年の調査では 5,444 人、平成 22 年の調査では 8,810 人であり、この 10 年で障害のある学生数は約 4 倍と急増しています。特に、増加が著しいのは、病弱・虚弱、発達障害、精神障害等です。これらの急増の要因の一つとしては、障害についての知見が広まり、大学等における障害のある学生の受入れが進んだことが大きいと推察されています。なお、障害のある学生が在籍する学校数は 880 校であり、これは全学校数の 74.5%に当たります。それに伴い、各大学においては障害学生の受入れや修学支援体制の整備が急務となっています。本学においても、病弱・虚弱、精神障害、発達障害のある学生の入学が考えられることから、支援体制について整備するように検討を進めてきました。

我が国は平成 19 年 9 月、国連の「障害者の権利に関する条約（略称：障害者権利条約）」に署名し、ついで平成 25 年 12 月に批准しました。そして、これに合わせた法整備が進められ、平成 25 年 6 月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（略称障害者差別解消法）」が制定されました（平成 28 年 4 月 1 日施行）。この法律では先の障害者権利条約の内容を踏まえ、障害者への差別的取扱いの禁止と障害者に対する合理的配慮の不提供の禁止が盛り込まれており、官公庁や本学を含む国公立教育機関等においては、それが義務的規定とされました。これをうけて、本学では平成 29 年 11 月に「宮崎国際大学における障害のある学生への配慮および支援に関するガイドライン」を制定し、ついで、在籍する障害学生や障害のある入学予定者への個別支援について、カウンセラー・学生部・学部が連携しつつ、令和元年 10 月に全学的支援体制を整備しました。

これらの体制整備に伴い、本学では障害ある学生の申請に基づき、具体的で合理的な配慮を行います。希望する学生は、修学支援申請書（様式 1）に必要事項を書いて、国際教養学部長あるいは教育学部長へ提出してください。（教務課でも良い）

(様式1)

申請日 令和 年 月 日

宮崎国際大学学長 殿

修学支援申請書

フリガナ		学籍 番号	
氏名	Ⓜ		(平成・令和 年 月入学)
所属	学部		
住所			
電話番号			
Eメールアドレス			
① 病名 障害名		(手帳既取得者のみ記入)	
	(初診： 年 月 才時)	種 級	写し <input type="checkbox"/>
② ①より生じる困 難や苦手さ	裏面の【現状】【希望する配慮】に該当する場合は○印を付けてください。		
③ ②解消のため必 要な調整支援			
添付書類	①～③を客観的に示す書類や*身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳または療育手帳の写しを添付してください。手帳をお持ちでない場合は、診断書を添付してください。 あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> (理由・代替書類の内容など)		
<p>保護者として、本学における修学が妨げられることがないように、合理的配慮の提供を要望します。その目的に必要な場合に限り、本学教職員間で障害に関する情報の共有がなされることに同意します。</p> <p style="text-align: right;">保護者署名： _____ 印 (自筆または押印)</p>			

【現状】

- ①()入学前(高校時代等)も、修学上の配慮を受けていた。
- ②()障害や症状について相談できる主治医や相談機関等がある。

【希望する配慮】

- ①()移動、施設・設備利用、支援機器・用具に関する配慮
 - ②()教材に関する配慮(点訳・電子データ化・拡大・字幕付け・事前配布等)
 - ③()情報伝達・コミュニケーションに関する配慮(手話通訳・要約筆記・文書伝達等)
 - ④()定期試験に関する配慮(時間延長、別室受験、解答方法等)
 - ⑤()履修登録、学習支援等
 - ⑥()学内生活に関する配慮(トイレ、食事等)
 - ⑦()その他
-
-

Ⅲ 学修の手引き

学修の手引き

学業指導

アドバイザーは、学生に対し履修科目の選択や学習上の諸事項について助言を行い、相談に応じる。本学の学生には入学時よりアドバイザーがそれぞれ割り当てられる。アドバイザーは履修科目・時間割・諸手続きに関する質問に答えつつ、学生が大学生活に適應するのを助け、将来計画についても広い視野から考えるよう、助言を与える。

学生は、履修科目登録に先立ち、アドバイザーに相談しなければならない。教育的観察（後に説明）にある学生は、スケジュールに沿って定期的にアドバイザーと会うことになる。

授業への出席

全ての授業への出席が求められる。本学部の教員養成課程のプログラムが成果をあげるか否かは、学生が講義・演習・実習などに積極的に休まず出席するか否か、しっかり勉強をするか否かによっている。どのように素晴らしい教育プログラムを設定したとしても学生が積極的にこのプログラムに参加しなければ教育効果は期待できない。従って、学生はすべての講義、演習、実習などへ出席することが必要である。

本学はさまざまな方法で学生の授業への出席を強く促すために、指導・助言する。欠席した学生には必要に応じて補講を行うが、まずは授業時間に遅刻せず、講義等には常に出席することが必要である。出席率の思わしくない学生は、当然のことながら成績評価が低くなり、履修規定第11条に規定されているように出席が3分の2に満たないものは、定期試験受験資格を失う。

やむをえず遅刻・欠席する場合は、講義担当の教員あるいは教務係に、遅刻・欠席する旨を連絡すること。また、病気、怪我、忌引等で連続して欠席する場合は、本冊子巻末にある「授業欠席届」を学生部まで提出すること。

履修義務

各学期上限を24単位として履修科目を登録すること（履修規定第10条）。但し、4年次においてはこの限りではない。この範囲を越える履修には、学部長と教務係の文書による許可を必要とする。

履修科目登録と変更

履修科目登録および変更期間は年間行事日程に従って行うこと。履修登録に必要な書類等は教務係よりオリエンテーションで配布される。

教育学部では小幼コースあるいは幼保コースのいずれかを選択するため、学生はアンケート用紙に記した希望コース調査票に記入の上、アドバイザーに提出し、アドバイザーの確認・許可を得た後、履修科目登録を行う（履修登録期間中に教務係に提出する）。なお、コース選択において、著しい片寄りが生じた場合、履修規程第3条に基づき、人数調整を行う。

希望コースの変更は、基本的に各学期授業開始第3週目までの期間とする。学生はアドバイザー・教務係とよく相談しながら調整を行う。

希望コース変更は、以下の要領で行う。

- (1) 希望コース変更届を教務係で受け取り、記入の上変更を申し出る。
- (2) アドバイザーの確認のもと履修科目変更を提出する。

希望コース変更に伴う履修科目の変更は、成績表には登録科目として科目名称は記されたままとなる場合があるので、変更されたことを必ず確認すること。なお、コース変更に伴い、講義等の受講回数が不足する場合には、アドバイザーを通じて必ず申し出ること。教育学部が責任をもって補講などを行い、講義等の回数を確保するように措置する。

単位履修に関わる中間・期末試験後における成績評定と履修カルテ・ポートフォリオ及び自己点検シートによる履修指導

毎学期、学生が単位登録・履修しているすべての科目について、その履修状況を確認するため講義担当教員からの成績評価の報告に基づいて、アドバイザー教員／学部長により、履修カルテ／ポートフォリオをもとに指導・助言を行う。もし、下記に記載する評価であると確認された場合、学生に対して直接口頭あるいは文章による注意・警告が行われ、さらにこのことについて保護者に書面で連絡する。また、未取得単位が多く、修学が困難だと予想される場合、直ちに三者面談（学部長及びアドバイザー・学生・保護者）を行う。なお、これらの措置は学生の留年や卒業延期、さらには退学などを事前に防止するための措置である。

記

- 1) 評定平均値(GPA)が 2.0未満、かつ1つでも「不可」評定がある場合。
- 2) 学期の評定平均値(GPA)、もしくは加算評定平均値 (Cumulative GPA)が 1.5未満である場合。
- 3) F「不可」の評価が2つ以上ある場合。

継続して2学期以上にわたって教育的観察下にある学生は、当該委員会によって教育的観察の延長、留年、一定期間の停学もしくは退学のいずれかの処分が検討される。なお、教育的観察にある者は、学友会、クラブ活動、大学祭の委員として活動することを許可しない。

成績評定及び評定平均

各学期末、学生の修学状況について、教務係あるいはアドバイザーによる成績通知書を受け取る。成績通知書には、各科目の評定のほかに、1学期ごとの評定平均値(GPA)と、それまでに履修したすべての科目の加算評定平均値(Cumulative GPA)とが記載される。評定とそのポイントは履修規定第15条に定めるとおりである。

評定への異議申し立て

一度評定された成績は、事務上又は記載上の誤りによるもの以外、学部長の承認なしに変更されることはない。

最終評定に対し異議申し立てのある学生は、まず不可と判定された講義等の担当教員に事前確認する。そこで、異議が解決しない場合には、評定の通知から30日以内に再考請求申立書を学部長に提出できる。学部長もしくは学部長に指名された者により慎重に再検討が行われ、変更されることがある。

学部長リスト及び卒業成績優秀者

学期末毎に、GPA（評定平均値）3.5以上を取得した学生は学部長リストにおいて発表される。

卒業時、加算評定平均値が3.5以上の学生は成績優秀者として表彰される。その内、加算評定平均値の一番高い者は、成績最優秀賞（バレディクトリアン）を与えられる。又、成績のみならず学内において総合的な努力を修めた者には宮崎国際大学賞を与える。国際人として活躍した学生には世界市民賞が授与される。

シラバス

各学期の第1週に、教員は履修学生に各科目のシラバスを配布する。大学の Web でも公開している。シラバスは、学生が授業中や授業外で学習を行うための指針を示すもので、シラバスの項目に記載された情報にもとづいて、予習・復習などを行うとする。

シラバスには、(1) 授業内容と方法、(2) 達成目標（講義の目標）、(3) 評価基準と評価方法（可などの成績評価を行う成績基準と試験やレポートなどの評価割合など）、(4) 履修条件（講義科目を学習する上で、履修しておかなければならないことなど）、(5) 授業計画（15回の授業計画）、(6) 事前・事後学習、(7) 教科書・参考書・授業の準備や予習・復習に役立つような記載）、(8) 備考（学生へのメッセージや受講上の注意など）、(9) オフィスアワー（教員が学生と面談できる曜日・時間帯・場所などを記載しているので、参考にすること。

教育実習・保育実習に登録・履修できる要件

教育実習は、教育職員免許法施行規則第6条の規程に基づき、教職につく学生が学校教育の場において大学で学んだ知識や理論を活かし、実地経験をするための必修科目です。実習生は、実習校の教育活動を通して、教壇に立って授業する経験を得るだけでなく、教育活動全般にわたっての理解を深め、教員として必要な知識や技能や態度などを身につけることを目的としています。

2、3年生に進級すると、小学校実習や保育実習が始まります。「教育実習の手引き」で明記されているように、教育・保育実習に登録・履修できる要件として、3年前期までに教職課程として割り当てられた科目（単位数）の3分の2以上を履修していることとなっています。さらに、小学校・保育所（園）における教育・保育実習に登録・履修するためには、「一定水準以上の教科・保育科目の学業成績と教科教育法・保育内容指導法&保育表現技術等における教育・保育実践力」を身に付けていることが必要です。

令和2年度以降、学生は教育・保育実習に登録・履修するためには、下記に定める要件を充足した場合に許可することとします。

教育・保育実習に取りかけられる要件（登録・履修できる要件）

1. 3年前期までに教職課程に割り当てられた科目（単位数）の3分の2以上を履修していること。
2. 小幼・幼保コース共通
 - ・ 学業成績として累積 GPA2.0 以上（GPA1.5 前後の学生は登録・履修を認めない）であること。
 - ・ 累積 GPA2.0 前後の学生について、大学生として必要な基礎学力が身に付いているか、「理科・数学・英語」について出題された課題の正解率から判定する。

3. 小幼コースにおける教育実践力は、理科・算数の模擬授業を行うことにより判定する。与えられた課題について指導案を作成し、さらに模擬授業を実施し、「合」と判定すること。幼保コースにおける保育実践力は、保育内容指導法・保育の表現技術について、与えられた課題の指導案を作成し、さらに模擬保育で「合」と認められること。

教育学部卒業論文に関する申し合わせ

卒業論文は、教育学部の教育カリキュラムの中で、4年次開講で通年4単位の必修科目となっており、4年間の大学生活における集大成となる最も重要な科目の一つとして位置付けています。学生は1年間をかけて卒業論文題目に関する研究を行い、卒業論文を完成させ、同時に卒業論文発表会において発表・質疑応答を行います。このような卒業論文としての位置付け及び卒業論文の作成とその発表などを行うことから、卒業論文指導教員への配属は少人数を基本とし、教員による徹底した研究指導のもと、学生は主体的に取り組むことを期待しています。

なお、卒業論文に取りかかるにあたって、以下のように、いくつかの要件を満たす必要があります。

1. 卒業論文指導教員への配属

学生は4年次に進級した後、卒業論文指導教員へ配属します。3年次後期にガイダンスを行い、教員による卒業論文課題等が紹介された後、希望する教員との面接等を経て、配属を決定します。学生は忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳで学んだことや教育学部の教養・教科・教職科目で学んだことなどを参考に、自分の将来の目標等を勘案して、卒業論文題目を考え、指導できる教員を選んで下さい。

2. 配属学生数

卒業論文の指導は少人数教育を原則とするため、一人の教員が受け入れる学生数は5名以内とします。なお、特段の事情がある場合には、受け入れ教員の了解と学部長の判断により、5名を越えて配属します。

3. 卒業論文履修要件

卒業論文着手は4年次進級後になります。卒業論文の履修要件は以下の通りです。

- ① 本学に3年以上在学していること。(編入学生を除く)
- ② 卒業論文指導教員に配属されていること。
- ③ 各コースを卒業するのに必要な総単位数の4分の3以上(96単位以上)を履修していること。
- ④ 成績評定平均値(GPA)が1.5以上であること。

これらの要件を満たさない場合は、卒業論文に着手することができず、卒業は延期されます。

4. 卒業論文指導

上記の卒業論文履修要件をクリアすると、卒業論文指導教員の下で、本格的な卒業論文研究が始まります。教員によってはセミナー等により、卒業論文題目に関連する文献調査等を始めとして、研究計画を立て、具体的な研究が開始されます。後期には、担当教員・専門分野別に中間発表会などが開催されます。

また、しっかりした卒業論文を作るために、卒業論文指導教員と学生のコンタクトタイム(学生が指導教員から対面式に直接指導を受けた時間)について、単位数が4単位であること、事前・事後学修及び研究内容等を勘案して120時間以上を確保することを義務付けます。

指導教員は、コンタクトタイムについて、時間数を確認・記録してください。コンタクトタイムとして決められた時間数を確認できない場合、卒業論文の提出及び卒業論文の発表は認められません。

5. 卒業論文指導教員の変更

学生は卒業論文指導教員の変更を希望する場合、所定の変更願を教務係に提出してください。新旧指導教員のそれぞれの承認と学部長の承認を経て許可されます。なお、いずれかの教員の承認が得られない場合は、学部長が変更について判断します。

なお、卒業論文は原則として同じ教員の指導のもとで取り組む通年科目であることから、卒業論文指導教員を変更した場合は、研究テーマによっては、変更願の時期等によっては不可能になることがあります。

6. 卒業論文発表会

卒業論文発表会を公開の場で行います。これは卒業論文審査の一環として行います。発表・質疑応答は所定の時間行い、使用言語は日本語とします。なお、これらの発表会の詳細（日程・時間等を含む）については後日通知します。

7. 卒業論文の提出

卒業論文は、執筆要領（別紙）を参照し、A4 版 25 頁以上（4 万字に相当します。）にまとめて下さい。また、提出は、印刷版と電子版の両方が必要です。印刷版は本学附属図書館に保存され、所定の場所に懸架され、電子版は教務課で保管します。

8. 卒業論文完成までの大まかなスケジュール

- | | |
|--------|--|
| 4 月下旬 | 卒業論文指導教員及び卒業論文題目の決定・提出（卒業論文題目は後日変更可。卒業論文指導教員変更は手続きが必要） |
| 5 月下旬 | 学生から卒業論文指導教員へ卒業論文のアウトライン等の提出 |
| 10 月中旬 | 教員研究室等における卒業論文中間発表会 |
| 1 月下旬 | 卒業論文の完成原稿の提出（印刷物と電子版）及び卒業論文発表会 |

学生による授業評価

毎学期終了直前に、学生は履修中の科目についてアンケートに回答する。アンケートは無記名で実施され、本学の教育課程の評価及び改善に活用される。

学業上の誠実

本学では教育の場として、学生と教員に学業上の誠実さを十分に保持することを求める。学生は、試験、宿題、研究発表（レポート）等すべての課題に誠意をもって取り組むことが求められる。学業上の誠実さの意味について疑問がある学生は、教員と相談してその概念の理解を明確にしておいてもらいたい。

本学の学生はしばしばグループで学習し互いに学び合う。教員の指示に基づくグループ作業は学習上有効である。課題によってはレポートを作成する際などに文献等を活用することもしばしばあるが、引用文献の出典を明記する限り学習上の正当な行為であるとされる。

不当な行為とは以下を指す。

- a. 不正： 試験、宿題、レポート、卒業論文などにおいて、カンニングを行ったり、虚言で

固めたものを提出したり、他人が作成したものを自分のものとして提出したりすること

- b. 偽造： 宿題、レポートや卒業論文作成などにおいて、情報や引用文献等の偽造を行うこと
- c. 盗用： 著作者の許可あるいは引用なしに、他人の言葉や考えを自分のもののように取扱い表示すること

このような不当な行為は、教育の場で最も重要である信頼の絆を壊すことになるので、非常に深刻な問題とみなされる。特に、将来、小学校などの教員になることを目標としている学生がこのような不正行為を行うことは極めて遺憾と言わざるを得ない。従って、もしこのような不正行為を見つけた場合には学則第 57 条、履修規定第 12 条により処分の対象となる。

休学

疾病その他特別の理由のため 2 ヶ月以上就学することができない場合には、休学が認められる。疾病のため休学する場合には、保護者連署の休学願に医師の診断書を添付しなければならない。休学期間は在学年限に算入されない。休学後の復学は、復学願の届け出を経て翌学期より認められる。休学願用紙は、学生部で受け取る。休学期間は連続 2 年、通算 4 年を越えることができない。休学中の納付金については学則第 48 条を参照にすること。

退学

退学を願い出る学生は、学生部に申し出なければならない。学生部は、退学に伴う手続きを行う。また、退学願には学生とその保護者の署名を必要とする。授業に出席しない等の行動は、退学に値しない。当該学期の授業料および諸費用は返還されない。

除籍

次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- (2) 所定の登録手続きをせず、また休学、退学の手続きをしない者
- (3) 授業料、諸費の未納が 3 ヶ月以上に及ぶ者
- (4) 在学年限を経過してもなお卒業に必要な単位を取得できない者
- (5) 休学期間を超えてもなお復学もしくは退学しない者
- (6) 行方不明者又は死者

除籍された者が再入学を願い出たときは、学長は教授会の審議を経てこれを許可することができる。

他大学等で修得した単位の認定について

- 1. 大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、新たに本学部の第 1 年次に入学した学生で、他大学で既に取得した単位については 30 単位を越えない範囲で、本学において取得したのものとして認定することができる。
- 2. 教育上有益であると教授会が判断した場合に、他大学又は短期大学において取得された単位については、60 単位を越えない範囲で本学部において取得したのものとして認定することができる。ただし、編入学・転入学の場合を除く。

個人情報の取扱いについて

宮崎国際大学（以下「本学」という）では、入学予定者、在学生の個人情報のみならず、保護者や卒業生などの個人情報を取扱っています。個人情報の不正使用や流出を防ぎ、個人情報を適切に管理・使用していくためには、国が定める「個人情報保護法」ならびに「学校法人宮崎学園個人情報の保護に関する規程」等の学園内諸規程を策定し、これらに則って、以下の通りに取扱います。

1. 個人情報とは

本学が、業務上取得する在学生ならびに卒業生、入学予定者に関する情報であり、入学手続き時に提出された氏名、住所、生年月日、写真、その他の記載により個人を特定できるものを言います。また、在学中の修学上本学が作成する正課内外における情報（成績情報、指導記録、活動記録など）も含まれます。

2. 利用目的

本学では以下に掲げる教育研究、修学支援に必要な業務を遂行するため、業務上取得した学生および保証人等の個人情報を主に、次の目的のために適正に利用します。利用目的に大きな変更が生じる際は、学生ならびに保証人に同意を得ます。学生の個人情報は学籍番号で分けし、主に、以下の業務遂行のため利用します。

（1）学籍関係

学籍情報の管理、クラス名簿等の作成、休学・退学・復学等の諸手続き、編入学・転入学・再入学など

（2）修学関係

履修相談、履修指導、履修登録・通知、授業・定期試験、成績処理・通知、単位認定、卒業判定、諸資格認定など

（3）学生生活

学生生活全般に関わる指導・助言、学生支援に関わる指導記録作成、奨学金関連業務、定期健康診断・日常の健康相談、課外活動支援、外国人 留学生在留等手続、入寮・退寮手続、学生災害障害・賠償保険手続など

（4）進路関係

就職・進路全般に関わる支援、就職・進路全般に関わる指導記録作成、進路希望登録、進路登録、就職斡旋、自主実習、課外講座運営、模擬試験運営、卒業後の在職状況把握など

（5）その他

各種連絡・呼び出し・通知、各種証明書発行、*卒業アルバム制作、*本学広報に関わる媒体への掲載、各種調査報告、学則による処分など

* 制作の際に撮影した画像等の肖像権は大学に帰属するものとします。また、授業・課外活動・その他学校行事の際に撮影した写真・映像等は 本学の教育活動および大学広報のために、大学案内をはじめとする広報媒体に使用することがあります。

3. 個人情報の第三者提供について

本学では、教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するために、学生ならびに保証人等の個人情報を下記の通り、第三者に提供することがあります。外部業者へ業務委託する場合の業者選定にあたっては、個人情報保護体制が確立した業者を選定し、機密保持契約を締結します。

（1）学生の学業成績等の修学状況を保証人に提供します。本学では、保証人との連携による修学指導が教育上有効な手段であると考え、年度末の成績確定の段階で保証人宛に「成績通知書」を送付します。また、本学が開催する保護者懇談会においても履修状況・単位修得状況を提示

しながら、学生生活・修学状況・進路支援等について個別面談を行います。

- (2) 学生の個人情報を同窓会に提供します。本学では、卒業生間のつながりの必要性を認識するとともに、同窓会活動と本学との連携を重要視しています。その活動を支援するため、学生の情報（氏名・卒業学科・住所など）を提供します。
- (3) 学生の個人情報を後援会に提供します。本学では、後援会活動と本学との連携による修学支援、修学環境整備等を重要視しています。その活動実施のため、学生の情報（氏名・所属学科・住所など）を提供します。
- (4) 本学の広報誌媒体作成に伴う個人情報・写真等を作成委託業者へ提供します。
- (5) 学生の健康診断実施に伴う個人情報を医療機関へ提供します。
- (6) 免許・資格の申請を行うため、学生の個人情報・成績情報などを管轄諸官庁に提供します。
- (7) 学生のインターンシップ・学外実習・ボランティア・海外留学等に伴う個人情報を受け入れ先に提供します。
- (8) 学生教育研究災害障害保険・学研災付帯賠償責任保険の加入手続きのために、学生ならびに保証人の個人情報を関連の保険会社に提供します。
- (9) 学生の奨学金の申請・交付・継続申請に伴う個人情報を奨学金団体に提供します。
- (10) 学生の国内外の研修旅行・留学の実施に伴う個人情報を旅行代理店等に提供します。
- (11) 外国人留学生の在留等手続を行うため、学生の個人情報・成績情報などを管轄諸官庁に提供します。
- (12) 法令に基づく場合や、学生本人または第三者の生命、身体の安全または財産その他の権利保護のため、緊急の事情、国・地方公共団体などへの協力義務に基づく合理的理由がある場合は、例外的に学生または保証人の情報を提供します。

4. 共同利用について

本学では、上記2の利用目的のために、各部署で個々に業務上取得・作成した学生および保証人等の個人情報を部署間で共有します。

5. 個人情報の管理について

- (1) 業務上取得した個人情報ならびに成績情報・就職状況等の情報は、紙もしくは電子データの形態で保管します。
- (2) 個人情報の管理にあたっては、「個人情報保護法」ならびに「学校法人宮崎学園個人情報の保護に関する規程」等学内諸規程に則って、適正に利用・管理・廃棄します。

6. 個人情報の開示について

本学が業務上取得および作成した個人情報については、本人に帰属する情報に限り、開示請求することができます。しかしながら、個人情報のなかには開示請求に応じられない情報もあります。その場合は、その理由を文書により通知します。開示請求窓口は総務課です。

7. 問い合わせ・相談窓口について

宮崎国際大学 総務課

〒889-1605 宮崎市清武町加納丙 1405 番地

電話：0985-85-5931

高等教育コンソーシアム宮崎及び単位互換

宮崎国際大学は「高等教育コンソーシアム宮崎」の加盟大学となっている。本学の学生は同コンソーシアムに参加している機関として、加盟大学の授業について所定の手続きを経て提供される科目を履修し、単位認定を受けることができる。

履修を希望する学生は、本学ホームページ右下にある「コンソーシアム宮崎」(<http://www.consortium-miyazaki.jp/>)に記載されている提供科目等を調べた上で、受講手続を教務課において行わなければならない。なお、コンソーシアム加盟大学で履修した授業は、入学料及び授業料は無料である。

学生は受講後、履修科目を示すポートフォリオを提出しなければならない。また、履修した授業（単位）は、原則として卒業単位として認められない。

その他、教育学部で取得できる資格

【防災士資格】

教養科目・自然系列「自然災害と防災」受講について

(授業の概要)

○シラバスは、本学HPにアップされているので、必ず確認しておくこと

宮崎県は、九州地方南東部に位置し、年間を通して温暖な気候に恵まれています。しかし、一方では全国有数の雨が多い県であり、さらに夏季期間中には台風の直撃を受けるなど、風水害や土砂災害に悩まされてきました。また、宮崎は、近い将来、南海トラフの西端に位置する日向灘で起こる海溝型の地震である東南海・日向灘地震による大きな被害が想定されています。特に、過去の歴史をさかのぼると、日向灘地震は大津波を伴い、多くの犠牲者を出してきました。また、霧島連山では平成23年に新燃岳が噴火し、多くの被害が発生しました。従って、これらの災害・被害等を最小限にするために、小学校・幼稚園・保育園等の教員を目指す学生には、ソフト・ハードの両面から、自然災害が起こる仕組みや防災対策・情報等を事前に知っておくことは極めて重要となります。

本講義では、日本防災士機構による防災士養成カリキュラムに基づき、「命は自分で守る(自助)」「地域で活動する(共助・協働)」「災害発生のしくみを学ぶ(科学)」「災害に関わる情報を知る(情報)」「新たな減災や危機管理の手法を身につける(予防・復興)」の分野(合計31項目)について、受講・学修することにより、災害発生の仕組みを理解し、ついで、防災・減災対策について行政・地域における現状と課題について、さらには一旦発生した災害を想定した危機管理の手法を学修・理解します。また、本講義を受講した後、救急救命講習を受講し、さらに日本防災士機構による試験に合格し、所定の手続きを行った場合に防災士の資格認定が行われます。

また、小学校・幼稚園を目指す学生は、防災教育について別添のように位置付けられており、また防災教育について「総合学習時間の指導法」等で授業することが学習指導要領等において求められているため、「選択必修」としています。

(受講について)

すべての講義について、学外からの講師により実施されます。従って、休講が生じた場合以外、補講は実施できません。講義は6時限(18:00~19:30)あるいは一部は土曜日に開講します。予め了解の上、受講してください。

(単位の認定)

単位認定と資格認定は異なる基準で行われます。十分な理解・了解の上、受講してください。単位認定は、学則・履修規程に沿って行われます。すなわち、①欠席が1/3を超えた場合、受験資格が消失します、②受講した講義・レポート項目のすべてについて、レポート提出が必須です、③成績評価は(秀「~90点」・優「89~80点」・良「79~70点」・可「69~60点」・不可「59点以下」)で行われます。

(防災士資格の申請)

「自然災害と防災」による防災士資格取得には、以下の条件を満たすことが必須です。

- シラバスに記載されている31項目(講義及びレポートと記載)のすべてについて、レポート提出する必要があります。もし、欠席した場合(公欠の場合)、録画した映像による受講が必ず行ってください(8割以上の講義出席が条件です)。
- 教本代、受験料、認証登録料の費用が必要です。
- 救急救命講習の受講・修了が必須です。宮崎国際大学において受講した学生は、宮崎市南消防署による救急救命講習を実施予定。後日、案内します。

(防災士資格の取得)

- 日本防災士機構が監理・実施する資格試験に合格し、資格申請・認定を受けたもの。
- 再試験を希望する不合格者は、機構が指定する日時・会場に出向いて受験することができます。
- 可否の通知は、受験者本人及び養成機関宛に郵送で通知されます。

(防災士資格の認証手続き)

- 防災士の認証登録手続きは、養成機関から一括申請となっているため、宮崎国際大学教務課へ申請してください。
- 防災士確認証は、日本防災士機構により、申請・認定者に対して、防災士認証状(A4版縦型賞状様式)及び防災士証(プラスチックカード製の顔写真入り縦型名刺型状)を交付されます。

(その他)

- 日本防災士機構は、防災士の認証等により取得した個人情報について、「個人情報保護方針」「個人情報取扱規程」に基づき、個人情報保護に関する法令を遵守・管理に努めます。ただし、国、自治体及び日本防災士会から開示請求があつて、その利用目的が防災士制度の目的に適合すると認められた場合に限り、防災士の個人情報の一部を提供することがあります。
- 不明な点等あれば、教務課に問い合わせして下さい。

発達段階に応じた防災教育

ア 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができる。(知識、思考・判断)
イ 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができる。(危険予測、主体的な行動)
ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。(社会貢献、支援者の基盤)

高等学校段階における防災教育の目標

安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域の防災活動や災害時の支援活動において、適切な役割を自ら判断し行動できる生徒

ア 知識、思考・判断 ・世界や日本の主な災害の歴史や原因を理解するとともに、災害時に必要な物資や支援について考え、日常生活や災害時に適切な行動をとるための判断に生かすことができる。	イ 危険予測・主体的な行動 ・日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し、回避するとともに災害時には地域や社会全体の安全について考え行動することができる。	ウ 社会貢献、支援者の基盤 ・事前の備えや災害時の支援について考え、積極的に地域防災や災害時の支援活動に取り組む。
---	--	--

中学校段階における防災教育の目標

日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒

ア 知識、思考・判断 ・災害発生メカニズムの基礎や地域の災害例から危険を理解するとともに、備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。	イ 危険予測・主体的な行動 ・日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ・被害の軽減、災害後の生活を考え備えることができる。 ・災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができる。	ウ 社会貢献、支援者の基盤 ・地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加する。
---	--	---

小学校段階における防災教育の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童

ア 知識、思考・判断 ・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する。	イ 危険予測・主体的な行動 ・災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる。	ウ 社会貢献、支援者の基盤 ・自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる。
--	--	---

幼稚園段階における防災教育の目標

安全に生活し、緊急時に教職員や保護者の指示に従い、落ち着いて素早く行動できる幼児

ア 知識、思考・判断 ・教師の話や指示を注意して聞き理解する。 ・日常の園生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。 ・きまりの大切さが分かる。	イ 危険予測・主体的な行動 ・安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動する。 ・危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐ知らせる。	ウ 社会貢献、支援者の基盤 ・高齢者や地域の人と関わり、自分のことをする。 ・友達と協力して活動に取り組む。
--	--	--

障害のある児童生徒等については、上記のほか、障害の状態、発達の段階、特性及び地域の実態等に応じて、危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めることができるようにする。

学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開（文部科学省）より引用

【児童福祉任用資格】

都道府県に設置された児童相談所で児童の保護・相談および専門的技術に基づいて必要な

指導を行うための資格。

*卒業後に1年以上の実務が必要

【社会福祉主事任用資格】

福祉事務所や児童相談所等の指導主事、ケースワーカーおよび福祉施設の指導員、社会福祉協議会などのコミュニティーワーカーなどを担うための資格。

*次の指定科目のうち3科目以上を修めたもの（①倫理学、②心理学概論、③教育原理、④保育原理、⑤児童家庭福祉、⑥社会福祉、⑦相談援助）

【児童指導員任用資格】

児童福祉施設のうち入所施設に従事する職員で、児童の生活指導を行うための資格。

【准学校心理士資格】

「学校心理士」は、1997年度より一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定を行っている資格である。本資格は、あらゆる学校生活におけるさまざまな問題に対して、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身・子どもを取り巻く保護者や教師・学校などに対して、学校心理学の専門的知識と技能をもって、心理学教育的援助サービスを行うことのできる人に対して認定する資格である。これまでに7,000人を超える学校心理士が誕生しており、1条校（幼小中高等学校・特別支援学級・教育センター・教育相談所・保育所）などで、幼児・児童・生徒や一般の人に対して教育・援助活動に従事し、活躍している。

「准学校心理士」は、学校心理士に準ずる資格として2019年度より認定制度が開始されている。本認定制度は通常より短い実務経験期間で学校心理士資格試験が受験できる。本学部も、2019年度一般社団法人学校心理士認定運営機構から「Aタイプ校」として申請・認定を受けており、指定された（「教育心理学」「教育相談」「保育の心理学」「特別支援教育概論」）から3科目6単位を履修し、同機構に申請費用等を添えて資格取得申請を行うことにより「准学校心理士」資格が授与される。

*Aタイプ校（学校教員・保育士類型）1条校（学校教育法）の教員免許または保育士資格を有するもの（取得見込みを含む）を対象に准学校心理士資格を認定する。

学校心理士資格は、准学校心理士資格所得後、1条校における3年間の実務経験を経て、学校心理士資格試験を受験し、合格した人は「学校心理士資格」が取得できる。

詳しくは、「学校心理士認定運営機構：<http://www.gakkoushinrishi.jp/>」あるいは教務課に問い合わせること。

【情報処理士】

業務の課題を解決するための最新の情報活用能力を身につけます。必修修得単位数6単位以上（本学では必修単位8単位以上）を含めて10単位以上を履修し、到達目標を達成すること。学則別表15(5)情報処理士資格参照

この資格は、一般財団法人全国大学実教育協会に申請することで資格授与されます。別途、資格授与の申請費用がかかります。詳細は<https://www.jaucb.gr.jp/>を参照

IV 学 生 生 活

学生生活上の規則及び情報

学 費 納 入

本学の学費納入に関する主な規定は下記のとおりである。

(学 費)

1. 学費とは「授業料」、「施設設備費」、「その他」を言う。
※「その他」は、海外研修費用、教育実習費用等である。

(学費の納入期限)

2. 学費の納入期限は下記のとおりであり、期限内に納入すること。
 - ・ 前期・・・4月10日
 - ・ 後期・・・10月31日但し、大学が認める正当な理由により学費の延納あるいは分納を願い出る場合には、上記の納入期限までに「学費延納願」あるいは「学費分納願」を学長宛に提出する。
(「学費延納願」・「学費分納願」用紙は総務部に請求のこと)
 - ・ 海外研修費用、教育実習費用の納期は別途指示する。

(学費の納入延期期間・分納納付期限)

3. 学費の納入延期期間は学費の納入期限(前期：4月10日、後期：10月31日)の翌日から3ヶ月以内とする。
学費の分納納付期限は、(前期)第1回目4月10日、第2回目7月20日、(後期)第1回目10月31日、第2回目1月20日とする。

(学費未納の場合の除籍)

4. 学費納入の義務を怠り、3ヶ月以上納入しない場合は本学学則により除籍される場合がある。

(欠席又は停学中の学費)

5. 学費は、欠席又は停学中であっても減免されない。

(休学中の学費)

6. 学期が始まる前に休学願を提出した場合の休学期間中の授業料・施設設備費の納入は免除する。但し、1学期につき在籍料として30,000円を納入しなければならない。学期の途中において、休学する場合はその学期分の授業料等学生納付金を納入しなければならない。
※休学中も後援会費は納入しなければならない。

(退学又は除籍の場合の学費)

7. 退学を願い出る者は、その学期までの授業料等学生納付金を納入しなければならない。退学又は除籍の場合、既納の学費は返還されない。また、未納の時は、ただちにこれを納入しなければならない。

(既納の学費の返還)

8. 既納の学費はいかなる理由があっても返還されない。
*不明な点は総務部会計課まで

誓約書

本学に入학을許可された者は、所定の誓約書に署名押印し、入学手続きのときに、学長に提出しなければならない。

学生証

- 1) 学生は入学と同時に学生証の交付を受け、常時これを携帯しなければならない。
- 2) 学生証は宮崎学園図書館の貸出カードと兼用になっている。
- 3) 学生証は退学時、又はその有効期間を経過したとき、直ちに返納しなければならない。
- 4) 学生証を紛失、汚損したときは、直ちに学生証再交付願を総務部に提出して、再交付を受けなければならない。
- 5) 学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

住所等の個人情報の変更届

本人及び保証人に次の事項が生じた場合、学生部に備え付け用紙に変更事項を記入し、学生部に提出しなければならない。

- 1) 現住所及び連絡先（電話番号を含む）に変更があったとき
- 2) 改姓及び改名
- 3) 保証人の変更

保険

本学の学生は、（財）日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」および「学研災付帯賠償責任保険（学研賠）」に加入している。

大学の教育研究活動中や課外活動中に被った事故による身体の傷害や、通学などの移動中に発生した身体の傷害事故に対し、保険金が支払われる。また、学生が、正課・学校行事・教育実習などの活動で他人にけがをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償が補償される。

保険支払の対象となる事故・支払保険金額等の詳細については、学生部に照会のこと。

定期健康診断及び健康管理

- 1) 健康診断は、学校保健法に基づき毎年4月（診断日は掲示板等で告示する）に実施している。とくに、教育職を目指す学生は、必ず受診し、その目的を知る必要がある。受診しなかった学生は、所定の医療機関で健康診断を受診し、診断証明書を学生係に提出すること。
- 2) 保健室が1号館1階、保健管理センターが4号館1階にあり、気分が悪くなった学生や怪我等で応急処置が必要な場合は利用できる。
- 3) 近くの医療機関は、**インフォメーション**に記載されているので参照のこと。

施設設備等の利用・借用

(施設借用方法)

- 1) 学内の施設を使用する場合は、必ず「施設借用願」を本学事務局に提出すること
- 2) 国際交流センター・体育館・グラウンドなど、短大との共用施設及び短大施設の借用については、「短大施設借用願」を本学事務局に提出し、最終的に短大事務局の許可を得ること。
- 3) 借用理由・目的や他団体との競合により、必ずしもすべての施設が借用できるとは限らない。

(施設借用期間)

- 4) 学期期間中の学内での活動は、原則として授業時間を除く16:30～20:00とする(昼休み時間等の活動は認めない)。但し、「企画書」等の申請により、本学の許可した活動はその限りではない。
- 5) 土日祝日及び休業期間中(平日)の活動・施設借用時間は、9:00～20:00とする。但し、休業期間中も教員は研究等で大学に勤務しているので、平日17:00までは建物内で「音を鳴らす」「踊る」等、周辺に影響を及ぼす恐れのある活動を禁止する。なお、休業期間中は一部を除き全ての教室に施錠をする。
- 6) 年末年始や大学行事(オープンキャンパス・入学試験など)が行われている間は、原則として学内施設の使用を禁止する。そのため、学生は学内イベントの日程を掲示板またはMIC SKY カレンダー等で確認すること。

(部外者の利用)

- 7) 本学内へ学外の者(部活の講師、練習試合の相手などを含む全ての部外者)が本学の施設を利用する際「クラブ/サークル活動 部外者招待許可願」を本学事務局に提出すること。

(学外での活動)

- 8) 学外にて活動を行う場合、本学事務局へ「学外課外活動届・参加者名簿」の届出を行うこと。届出がないものは、一切これを本学の活動と認めない(無届の場合、有事の際に学生保険等が適用されない為)。なお、活動後は「学外課外活動報告書」を提出すること。

(その他)

- 9) 上記に関して、著しい違反が見られる場合、大学より何らかの指導がなされることがある。

カウンセリング

アドバイスやカウンセリングが必要と思う学生は、まず気軽に相談できる教職員またはスクールカウンセラーの手助けを求めてください。「こんなことで相談してもいいのかな」と思うようなことでも大丈夫です。

本学では、公認心理師の資格をもったカウンセラーが勤務しています。1年生は4月から優先的に必要に応じて個人面談を受け、カウンセラーは今後どのように学生の悩みと問題を解決していけば良いかを検討し、より適切なカウンセリング方法を考えるようにしています。このようなサポートを通して、学生はより良い環境で学業に励むことができます。また、教員やアドバイザー、あるいは学生部職員も学生の悩みの相談相手になり、また問題の内容によっては適切な相談相手や部署・外部機関の紹介をします。相談の内容は原則として秘密厳守ですから、安心して相談してください。

もし周りに悩んでいる友人がいたり、友人に次のような状況が見られた場合には、一人で抱え込まず、適切な相談相手や部署に相談してください。

- ・ 憂鬱っぽい
- ・ 頻繁に泣く
- ・ お酒を飲みすぎている
- ・ 友達と関わらなくなった
- ・ 頻繁に授業を欠席している
- ・ 家族と時間を過ごしたくない

悩んでいる学生を助けようとしている人は思いやりをもって接してください。また、悩みのある学生は自ら手助けを求めることが難しい場合があります。相談にのる教職員などは、原則としてすべての秘密を保守すると伝えることで悩んでいる学生を安心させることが大切です。よくある悩みの相談例は下記のとおりです。

(例)

- ・ 宮崎での生活に馴染めない
- ・ 授業についていくのが難しい
- ・ 家族の問題（両親からの過度な期待がある等）
- ・ 出席が容易でない
- ・ 友達ができない
- ・ 経済的問題を抱えている
- ・ 異性問題で悩んでいる
- ・ 先生に話かけられない
- ・ 飲酒問題が深刻になってきた
- ・ 健康相談の情報が欲しい
- ・ 理由なく落ち込んだり、悲しくなる
- ・ 生活習慣が整わない
- ・ 気分の落ち込んだ状態が長く続いている
- ・ 眠れない（朝起きるのがつらい）

奨学金制度

多くの奨学金の募集は4月に行われ、学内説明会を行う。奨学金受給を希望する学生は必ず出席のこと。募集や説明会、面接の日程については、掲示板やメールで告知するので、看過しないよう注意を要する。

奨学金名称（過去実績のあるもの）

日本学生支援機構（旧日本育英会）、宮崎県育英会資金、壽崎育英財団、あしなが育英会、保育士奨学資金（宮崎県社会福祉協議会）、ほか地方公共団体奨学金

アルバイト

大学としては最初の1年半、学期中にアルバイトをしないことを強く勧めている。MICで講義等を十分に理解し、教育目標を達成しディプロマシーを獲得するためには、勉学のために十分な時間とエネルギーを必要としており、経済上の必要性から是非ともアルバイトをしなければいけない学生は、アドバイザーと良く相談の上、適切な指導・助言を受けること。

駐車場

駐車場は限定されており、学生用には有料・抽選で割り当てられる。応募方法は総務部より毎年2月と7月に全学生に案内される。

学生の本学駐車場の利用は、運転免許証を取得後2ヶ月以上経過し無制限の対人賠償保険に加入している者に限定されている。

遺失・紛失物

MIC キャンパス内で物を紛失した場合や遺失物を発見した場合は、総務部に届け出ること。

大学行事

MIC 講演会シリーズ

本学では教職員や学生の関心に応え、宮崎の地域住民との交流を目的に、様々なテーマでの講演会シリーズを開催している。

MIC の講演会シリーズでは、講師として本学の教員はもとより学外の研究者、異なる国籍、専門分野の専門家をお願いしている。過去の例では、異文化、歴史、政治、環境、比較言語、教育などの幅広い分野のトピックを取り上げており、本学のキャンパスはもとより地域住民に向けて参加を広く呼びかけている。

MIC 大学祭

MIC の大学祭は毎年 10 月に 2 日間にわたって開催されている。これは学生主体のイベントとなっており、MIC の学生・教職員はもちろん、他大学の教職員や学生や地域にも広く参加を呼びかけている。毎年国際的なテーマを設定するなど、大学祭の取りまとめと運営を行う MIC 学生のユニークな気質をよく反映したイベントとして好評を博している。

学生アシスタント・ワークスタディー

本学では、下記資格を満たしている学生を対象に、学生アシスタント (SA と称す)・ワークスタディー制度を実施しています。SA とは授業内学習支援、課外学習 (学生数名に対して授業内容の予習・復習) 補助や授業内学習補助、その他大学が認めた業務等を行います。

大学は業務に従事した時間を基に、報酬を支払います。

【資格】

人 物	意欲的で責任感のある者
学 年	1 年生～4 年生 (ただし、1 年生は後期から募集)
学業成績	国際教養学部 原則として GPA 3.0 以上 ただし、学習補助等に従事する場合は GPA 3.5 以上かつ TOEIC 650 点以上 教育学部 原則として GPA 3.0 以上 ただし、学習補助等に従事する場合は GPA 3.5 以上 英語学修補助に従事する場合は GPA 3.5 以上かつ TOEIC 650 点以上

アドバイザー（指導教員）制度

入学すると同時に学生には、アドバイザーが付く。アドバイザーは、学生各自の興味や希望を聞いた上で、履修登録、学習計画等に関するきめ細かな教育指導を行うとともに、個人的問題に対しても個別にアドバイスするなど、学生の学業や大学生活全般に対して積極的に指導・助言する。

アドバイザーアシスタント制度について

入学直後の1年生は、アドバイザー（指導教員）に相談したくても消極的になりがちである。本学では、「アドバイザー」と1年生の間にアドバイザーアシスタント（先輩学生）が付くシステムを採用している。アドバイザーアシスタントは、本学3年生で構成され、例えば1年生が授業で理解に難しいところがあり、先生に質問に行きたいがどのようにしたらよいか分からない場合などに、一緒に教員のオフィスにまで付き添い、1年生とアドバイザーのコミュニケーションを支援する。その他、アドバイザーアシスタントは1年生の先輩学生として、授業や大学生活などの相談に乗ったりアドバイスをしたりなどと、新入生を親身にサポートする。

学生行動規範

目的

本行動規範は、本学の教育的価値観、教育目標、そして学生および本学構成員に対して本学が求める行動等を規定したものである。また、ここに記される学生の権利と責任は、学生に対し、本学の教育を受ける過程において、人間としての成長、主体性の育成を求めるものであることも付け加えておく。

学生の権利

1. 学位取得に必要な科目を選ぶ際、それに必要な学業上の情報を適時に与えられる権利
2. 卒業必須条件を満たすにあたり必要な履修状況とその進捗に関する情報を適時に得る権利
3. それぞれの科目において、その成績評価方針をコース開始1週間以内に知る権利
4. 授業を妨害しない、あるいは他人の権利を阻害しない平和的態度をもって、自らの意見を自由に述べる権利
5. 授業や課外活動を邪魔したり、あるいは潰そうとする人に煩わせない権利
6. 教員からの評価後に自らの学業上の提出物を再度見ることができる権利。
7. サイエンス・プロジェクト、エッセイ、期末レポート等、自らの学業上の提出物を保持する権利
8. 人種、宗教、性的志向性、年齢、身体的障害、社会的地位、国籍に基づく差別を教職員および他の学生の誰からも受けない権利
9. 指定の喫煙場所以外の所では煙草の煙のない環境に居られる権利

学生の責任

1. MIC Bulletin、学生ハンドブックに規定されている規則や方針及び日本国の法律を理解し、遵守する責任
2. 授業に遅刻せず、出席する責任
3. 筆記・口頭を問わず、試験を受ける際あるいは課題を行う際、‘学業上の誠実さ’に従う責任（‘学業上の不誠実さ’とは、不正行為や盗作行為等を意味する）
4. 思いやりを持ち、礼儀正しく、勤勉な態度で他の学生、その他の人々とキャンパス内で接する責任
5. 現在の住所・電話番号を大学に知らせる責任
6. 公的仕事の遂行において、その任を任された大学の職員の指示に従う責任
7. 他人の権利や財産を尊重する責任
8. 火災や安全に関する規則を遵守する責任
9. 決められた喫煙場所以外では煙草を慎む責任
10. 自動車、バイク、自転車の駐車、駐輪に関する学内規則に従う責任

罰則規定

本学の学生となった者は、学生に対する行動規定を遵守することに同意したものとみなされる。それ故に、規程違反などが見つかった場合は、学則に基づき相応の処分を受けることになる。

その他の規則

喫煙規定

他人が喫煙しているタバコの煙は、喫煙していない者の健康にも同等のタバコの害を与える、いわゆる受動喫煙（副流煙ともいう）ことが科学的に立証されている。大学施設内では「喫煙は指示されている場所」以外は全面禁煙となっている。また、その他、吸殻のポイ捨てなどについても、火災につながる恐れがあることから、絶対禁止である。

飲酒規定

日本の法律により、「20歳未満の者は禁酒」となっている。従って、いかなる場合においても20歳未満の学生の禁酒とこれら学生への酒類の提供を禁止する。また、たとえ20歳以上であっても過剰なアルコール摂取は心身を害するため、学生諸君にはその節制を強く求める。

本学は教育機関であり、学生が飲酒により心身を害することがないように指導している。
これらの指導に従わないものは、学則に沿って懲戒の対象とする。

学校法人宮崎学園ハラスメント等の防止・対策に関する規程（一部抜粋）

（目的）

第1条 この規程は、学校法人宮崎学園（以下「学園」という。）におけるハラスメント等を防止するとともに、ハラスメント等に係る苦情の申出及び相談（以下「苦情相談」という。）の体制を整備することにより、ハラスメント等に起因する問題が生じた場合に適切に対応し、健全な学習、教育・研究及び職場環境を確立することを目的とする。

（適用範囲）

第3条 この規程は、次に掲げる者に適用する。

- (1) 学園に勤務する役員及び教職員（非常勤の者を含む。）
- (2) 学園の各学校に在籍する全ての学生・生徒・園児（以下「学生等」という。）
- (3) 学生等の保護者、関係業者、その他学園と職務上又は教育・研究上等の関係を有する者

（定義）

第4条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) ハラスメント等
セクシュアル・ハラスメント、ジェンダー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント及びその他の人権侵害をいう。
- (2) セクシュアル・ハラスメント
他の者を不快にさせる性的な言動をいう。
- (3) ジェンダー・ハラスメント
男女の役割分業意識に基づく不快な言動をいう。
- (4) アカデミック・ハラスメント
職階上の嫌がらせ、研究妨害、昇任の差別等のほか、学生等の人権を侵害するようないじめ、差別、体罰等をいう。
- (5) パワー・ハラスメント
役職者が職務上の地位又は権限を不当に利用して他の教職員に対して行う不適切な言動をいう。
- (6) マタニティ・ハラスメント
妊娠・出産・育児休業・介護休業等の取得などを理由として、上司・同僚等からの否定的な言動をいう。
- (7) ハラスメント等に起因する問題
ハラスメント等のため学業や職務遂行に関連して、一定の不利益・損害を被ること及び就学、職務、教育・研究、課外活動等の遂行を妨げる等の環境を悪化させることをいう。
- (8) その他の人権侵害
性、人種、国籍、年齢、障害の有無等に基づく差別的な言動及び取り扱い等あらゆる偏見やいじめ等による人権侵害をいう。

（相談窓口）

第9条 ハラスメントの相談を受け付けるため、次に掲げる窓口を設置する。

- (1) 学園の教職員等（委託業者・派遣社員等、学園の業務遂行に係る者を含む。）の相談窓口は、法人本部総務部総務課とする。
- (2) 大学の学生の相談窓口は、学生部とする。
- (3) 短期大学の学生の相談窓口は、学生支援部とする。
- (4) 中学校・高等学校の生徒の相談窓口は、生徒指導部とする。
- (5) 認定こども園の園児に係る保護者の相談窓口は、主任保育教諭とする。

宮崎国際大学学友会会則

第1章 総則

第1条 学友会は、宮崎国際大学学友会と称し、事務所を本学内に置く。

第2条 学友会は、会員相互の親和協同により教養の向上、健康の増進を図り、本学教育の拡充発展に資することを目的とする。

第3条 学友会は、本学学生をもって組織する。

第2章 会議

第4条 学友会に次の会議をおく。

1. 代議委員会
2. 総会

第5条 代議委員会は代議員をもって組織し、学友会運営に必要な事項を審議決定する。

第6条 総会は学友会の会員を持って組織し、会則の決定・改正・予算・決算の承認、その他特に重要な事項を審議決定し、総会・代議員会の決議事項については、学生部長に報告する。

第3章 役員

第7条 学友会に次の役員を置く。

1. 会長（1名）
2. 副会長（2名）
3. 会計（2名）
4. 幹事（4名）
5. 議長（1名）
6. 副議長（1名）
7. 代議員（各クラス2名）
8. サークル部長会
幹事長（1名）
副幹事長（2名）
9. 代理学友会兼会計監査委員会（4名）

第8条 会長、副会長、会計、幹事は、会員の選挙により選出し、議長、副議長は、各学年、各学級より2名選出する。

第9条 会長は学友会を代表する。副会長は、会長を補佐し、会長不在の時にその職務を代行する。

第10条 会計は、学友会会計事務にあたる。

第11条 幹事は学友会会計の補佐にあたる。

第12条 代理学友会兼会計監査委員は、代議員会の互選により決定する。

第13条 議長及び副議長は、代議員会、総会の運営にあたり、その議長、副議長となる。

第14条 幹事長はそれぞれ文化部・体育部の代表とする。

第15条 役員の任務は1ヶ年とする。

第4章 会計

第16条 会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

第17条 学友会の通常経費は会費及びその他の雑収入を持って当てる。会費は、年額円とし、一括で納入するものとする。学友会の納入金の保管及び現金出納は学友会会計が行う。

第18条 臨時に特別な経費を必要とするときは、総会の承認を得て臨時会費を徴収することができる。

第5章 会計監査

第19条 会計監査は、年2回とし、10月末に中間決算、3月末に最終決算を行い、会計監査委員がこれを監査する。

第6章 補足

第20条 総会、代議委員会、サークルの運営については別に定める。

第21条 学友会会則は、平成11年5月20日から施行する。

総会会則

第1条 総会は、学生部長の許可を得て会長がこれを召集する。

第2条 総会は、原則として学年始めに定例総会を開く。ただし、会長が必要と認めた場合、または代議委員会の要求があったときは臨時総会を開くことができる。

第3条 総会の開催は、議題とともに3日前までに会長がこれを公示しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りではない。

第4条 総会の審議議長及び副議長がこれに当たる。

第5条 総会は、会員の3分の2以上の出席によって成立する。ただし、委任状は出席と認める。その議決は出席会員の過半数の賛成により賛否同数の場合は議長の決定による。

代議員会細則

第1条 代議員会は次の事項を審議決定する。

1. 役員の罷免
2. サークル（同好会）、クラブ（部）の新設・廃止
3. 行事予定
4. その他の重要事項

第2条 代議員会は議長がこれを招集し、原則として学期毎に開く。但し、代議員の半数以上の要求があったとき、又は会長において必要と認めたときは臨時にこれを開くことができる。

学友会及び部活動

学友会の役割

クラブ活動や学生の参加・関与する全学的行事については在學生を代表して大学側と協議しその解決をはかるとともに、公式行事では學生を代表する。學生のための行事を計画・実行することも学友会の役割である。

学友会活動は役員8人による役員会中心に運営され、役員会は会長、副会長、書記、会計で構成される。総会は各学期に少なくとも2回行われ、全學生が自由に参加できる。

役員選挙は毎年4月下旬に実施され、全學生の投票により決定される。

部活動

新しく出来たグループは当初「サークル」として認定され、1年後に審査を経て「部（クラブ）」に昇格できる。部活動費は正式に登録された「部（クラブ）」に対し、学友会と同時に大学との協議を経て割り当てられる。

現在登録しているクラブ・サークルは下記のとおりである。

スポーツ系	文化クラブ系
野球	オールミュージック
バスケットボール	ウインド・アンサンブル（吹奏楽）
サッカー	ピアノの会
バレーボール	教職クラブ
ダンス	ササミイングリッシュクラブ
バドミントン	虹色カフェ
空手道	TTT（英語サークル）
	手話サークル
	創作サークル
	ホワイトハット ICT
	国際環境サークル（IGC）

新入生に対する入部募集は、4月に開かれる学友会主催のクラブフェアで行うのが慣例になっている。

新しくサークルを結成したい場合は、次の方法に従う。

- ・ 学生部からサークル登録用紙をもらい、説明を受ける。
- ・ 教員にアドバイザー（顧問）を依頼する。
- ・ 学生部に登録用紙を提出し、サークルを登録する。（年度途中でもサークル結成できる。）

クラブやイベントのための施設借用

下記の部屋はクラブの役員の申請に基づき事務局長の許可を受ける。ミーティングやイベント開催1週間前までに借用願書を学生部へ提出のこと。部屋の空き状況は1～2日以内に連絡される。

大学

1号館	収容人数	2号館	収容人数
各教室	最大 75	各教室	8-40
		307	156

大学・短大共有施設

施設
(国際交流センター) 食堂
(国際交流センター) 研修室
SPOON
グラウンド
体育館
テニスコート

宮崎学園図書館

	収容人数		収容人数
2階グループ学習室1・2	3～20	2階会議室	3～15
3階グループ学習室3・4	3～6	3階多目的室1・2	3～40

*図書館施設を利用する場合は、図書館の貸し出しカウンターに照会する。

V 設 備

学内施設設備

プロジェクターの他、視聴覚機器が教室用に整備されている。教室は、少人数教育に合わせて、セミナーあるいは講義形式に柔軟に対応できるようになっている。また、150名収容可能な階段教室では、ワイヤレス音響システムや視聴覚機能を使用した授業やイベントを行うこともできる。

大学のキャンパスは、同じ学校法人下にある「宮崎学園短期大学」に隣接し、図書館、国際交流センター、体育館及びグラウンドを同短期大学と共用している。

コンピューター施設設備

ネットワーク構成

MICは学術情報ネットワーク SINET のインフラを通じてインターネットに接続している。これにより、本学のキャンパス全体で迅速かつ確実な接続が保証される。全学生には、キャンパスネットワークへのログインに使用できるユーザー名とパスワードが提供されるため、プリンタとインターネット・イントラネットリソースへのアクセスすることが可能となっている。

ワイヤレス LAN

MICのワイヤレスネットワーク（Wi-Fi）はキャンパス内でアクセスでき、学生がリエンテーション中に割り当てられたユーザー名とパスワードを使用してログインする必要がある。宮崎学園図書館のWi-Fiも図書館のカウンターで申請するパスワードはで利用することができる。

ネットワークセキュリティ

本学のネットワークはハードウェアとソフトウェアのレイヤーで保護されているが、学生には最新のソフトウェアとウイルス対策のアップデートをデバイスに保存することをお勧めする。未登録のパソコンはインターネットへ接続ができるが、学内サーバーやプリンタを利用できるのは登録済みの端末のみとなっている。

インターネット接続

インターネットは、有効なユーザー名とパスワードを持っている学生が利用できる。パーソナル・デバイスは無制限に使用することができますが、ウイルスやその他不適切に構成されていないパーソナル・コンピュータやウイルス対策ソフトがインストールされていないパソコンから発生したダメージについては、学生が責任を負う。海賊版ソフトウェアまたはP2Pの使用は、MICネットワークに接続されているすべてのコンピュータで厳格に禁止されている。

個人情報の取扱い

学生の個人情報を取り扱うシステムはすべて大学のネットワーク内に保管されている。これらのシステムへの外部アクセスは、セキュリティ手順に従う限り許可される場合があ

る。学生は宿題や授業の課題等を保存するためにクラウドベースのストレージシステムを使用することをお勧めするが、個人情報を保管しないように注意すること。

学内ネットワーク・オンラインサービス

学内ネットワークやオンラインサービスは学業を進める上での重要なツールとして、様々な方法で学生および教職員によって活用されている。

- MIC Intranet <http://sekai.miyazaki-mic.ac.jp> (on-campus only)

学内の情報が一覧できる総合情報アクセスポイントであり、学内のどのコンピュータでもアクセス可能である。Sekai から学内の動きが一目で分かるコミュニケーションや卒業論文情報の他、自分の時間割や成績の確認、履修登録ができる MIC Database にアクセスすることができる。また、学生および教員は、卒業論文ページにアクセスすれば、提出締切日を確認し、論文テンプレートやフォームをダウンロードするなど、卒業論文を完成させるための必要な情報を取得することができる。

- MIC Website <http://www.mic.ac.jp>

MIC のウェブサイトは、イベントやニュースで常に更新されるので、しばしば見ておくことを勧める。また、イントラネット上で利用可能なリンクの多くは、ウェブサイト上にある。これは、キャンパス外から MIC オンラインサービスにアクセスする場合に特に便利。

- MIC Database <https://micdb.miyazaki-mic.ac.jp>

自分の時間割、これまで履修した科目に成績、評定平均値 (GPA)、そして学年が進んでくると卒業に必要な科目に取りこぼしがないかも確認できる。次学期の履修登録もこのデータベースで行う。教員は自分の授業を履修している学生に学習上の困難が認められた場合、このデータベースを通して学生のアドバイザーと教務部職員に報告し、教員・アドバイザー・職員が連携してタイムリーな指導・支援に努める。

- e-Portfolio <http://portfolio.miyazaki-mic.ac.jp>

MIC e-Portfolio システムは、Moodle と Mahara という 2 つの異なるサブシステムで構成されている。Moodle では、課題を提出し、評価される。マハラでは、最高の作品を紹介し、MIC の内外の他の人々と共有したいプロジェクトや物事のページを保管する。

コースによっては、e-ポートフォリオの使用が必要なコースもある。受講中の授業のe-ポートフォリオの必修要件については、担当教員に確認すること。

- GApps@MIC

MIC の学生は、Google Apps for Education の一部であるメールとコラボレーションツールを使用する。Google ツールへのアクセスは、あなたのメールアドレスとオリエンテーション中に取得したパスワードを使用して行われる。

- 電子メール：メールは少なくとも1日1回確認すること。教職員からのすべてのコミュニケーションはあなたのメールアカウントに送られる。
- クラウドストレージ：Google が提供するオンラインストレージを使用して、宿題を保存したり、ファイルを同僚や教員と共有することができる。
- コラボレーションツール：コンピュータに何もインストールすることなく、Google のテキストエディター、スプレッドシート、プレゼンテーションソフトウェアをオンラインで使用できます。宿題を提出するためにどのような書式を使用すべきか、受講中の授業の担当教員に確認すること。

- AlcNet <http://alc.miyazaki-mic.ac.jp>

ALC NET システムは、MIC の学生が使用できる英語学習をサポートするeラーニングシステムである。初級、中級、上級に分かれており、TOEIC テストの400点、500点、600点を達成するためのスキルを習得する。

コンピュータは次のとおり利用できる。

The following facilities are available for student computing needs.

部屋等	収容人数	コンピュータ設備	場所
コンピュータ教室 (2) ※ Computer classrooms (2)	最大 50 名 50 People	20 Windows PCs 2 projectors 2 laser printers	1 号館 3 階 Building 1-3F CCR1, 2
コンピュータ教室 (2) ※ Computer classrooms (2)	最大 40 名 40 people	20 Windows PCs 2 projectors 2 laser printers	2 号館 2 階 Building 2-2F CCR3, 4
コンピュータ教室 (1) ※ Computer classrooms (1)	最大 50 名 50 people	50 Windows PCs 2 projectors 1 laser printer	3 号館 4 階 Building 3-4F CCR5
コンピュータ実習室 - 個人 Computer laboratory - individual use 利用時間はドアに掲示 Hours of availability is on the door	最大 14 名 14 people	14 Windows PCs 1 laser printer 1 scanner	2 号館 3 階 Building 2-3F 2-304
自己開発センター (SDC) Self-Development Center (SDC)	最大 10 名 10 people	4 Windows PCs 1 laser printer	1 号館 1 階 Building 1-1F
アカデミック・リソース・センター (ARC) Academic Resorce Center (ARC)	最大 30 名 30 people	5 Windows PCs 1 laser printer	1 号館 2 階 Building 1-2F
学生教職支援センター Teacher Training Support Center	最大 11 名 11 people	5 Windows PCs 1 laser printer	1 号館 1 階 Building 1-1F

※1 コンピュータ教室のパソコンの保管庫用の鍵は教員の責任の下管理される。

※1 these computer laboratories require a faculty member to be responsible for the cabinet keys where the computers are stored.

コンピュータ教室・学内ネットワーク利用規則

学習環境保持のため、学生教員は次の事項を遵守しなければならない。

1. 飲食及び喫煙は、コンピュータ室、教室を問わず全面禁止。
2. ソフトウェアはすべて Academic Computing の所有で、ソフトウェアの無断複写は、いかなる場合も違法。
3. 学生はコンピュータ室のパソコン保管庫用鍵を借用することができない。鍵は教員の責任の下管理される。
4. コンピュータ室及び教室は真面目に静かに勉強する場所である。この勉学第一の雰囲気を守るよう学生は努力する。学生、教職員の気を散らすような行為をするものは、これらの部屋への入室を許可しない。
5. コンピュータ室及び教室でのゲームは禁止する。
6. ハード・ディスク・ドライブ中の文書は定期的に消去するので、ハード・ディスク・ドライブに保管することはできない。
7. 使用者がコンピュータ室及び教室のコンピュータの環境設定を変更することはできない。
8. 環境問題は MIC 教育の重要課題である。レーザプリンタで使用する紙を生産するためにたくさんの木が切り倒されている。よって、印刷する紙の枚数をできるだけ少なくするように努力する。印刷は可能な限委限り両面で行う努力する。
印刷をするには次の四段階を踏む。
 - (1) どのプリンタを使うかを確認し、正しいプリンタを選択する
 - (2) 正しい紙の大きさ(A4)と紙の向きを選択する
 - (3) 「印刷プレビュー」機能を使って、あらかじめ印刷状態を確認する（但し、印刷状態の確認はアプリケーションによって異なる）
 - (4) 最後に、文書全体の中で書き直した箇所を含むページだけを1部印刷する。小さな変更を加えるたびに、次から次へと印刷することは禁止する。この決りを守らない人には、レーザプリンタの使用を禁止する。学生の大多数がこの決りを守らないようなことがおこったら、レーザプリンタ使用料を学生が負担するようなことになるかもしれない。
9. 一人一人ネットワークで個人アカウントを受け取る。学生は割り当てられた個人アカウントしか使うことができない。この個人アカウントを友人や親戚に使わせることはできない。
10. 中傷または猥褻な文言を学内外に発信してはいけない。
11. コンピュータの濫用・不正使用を禁ずる。すなわち、コンピュータシステム/オペレータ使用の権利を悪用すること、機器をいたずらに損傷すること、許可なく機器の修理を試みること、許可なく機器を移動させること、等をしてはならない。
12. 商業目的でコンピュータサービス、または設備を使用することはできない。
13. コンピュータを使用する場合は、コンピュータ担当職員の指示に従わなければならない。
14. MIC のネットワークに接続するコンピュータは定期的に更新されるアンチウィルソフトがインストールされていなければならない。その上、本学のネットワークの安全や大学の法律上の責任を問われるようなソフト (P2P ファイル共有ソフトや「cracked」あるいは「warez」ソフトや無許可コピー等) がインストールされていないことを証明する必要がある。

上記の決まりを一つでも守らなかった学生は、コンピュータを使用する権利を喪失するか、あるいは罰則が適用される。

学生教職支援センター

「学生教職支援センター」は、教員及び保育士を目指す学生のために創設され、教育学部と国際教養学部を問わず、教職課程を履修する学生を対象に「教員採用試験」に合格するまで徹底的に支援・指導するとともに、幼稚園や保育所に就職を希望する学生に対しても、きめ細やかな指導・助言・情報提供を行う。

本センターには、教育現場における実務経験の豊かな教職員が配置されている。「教職についての相談に応じる教職相談室」と、「教職関係資料を自由に閲覧・利用できる閲覧室」を設置している。

1 教員及び保育士採用試験の対策・支援

(1) 教員等採用試験合格支援プログラムの企画・推進

- 専門教科や教職教養に関する特別対策講座の開講
- 保育士、幼稚園教諭育成支援のための保育者養成実践講座開講
- 特別対策合宿等の実施
- 面接や集団討論の対策及び練習
- 模擬授業対策及び練習
- 小論文の対策（練習・添削指導）
- 提出書類・志願票（自己推薦書）等についての相談対応

(2) 模擬試験及び外部講師等による対策セミナーの計画・実施

- 全国公開模擬試験を活用しての実力養成や外部講師等による教員等採用試験対策特別セミナーを開催

2 教員及び保育士採用試験等に関する相談対策

(1) 教職についての相談

- 「学力向上」「教職への適性」等、教職課程履修についての相談
- 教育実習に関連した不安や悩みについての相談
- 採用試験対策、講師採用、就職についての相談
- その他（教職全般に係る相談）

(2) 教職相談室スタッフ

- 白石知子（学生教職支援センター長、教育学部学生及び国際教養学部学生担当）
- 早瀬博範（国際教養学部教授、主に国際教養学部学生担当）
- 杉田康之（教育学部及び国際教養学部学生担当）

3 学生教職支援センター（「教職相談室」・「教職学生閲覧室」）

(1) 本学の教職課程を履修している学生が交流できる場として自由に利用できる。

- 教職採用試験関係資料の閲覧
- 保育・幼稚園等資料の閲覧
- パソコンによる情報収集や学生相互の情報交換の場としての活用

(2) 開館時間：

- 平日及び土曜日 8：30～22：00
- 日曜日（祝日） 8：30～17：00

教員採用試験合格支援プログラム

<p>1年次</p>	<p>小学校教員採用試験のための特別対策講座（基礎Ⅰ） 回数：12 講座 講師：本学教員、外部講師</p> <p>専門教科及び教職教養の実力養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門教科の一次試験対策講座 ■ 小学校学習指導要領の各教科等の目標及び内容に関する一次試験対策講座 ■ 教職教養担当教員による講義及び教員採用試験対策の指導
<p>2年次</p>	<p>小学校教員採用試験のための特別対策講座（基礎Ⅱ） 回数：12 講座 講師：本学教員、外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門教科及び教職教養の実力養成講座、小論文添削指導 <p>中・高英語教員採用試験のための特別対策講座 開講：毎週 講師：本学教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中・高英語及び教職教養の実力養成講座 <p>特別対策合宿 A 回数：1 回（2泊3日） 会場：市や県の社会教育施設 講師：現役教師、本学教員、外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 教育学部小幼コース…筆記試験対策、個人及び集団面接対策、小論文の指導など ■ 教育学部幼保コース…公立幼稚園・公立保育所の採用試験対策など
<p>3年次</p>	<p>小学校教員採用試験のための特別対策講座（応用Ⅰ） 回数：24 講座 講師：本学教員、外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門教科及び教職教養の実力養成講座、小論文添削指導、英語講座（英会話含） <p>中・高英語教員採用試験のための特別対策講座（応用Ⅰ） 開講：毎週 講師：本学教員、外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中・高英語及び教職教養の実力養成講座 <p>特別対策合宿 B 回数：1 回（2泊3日） 会場：市や県の社会教育施設 講師：教育行政関係者、現役教師、本学教員、外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 教育学部小幼コース…模擬授業の指導、集団討論の指導、個人及び集団の模擬面接指導、模擬試験の実施、など ■ 教育学部幼保コース…公立幼稚園・公立保育所の採用試験対策など ■ 国際教養学部中・高英語教職課程…模擬授業の指導、集団討論の指導、個人及び集団の模擬面接指導、模擬試験の実施など
<p>4年次</p>	<p>小学校教員採用試験直前対策としての特別対策講座（応用Ⅱ、一次試験対策講座） 講師：外部講師、本学教員、現役教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門教科及び教職教養の実力定着講座、英語特別講座（英会話含） <p>中・高英語教員採用試験のための特別対策講座（応用Ⅱ） 開講：毎週 講師：本学教員、外部講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中・高英語及び教職教養の実力養成講座 <p>二次試験対策講座 講師：外部講師、本学教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 模擬授業の指導、個人及び集団の模擬面接指導 ■ 集団討論の最終指導 ■ 英会話

<p style="text-align: center;">教育学部 幼保コース (1 年次後期～4 年次)</p>	<p>保育士及び幼稚園教員採用試験のための特別講座</p> <p>回数：前期 15 回 後期： 12 回 講師：本学教員、外部講師</p> <p>■保育所保育指針・幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の研究</p> <p>■模擬保育・教職教養等</p>
---	--

アカデミック・リソース・センター (ARC)

アカデミック・リソース・センターは、ティーチングアシスタント (TA)、教員及び学生アシスタント (SA) によって管理運営されている。センターでは、学生は自主学習をしたりレメディアル教育や個人指導を受けることができる。

自主学習

机はノートパソコンや本を開いて快適に自主学習をするスペースがある。

読書コーナーには、中程度の難易度から高難易度のものまでの英語の本や雑誌が備えられており、楽しむと同時に英語のリーディング力をつけるために利用できる。読書コーナーを利用して、楽しみながら読書力を伸ばしましょう。

英語力向上プログラム

「英語」の教科化に伴い、小学校教諭には英会話・英語力が求められる。教育学部では、本学の豊かな英語環境を最大限利用し、小学校の英語授業に活かせる英語力の獲得を目指すために、カリキュラムに英語関連の講義・演習を配置するとともに、以下のプログラムを準備している。学生は、講義及びこれらの向上プログラムで学習することにより、小学校教員としてふさわしい語彙力・英会話力・英語授業力を身につけることができる。

1) 少人数レベル別クラス編成による補講授業

- 英検準2級、2級、準1級のためのレベル別対策の英語ゼミを行う
 - 英語の苦手な学生や2級は自信がないという学生はまず準2級を目標に2年生終了時までには2級の取得を目標にする
 - すでに2級を取得した学生はさらに上を目指して準1級を目標にする
- ネイティブスピーカーによる英会話向上のための補講授業を行う

2) 自主学习をサポートする学内環境

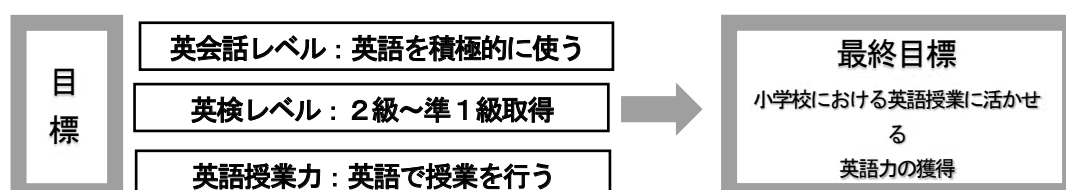
- 図書館やアカデミック・リソース・センターに準備された英検用の問題集等を利用可能
- 学生教職支援センターに準備された文法・英検用の問題集等を利用可能

3) 英語学習ソフト ALC Net Academy NEXT

- ログインURLはメールで配信される。インターネットからアクセスし、普段大学で使っている「アカウント」と「パスワード」を入力してログインする。初級コース・中級コースから選んで学習できる。

英語力向上支援プログラムにおける目標

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
語彙力	2500語	3000語	3500語	4000語	4500語	5000語	5500語	6000語
英検レベル	準2級		2級		準1級			
英会話能力	簡単な文で身の回りの事柄を表現することができる		身の回りの事柄や興味関心のある事柄について自分の考えを明確に述べるることができる		日常生活の出来事などについて説明したり、要件を伝えたりすることができる		社会性の高い話題について、説明したり、自分の考えを述べたりすることができる	
英語授業力	教科としての小学校英語の理解				英語を使った授業実践			
	基本的な英語構文に慣れ、日常的に使うことができるようになる		授業において児童と教師が行う英語でのやり取りについて理解し、慣れる		子供の認知発達レベルに即した指導法の獲得 英語表現に適した状況の作り方 指導計画と評価 教室をコミュニケーションの場に			

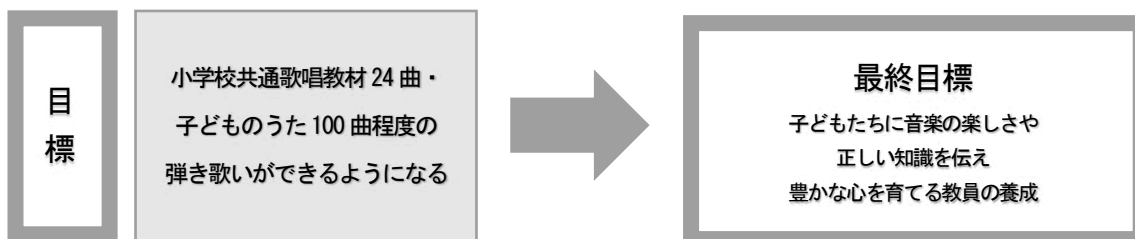


音楽力向上プログラム

小学校・幼稚園・保育所の指導あるいは教員採用試験に対応した音楽力を身につけるために、教育学部では、ピアノレッスンの授業や音楽関連科目との連携を図りながら、独自の支援プログラムを実施する。

- 1) 音楽専門教員による生きた音楽の授業（演習）「ピアノ・声楽Ⅰ～Ⅳ、音楽、音楽と遊び、こどもの音楽活動」
- 2) マンツーマンのきめ細やかなレッスン指導
 - ・ 授業以外にも音楽ゼミ等での専任教員による補習レッスンを行い、1年次から音楽技能の向上をサポートする。
- 3) 小学校・幼稚園・保育所での指導に対応した実践的な音楽力の向上
 - ・ 授業履修科目と「バイエルの進歩」、「小学校共通教材歌唱曲」、「子どものうた」などを関連付けたプログラムにより、ピアノ演奏の到達レベルを確認しながら目標を達成する。

	1年	2年		3年		4年
養う力	基礎力	実践力				応用力
音楽ゼミ 課外レッスン	未経験者等の演奏技能の基礎力の習得のための個別およびグループレッスンの実施。	演奏技能の向上のための個別レッスンまたはグループレッスンの実施。				●学校・幼稚園・保育所・認定こども園で生かせる音楽力を養う。 ・教職実践演習 ・保育実践演習 ●教員/幼稚園・保育園・認定こども園採用試験直前課外レッスン
ピアノ演奏 基礎技能習得		バイエル 60 番までの楽曲を習得する。	バイエル 60 番以上の楽曲を習得する。			
共通歌唱教材 (小学校)	講義等による音楽理論の理解及び共通教材、子どもの歌等の習得。	1コマ 90 分でのマンツーマンレッスンとグループレッスン。グループ内の模擬活動の実施。中間実技試験の実施による技能習得の確認。				
子どもの歌 (幼稚園・保育所・認定こども園)		12 曲 ・茶つみ 等	12 曲 ・もみじ 等			
ピアノ演奏のための科目目標		25 曲習得 ・ちょうちょ 等	25 曲習得 ・ぞうさん 等	25 曲習得 ・山の音楽家 等	25 曲習得 ・アイアイ 等	
		コード伴奏法の習得・器楽演奏等の表現能力の向上		教育実習に向けた総仕上げ		



自己開発センター（SDC）

自己開発センターは、学生のコミュニケーション・スキル、情報リテラシー等の汎用的技能の習得支援及び就職に向けた一般常識力の向上を目的として整備されている。

自己開発センター（SDC）の概要

本センターには、MIC の全学生が使用できるコンピュータと就職関連の本が用意されています。

自己開発センター利用規則

学生にとって実用的な環境を維持するために、自己開発センター（SDC）では次の規則を遵守しなければなりません。

1. SDCにおいては、資格取得のための学習や就職・進学情報の収集を主な目的とする。
2. SDCにおいては、飲食、喫煙は禁止されています。
3. 利用可能なすべてのリソース（ソフトウェア、書籍など）は、MIC の所有物です。SDC の外部に移動したりコピーを作成したりすることは違法です。
4. ゲームはどのコンピュータでも許可されていません。
5. 使用者が自己開発センター（SDC）のコンピュータの環境設定を変更することはできない。
6. コンピュータの濫用・不正使用を禁ずる。すなわち、コンピュータシステム／オペレータ使用の権利を悪用すること、機器をいたずらに損傷すること、許可なく機器の修理を試みることに、許可なく移動させること等をしてはならない。
7. 商業目的でコンピュータサービス、または設備を使用することはできない。
8. SDCを使用する場合は、センター担当の指示に従わなければならない。

上記の決まりを一つでも守らなかった学生は、SDCを使用する権利を喪失するか、あるいは罰則が適用される。

グローバル教育センター

センターオープン時間：月～金 8:30～17:00

グローバル教育センターとは

グローバル教育センターは、国際教養学部の海外研修プログラムの実施・運営、交換留学生の受け入れ・派遣（3年次後期）、正課留学生の受け入れとその後のサポート、海外大学との連携協定締結・管理、また、文科省の「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学Japan～」に関する業務等を所管している。

その中心的業務となるのが海外研修プログラムの実施であり、「海外研修の手引き」及び海外研修費用一覧表の作成、海外研修説明会の開催、海外研修事前指導セミナーの実施の他、研修先大学、ホームステイ手配に係わる申込み、ビザ申請、渡航準備に係わる全ての手続きのサポートを行う。

海外留学について

国際教養学部の学生は、2年次後期に「海外研修」に参加し、4ヶ月強を海外で過ごす。研修先大学は英語を母語とする5カ国に15大学あり、学生はホームステイをしながら現地の大学（英語集中課程に所属）で学ぶ。国際教養学部の「海外研修」は、カリキュラム上は「英語」6単位、「自由研究」2単位、「地域研究」6単位の計14単位（全て卒業必修単位）のプログラムであり、それぞれの単位は、研修先大学で履修した全科目をパスし、課題集（ポートフォリオ）を提出することでその単位認定が行われる。

教育学部の学生には、大学休業期間中に自費での語学研修を希望する場合、グローバル教育センターが相談に応じる。しかしその場合も、保護者の了解のもと、必ずアドバイザーと相談し、学業に差し支えないことを確認することが求められる。

留学先、プログラム期間、費用等についての情報、また、留学に関して何らかのサポートが必要な場合は、グローバル教育センターが国際教養学部の「海外研修」で培ったリソースを活用して全面的にサポートするので、本センターに事前によく相談すること。

グローバル教育センターで提供されるサービス

教育学部の学生の海外留学は、大学のプログラムではないため、あくまで自己責任で行われるものであることを念頭に、慎重かつ周到な準備と実践が求められる。学生の自立的海外体験をサポートするため、グローバル教育センターでは以下のようなサービスが提供される。

- ・海外研修・留学先選定の相談及び申込等の指導（個別面談・指導）
- ・留学に必要な英語力（TOEIC、TOEFL等）の理解（国、場所により異なる）
- ・海外の気候、治安、文化、生活費等の情報の提供
- ・留学ビザの取得、留学保険加入、海外での通信手段の確保等に係わるサポート
- ・経費効率の良い渡航（旅行）計画作成のアドバイス
- ・海外滞在に関わる身体的及び心理的变化・影響の理解

図書館施設設備

(TEL: 0985-85-1410, 1310 / FAX: 0985-85-8189)

宮崎学園図書館は、本学と同敷地内に位置する宮崎学園短期大学との共同運営によって管理されている。したがって両大学の教職員および学生は、同等の利用権が与えられている。

CiNii Articles (日本の論文を探す)、Academic OneFile・APA PsycArticles (外国語学術論文等データベース) については、本学 Web サイトにリンクが張られており、いつでも利用できる。また、学術専門書以外に、絵本、紙芝居、エプロンシアター、楽譜、小学校教科書、ベストセラー、英語多読本、就職試験、各種資格関係の図書も充実している。CD、DVD、雑誌、新聞も備えている。電子書籍は、図書館または大学の Wi-Fi に接続したスマートフォンや PC から利用可能で、図書館の Web サイトから検索を行う。

開館時間

学期中		休暇中	
月～金	8:30-18:30	月～金	9:00-17:00
土	9:00-13:00	土、日、祝祭日	休館
日、祝祭日	休館		

資料の検索

図書等の検索はインターネット上でできる。まず検索エンジンで宮崎学園図書館の Web サイトを開く。WebOPAC(蔵書検索)経由で、図書(含電子書籍)、雑誌、AV 資料検索ができ、更に図書館でのパスワード登録(手続は簡単)により、資料予約、利用状況紹介、文献複写依頼、資料借用依頼、資料購入希望依頼ができる。オンラインデータベース(外国雑誌等約 18,000 誌の閲覧・印刷)の館内・大学での利用、Word、Excel、Powerpoint も館内で利用できる。

所蔵していない資料の入手方法

本館で所蔵しない図書や文献のコピーは、他機関から取り寄せることが可能である。本館がメンバーとなっている国立情報学研究所(NII)のデータベースを通して、所蔵館の検索、貸出・コピーの依頼ができる。なお、資料のコピー・郵送などに必要な費用は全額利用者負担である。詳細は図書館に照会のこと。

※図書等の購入希望も受付けている。

貸し出し

貸し出しできるものは下記のとおり。「学生証」が「利用者カード」を兼ねている。

種類	数	期間
図書	20 冊	28 日
卒業論文	5 冊	7 日
漫画	5 冊	7 日
視聴覚資料(主に CD)	5 点	7 日
雑誌(最新版を除く)	5 冊	7 日

指定図書については、平日が 17:00～翌開館日 9:30 まで、土曜日が 12:00～翌開館日 9:30 までの短期貸出が可能である。

貸出延長については、返却締切日前に申し出れば、他に利用希望者がいないときに限り、2 回まで認められる。延長手続きは資料と学生証を提示しなければならない。

延滞

返却締切日を超えて返却がない図書については「延滞図書」とし、1 週間経過後、本館よりメールにより延滞通知を行う。さらに、2 週間経過しても返却がない場合、延滞冊数に関係なく 1,000 円の延滞料金が請求される。その後の延滞について、1 週間毎に 500 円が追加課徴されるので、返却締切日を厳守すること。

図書館の部屋の利用

小部屋が 5 つと、大部屋が 2 つある。それぞれ、グループ学習・会議・イベント・DVD 視聴等で利用できる。予約は 1 カ月先まで可能で、申し込みはカウンターで行う。

図書館でのコンピュータ利用

Wi-Fi 機能のあるコンピュータを利用する学生は図書館の Wi-Fi を通じて大学のネットワークにアクセスすることができる。

全館、Wi-Fi 配備で、持込のパソコン等を使用したい場合は、カウンターで手続きを行う。ノートパソコンの館内貸出も行っている。

他大学図書館の利用

県内の全ての大学・短大・高専図書館が加盟する「宮崎県大学図書館協議会」を通して、各高等教育機関の図書館が利用できる体制が整備されている。閲覧が必要な場合は、それぞれの高等教育機関の図書館カウンターに申し出ること。館外貸出サービスも本学学生証で受けられることになっている。他大学の図書館を利用する前に、事前に本館か相手館の Web サイト等で詳細を確認しておく間違いがない。

「宮崎学園図書館」Web サイト

トップ画面メニューには、「資料を探す」「データベース（含 宮崎学園図書館学術リポジトリ）」「利用案内」「当館について」「マイライブラリ」「OPAC 蔵書検索」「お知らせ」「新着資料情報」「開館時間カレンダー」「建学の精神」「公式マスコットぎんまるくん」等がある。日々更新しているので、検索・活用のこと。

<http://mei-library.jp/>



図書館の詳細は下記のとおり。

2022年4月1日現在

建物面積 Building area	閲覧座席数 Seating capacity	蔵書冊数など Collection, Etc.	
2,812 m ² (宮崎学園短期大学共用) (shared with Miyazaki Gakuen Junior College)	312 (宮崎学園短期大学共用) (shared with Miyazaki Gakuen Junior College)	約171,000冊 (宮崎学園短期大学共用) (shared with Miyazaki Gakuen Junior College)	
		洋書 (電子書籍含む) Western books (including e-books)	約41,000冊
		和書 (電子書籍含む) Japanese books (including e-books)	約133,000冊
		購読雑誌種数 (洋書) Periodicals (Western language)	4誌
		購読雑誌種数 (和書) Periodicals (Japanese language)	182誌
		購読新聞種数 (英語) Newspapers (English)	2紙
		購読新聞種数 (日本語) Newspapers (Japanese)	8紙
		アカデミック・ワンファイル (外国雑誌等オンラインデータベース) Academic OneFile (online DB of western journals)	約17,000誌 App.17,000 titles
		APA サイコアーティクルズ (心理学分野外国雑誌全文オンラインデータベース) APA PsycArticles (online DB of western journals)	約100誌 App. 100 titles
		ジャパンナレッジ(百科事典等オンラインデータベース) Japan Knowledge	契約数1台
		ブリタニカ・オンライン・ジャパン + Britannica Britannica ImageQuest (ブリタニカ国際大百科事典と英語のEncyclopedia Britannicaをベースにした知のポータルサイト)	-
		CiNii (NII 学術コンテンツポータル) ※国内学術論文検索・入手 CiNii (NII Scholarly and Academic Information Portal)	-
		宮日データベース Miyazaki Daily News Database	契約数1台
		聞蔵II ビジュアル (朝日新聞データベース) KIKUZO II Visual	契約数1台
		D1-Law.com (現行法規告示版データベース)	契約数1台
		宮崎学園図書館学術リポジトリ Miyazaki Gakuen Library Academic Repository	[宮崎国際大学、宮崎学園短期大学の紀要(教員論文)を電子化・公開]
		視聴覚機器など Audio-visual materials	
		DVD	約2,800点
		Compact disks	約3,400点
		電子検索用機器など (利用者用) Electronic research resources (for users)	
OPAC 端末 OPAC terminals	5台		
インターネット・Word, Excel, Powerpoint, CDR用パソコン Internet and Word, Excel, Powerpoint and CDR PCs	9台 内5台は貸出用ノートパソコン		
図書館の設備 Library equipment			
視聴覚機器 Audio-visual equipment			
1 モニター Monitor	9台		

		2	テレビ Televisions	1台
		3	DVDプレーヤー DVD Player	4台
		4	Blu-rayプレーヤー Blu-ray Player	6台
		5	ビデオ機器 VCR	2台
		6	CDプレーヤー CD Player	2台
		7	CDラジカセ CD Radio Cassette	1台
		8	マイクローダー Microreader	1台
		9	書画カメラ Document Camera	1台
		10	プロジェクター Projector	1台

※電子ピアノ1台 (2階東)
Electronic piano (2F East)

特殊目的の施設設備

部屋 Room	収容人数 Capacity	主な利用方法 Usage
DVD等視聴コーナー (1F西側)	DVD: 4組 (各2名) DVD: 4 sets, 2 people each DVD、ビデオ: 1組 (2名) DVD, Video: 1 set, 2 people each	視聴覚機材: DVD、ビデオ視聴 AV materials: DVD and video viewing
グループ学習室1・2 (2F西側)	約20名 Approx. 20	グループ学習、AV資料視聴、演習授業 Group learning activities, viewing AV materials, seminar classes
会議室 (2F西側)	約15名 Approx. 15	教職員会議、AV資料視聴 faculty and staff meetings, viewing and listening to AV materials
グループ学習室3・4 (3F)	約6名 Approx. 6	グループ学習、AV資料視聴、演習授業 Group learning activities, viewing and listening to AV materials, seminar classes
多目的室1 (3F)	約40名 Approx. 40	グループ学習、テレビ放送・AV資料視聴、授業 Group learning activities, viewing and listening to television broadcasts and AV materials, classes
多目的室2 (3F)	約40名 Approx. 40	グループ学習、授業 Group learning activities, classes

体育施設

MIC の体育施設は宮崎学園短期大学との共有施設である。総務部または学生部（サークル関連）での予約（原則として利用希望の1週間前）が必要。

体育館、その他の体育施設は下記のとおり。

体育施設				
施設名		数	予約	費用
屋内	バレーボールコート	3	総務部 学生部	無料
	バドミントンコート	3		
	バスケットボールコート	2		
	卓球台	6		
屋外	運動場	1		
	テニスコート	3		

※女性用のロッカールームは体育館内に設置してある。

体育館利用規則

体育館利用者は下記の利用規則を遵守しなければならない。

- A. 体育館内は土足厳禁。
- B. 利用者の館内ステージ、管理室、放送室、器具室及び半地下室への無断侵入は禁止。
- C. 施設設備を利用する際は、許可無しでの備品移動は禁止。（施設設備の損傷に対しては弁償しなければならない場合がある）
- D. 総務部の許可無しでの体育館の利用は禁止。
- E. 体育館の利用は、授業、クラブ活動、学生集会など大学関係の活動に限る。

学食

学内のフードサービスは下記のとおり。

場所	種類	営業時間
国際交流センター1F 食堂	定食、うどん、カレー、小鉢など	11:30 - 13:00 月 - 金（授業実施期間）
1号館 1F - SPOON	自動販売機（飲物のみ）	8:30 - 20:00 月 - 金

VI 就 職 ・ 進 学

T S キ ャ リ ア

宮崎国際大学のキャリア教育

宮崎国際大学では、入学当初からTS (Three Stages= [3段階])による就職支援を行っています。

まず第1段階として、キャリア形成支援科目を必修で開講しており、これは学生が自分の進みたい未来を思い描いてその計画を立てることを目標とした科目です。第2段階として、スキルアップ講座を開講しており、これは学生が目指すキャリアに近づくための各種試験に向けた対策講座で、1年次から受講できる学内実施の連続講座です。第3段階として、キャリアサポートプログラムを開講しており、これは就職に向けた実践対策で、理想の就職を目指す学生を徹底的にサポートします。

宮崎国際大学は、キャリア教育センター及び学生教職支援センターを拠点に、学生の「自分探し」から免許・資格取得・就職まで一人ひとりの人生設計をサポートするプログラムを用意して、企業・公務員・教職等への進出をサポートしています。

Ⅲ キャリアサポートプログラム		
キャリア教育センターを拠点に、学生の「自分探し」から実際の就職まで一人ひとりの人生設計をサポートするプログラムを用意して、企業・公務員・教職等への進出をサポートします。		
業界・企業研究	学内合同企業説明会	自己分析・応募書類対策講座
面接対策講座	インターンシップ	就職活動直前講座

Ⅱ スキルアップ講座				
学生が目指すキャリアに近づくために、各種試験に向けた対策講座を実施しています。就職活動に備えて、自ら目標を設定し、チャレンジできるように努めます。なお、この講座は学内で実施する連続講座です。				
公務員試験対策講座	教員採用試験対策講座	SPI講座	エアライン入門講座	エアライン就活対策講座
1～3年次生を対象とした公務員試験の重要科目を学習する講座です。1年次より計画的に学習し、公務員試験受験の土台を作ります。	1～4年次の教職課程履修生を対象とした専門教科及び教職教養の実力養成と定着のための講座です。一次試験対策のみならず模擬授業や面接等二次試験対策も行います。	1～3年次生を対象とした多くの企業・自治体が採用している適性検査の対策講座です。頻出問題を確実に解けるよう専門講師が解説します。問題を解きながら自分のものにしていく講座です。	1・2年次生対象のエアライン業界を目指すための基礎を学ぶ講座です。航空業界の職種理解や自己分析や自己表現、時事問題等に取り組み、エアライン就活対策講座につなげます。	3年次生対象の競争倍率が高いエアライン業界にチャレンジするための講座です。専門の講師が、学生が持っている能力を最大限に引き出し、学生の希望する航空会社への合格を目指します。

Ⅰ キャリア形成支援科目	
自分の進みたい未来を思い描いてその計画を立てることを目標にキャリア形成支援科目を開講しています。国際教養学部では「キャリア・デザイン」を、教育学部では教養科目「忍ヶ丘教養」を開講し、学生生活が人生の飛躍につながる優れたキャリア＝経歴となるように努めます。	
キャリア・デザイン [1～3] (国際教養学部)	忍ヶ丘教養 [I～IV] (教育学部)
「生きる」とは? 「学ぶ」とは? 「働く」とは? について深く考え、自立した人間として大きく成長することを目標として「キャリア・デザイン1～3」を1年から3年次の必修科目として開講しています。「自己理解」「社会理解」「職業理解」を深めるために自己分析や社会人講話、ビジネスマナーや就職試験対策等を行っています。	高い教養と豊かな人間性を備えた教育者への基礎を身に付けるために教養科目「忍ヶ丘教養」を1・2年次に必修として開講しています。「自主的・継続的な学習能力」「コミュニケーション能力」「地域・国際社会における教育理解」「情報処理能力」等の修得を通して教育者の基礎を身に付けます。
一般教養科目・専門科目	一般常識と専門的知識の修得

就職・進学支援

本学が行っている就職・進学支援について略述します。詳細については、キャリアサポートセンターへ問い合わせること。教育学部の学生は、自分が卒業時に企業等への就職を考慮する時に必要となるので都合のつく時に見学しておくこと。

キャリアサポートセンターの案内

(1) キャリアサポートセンターおよび Self-Development Center (SDC 自己開発センター)

① キャリアサポートセンター

就職・進学活動にあたり必要な求人票・資料を閲覧することや、就職・進学の相談を行うことができる。

1. 会社年鑑
2. 会社四季報
3. 各種採用試験問題集
4. 各種就職、進学関連雑誌および参考書籍

上記の各種資料に加え、就職関連ビデオテープを取り揃えている。
積極的に活用してください。

② Self-Development Center (SDC 自己開発センター)

パソコンが4台設置され、自由に自己学習ができる。詳しくは Section VI 「自己開発センター (SDC) の概要」を参照のこと。

(2) 就職相談

就職は最終的には自分の責任において決定すべきであることは言うまでもありませんが、両親・友人等に相談することも有益です。

大学では、キャリアサポートセンターにおいて専任の相談員が相談に応じています。気軽に訪ねて相談ください。

(3) 就職関係の掲示について

就職ガイダンス等開催の通知は、1号館国際交流ラウンジ横の掲示板ならびにキャリアサポートセンター等にて掲示しますので、注意して見るようにしてください。

(4) 大学への報告

キャリアサポートセンターに提出する書類は次のとおりである。

イ) 「進路登録票」

3年次の個人面接の際、全学生が登録のため記入する。

この登録票を提出していない学生には、就職活動に必要な成績証明書、卒業見込証明書等の書類の発行ができません。

また、大学院や資格取得のため専門学校へ入学する学生も登録が必要である。
この書類は就職・進学支援の参考として大事に保管し、外部には一切公表しない。

ロ) 「内定 (内々定) 決定届」

内定状況を把握するため、内々定または内定が出た段階で速やかに提出すること。

ハ) 「就職活動報告書」

就職活動を始める後輩の参考になるように、内定 (内々定) を受けた企業について、「就職活動報告書」に就職試験内容等を詳しく記入のこと。会社訪問から内定獲得までの経緯、筆記試験や面接試験の内容・感想・反省・後輩への助言等を記入する。

企業への提出 (応募) 書類について

応募に際して、企業が要求する提出書類は次のとおりである。

- ① 履歴書 (エントリーシート)
- ② 成績証明書
- ③ 卒業見込証明書
- ④ 健康診断書

履歴書 (エントリーシート)

企業への自己紹介の第1歩であり、面接試験の基礎資料として使用されるので、誤字脱字のないよう注意し、丁寧に楷書で書く。

本学様式の履歴書または企業指定のエントリーシートを使用すること

証明等発行手数料および交付日

①	在学証明書	1通	150円	申請日を含む3日後(土日祝除く)
②	成績証明書	1通	150円	申請日を含む3日後(土日祝除く)
③	健康診断書	1通	150円	申請日を含む3日後(土日祝除く)
④	卒業見込証明書	1通	150円	申請日を含む3日後(土日祝除く)
⑤	卒業証明書	1通	150円	申請日を含む3日後(土日祝除く)
⑥	学生証再発行	1通	300円	申請日を含む3日後(土日祝除く)

成績証明書・卒業見込証明書

総務部で申し込む。

健康診断書

学内で実施される健康診断を受診しなかった者は、所定の病院で健康診断を受診し、検査結果を学生部へ提出する。

学校推薦書

原則として、学校名による推薦は (倫理憲章の合意のため) 行わない。

どうしても提出を求められる場合は、担当のアドバイザー（個別指導教員）に個人的に推薦を依頼する。

授業欠席届（就職活動用）について

就職活動のため、授業を欠席する学生は下記の手続きを行う。

1. キャリアサポートセンターで「授業欠席届」の用紙を入手する。
2. 必要事項を記入（訪問先等）
3. 欠席する授業の担当の先生に欠席理由を説明し、原則として承認のサインをもらう。
同時に担当の先生より欠席期間中の課題の指示を受ける。
4. キャリアサポートセンターに欠席前日までに提出する（厳守）。
5. 会社訪問あるいは説明会等に参加後 1 週間以内に
 - イ) 既提出の授業欠席届をキャリアサポートセンターより受領
 - ロ) 結果記入
 - ハ) 欠席届をキャリアサポートセンターに再提出

以上の手続きを踏んでから初めて欠席届は有効になり、無断欠席扱いにならない。

求人情報の集め方

(1) 求人票

企業が求人のため学校に送付してくる書類は、到着順に番号を付してファイルを行い、キャリアサポートセンターでいつでも閲覧できるようにしている。

「求人票」には、企業の採用条件・応募方法・選考方法やホームページの URL が記載されており、興味を持った企業に対して即座にインターネット検索するかあるいは会社案内で企業研究を行うことが可能である。

(2) インターネット検索

ほとんどの企業がホームページを開設し、求人・採用のツールとしてインターネットを利用している。企業側の情報提供だけでなく、最終面接以外のすべてをインターネットで管理する企業もあり、現在大学生の採用はインターネットが主流になっている。

希望する企業のホームページに直接アクセスし求人情報を入手する方法もあるが、求人情報を幅広く入手するためには、就職情報サイトに登録して必要な情報（該当する企業・業種・職種など）を送ってもらうマルチ検索機能を利用するのが賢明である。

就職サイトをうまく利用すれば、志望企業の絞り込みに役立てることもできる。

お薦めの 'WEB サイト' に登録しよう

(取得後記入してください)

リクナビ https://job.rikunabi.com/ 就職学生が登録する定番サイトである。	接続用 ID 番号
	パスワード
マイナビ(毎日就職ナビ) https://job.mynavi.jp/ 就活学生が登録する定番サイトである。	接続用 ID 番号
	パスワード
キャリアタス就活ナビ https://job.career-tasu.jp/ 日本経済新聞社が運営するサイト。 企業の採用動向や業界の動きなどがリアルタイムで分かる。	接続用 ID 番号
	パスワード

(3) 就職情報誌

就職関連の情報誌（「会社四季報」、「公務員試験受験ジャーナル」「エアステージ」など）は、キャリアサポートセンターに備え付けてある。役立つ情報が満載されているので、積極的に活用しよう。

(4) 合同会社説明会

リクルート、マイナビ、日本経済新聞社などの就職情報会社や地方自治体、あるいは新聞社が主催して行っている就職イベントである。複数の企業が各ブースを設け、それぞれのブースで会社概要や求人内容等の説明を行う。100社以上企業が集まる大型合同企業説明会も開催される。就職活動の入り口としてとても重要なイベントになっているので、積極的に参加し、企業の人事担当者より生の情報を聞き出そう。

(注) 会社説明後、エントリーのため履歴書提出を求められることもあるので、あらかじめ履歴書を2～3通は持参しよう。

VII インフォメーション

インフォメーション

大学の連絡先

TEL	0985-85-5931
FAX	0985-84-3396
所在地	〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地
ホームページ	https://www.mic.ac.jp
E-Mail	学生部： saffairs@sky.miyazaki-mic.ac.jp 教務部： aaffairs@sky.miyazaki-mic.ac.jp

業務一覧表

役 割	部 署	部 屋
履修登録／履修科目成績表	教務部	事務局（2号館1階）
履修登録及び変更		
退学・休学願		
学内施設借用願（授業関連）		
授業で困った時の相談	受講中の担当教員及びアドバイザー	各研究室
学業上の規則についての相談	学部長	学部長室（1号館1階）
成績についての相談	受講中の担当教員及び学部長	各研究室、学部長室
その他、学業上の問題についての相談	学部長及びアドバイザー	学部長室又はアドバイザー研究室
就職指導、留学生就職相談	キャリアサポートセンター	キャリアサポートセンター 留学生就職相談室（1号館1階）
カウンセリング	保健管理センター、学生部	カウンセラー室（1号館3階）
健康相談		保健室（4号館1階）
行事、クラブ・サークル関係	学生部	事務局（2号館1階）
救急		
学生部備品、クラブ・サークル関連施設借用願		
奨学金		
遺失物		
授業料納入	総務部会計課	
証明書発行（成績証明書等）	総務部総務課	
学内駐車場		
入試広報関連	入試広報部	入試広報室（3号館1階）
海外研修	グローバル教育センター	グローバル教育センター（1号館2階）
タブレットPC	IRセンター	IRセンター（2号館1階）
図書（図書館蔵書）	図書館	宮崎学園図書館

地域の医療機関

医療機関名	TEL	住所	休診日
〈宮崎国際大学校医〉 しおもりクリニック (内科・胃腸科・外科)	0985-55-0200	宮崎市清武町池田台北 34-40	日祝日 水土午後
城山病院 (内科・歯科)	0985-85-0036	宮崎市清武町船引 238	日祝日 土午後
池田台クリニック (内科・胃腸科・外科)	0985-84-0124	宮崎市清武町加納甲 1335-1	日祝日 木土午後
加納中央医院 (外科・胃腸科・内科・肛門科)	0985-85-6215	宮崎市清武町加納甲 1911-2	日祝日 土午後
福永内科神経科医院	0985-85-6006	宮崎市清武町加納 1-29-2	日祝日・第4土 水午後
清武クリニック (内科・胃腸科・外科・肛門科)	0985-84-0123	宮崎市清武町木原 6642-1	日祝日 木土午後
まつうら眼科	0985-85-6600	宮崎市清武町岡 1 丁目 1-12	日祝日・第1・3 土 火木土午後
小池レディースクリニック (産科・婦人科)	0985-85-7111	宮崎市清武町船引 633-5	日祝日 木土午後
末原歯科医院	0985-85-0056	宮崎市清武町木原 496-3 短大下	日祝日 土午後
たじり皮膚科医院	0985-84-1110	宮崎市清武町加納 2-41-1	木日祝日 土午後
村岡泌尿器科内科	0985-85-7080	宮崎市清武町新町 2-1-3	日祝日 木午後
清武耳鼻咽喉科	0985-85-8511	宮崎市清武町岡 1 丁目 12-12 まつうら眼科近く	日祝日 水土午後
ハートピアみよしクリニック (精神科・心療内科)	0985-35-1100	宮崎市橘通西 1-5-3	日祝日
こごうメンタルクリニック (精神科・心療内科・内科)	0985-55-1777	宮崎市中村西 3 丁目 2-33	日祝日・第1土 火木午後
宮崎県立宮崎病院	(代) 0985-24-4181	宮崎市北高松町 5-30	
宮崎大学医学部附属病院	(代) 0985-85-1510	宮崎市清武町木原 5200	
大坪外科医院 (外科・胃腸科・循環器科・肛門科)	0985-27-4577	宮崎市別府町 4-30 栄町児童公園隣	日祝日 水土午後
〈産業医〉 おかどめ内科・神経内科	0985-23-1515	宮崎市中津瀬町 12-2	日祝日 水・土午後

★受診前に電話で確認すること（休診日等の変更あり）

臨時休講

天候不良により授業が休講になることがある。通常、暴風、大雨、洪水の3種類の警報が同時に発令された場合、休講となる。(朝6時までにはすべての警報が解除された場合は、平常通り授業を行う。) 休講情報は大学Eメール等でも連絡する。

教科書の販売

詳細については、その都度連絡する。

教育学部専任教員一覧

	氏名・電子メール Name/Email	職名 Title	学位 Degree	授業科目名 Courses	研究室 Office
1	安東 末廣 Ando, Suehiro sando@edu.miyazaki-mic.ac.jp	特任教授 Professor	博士（文学）	障害児保育 教育相談 特別支援教育概論	1-204
2	有嶋 誠 Arishima, Makoto marishima@edu.miyazaki-mic.ac.jp	特任教授 Professor	修士（教育学）	国語Ⅰ・Ⅱ	1-203
3	福田 亘博 Fukuda, Nobuhiro nfukuda@edu.miyazaki-mic.ac.jp	教育学部長 Dean of Faculty	博士（農学）	食の科学 子どもの食と栄養 子どもと食育 自然災害と防災 学校インターンシップ	教育学部長室
4	日高 まり子 Hidaka, Mariko mahidaka@edu.miyazaki-mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	学士（教育学）	音楽 音楽科教育法 保育内容指導法(音楽表現) 子どもの音楽活動 こども音楽療育概論 こども音楽療育演習 こども音楽療育実習	3-4F
5	石濱 博之 Ishihama, Hiroyuki hishihama@edu.miyazaki-mic.ac.jp	教授 Professor	博士（応用言語学）	英語 英語Ⅰ・Ⅱ 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ	1-302
6	河原 国男 Kawahara, Kunio kkawahara@edu.miyazaki-mic.ac.jp	教授 Professor	修士（教育学）	教職概論 教育原理 教職実践演習(幼・小) 教師とは何か-史的省察-	図書館館長室
7	城戸 佐智子 Kido, Sachiko skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp	講師 Lecturer	修士（人間発達学）	忍ヶ丘教養Ⅰ・Ⅱ 保育実践演習 保育内容指導法(健康) 幼児体育演習 教員実習(幼稚園)	1-332
8	守川 美輪 Morikawa, Miwa mmorikawa@edu.miyazaki-mic.ac.jp	教授 Professor	修士（教育学）	忍ヶ丘教養Ⅲ 保育実践演習 図画工作 保育内容指導法(造形表現) 図画工作科教育法 造形表現演習	1-333
9	村上 昇 Murakami, Noboru nmurakami@edu.miyazaki-mic.ac.jp	学長/教授 President / Professor	博士（農学）	健康の科学	学長室
10	中原 邦博 Nakahara, Kunihiro knakahara@edu.miyazaki-mic.ac.jp	特任講師 Lecturer	修士（教育学）	忍ヶ丘教養Ⅰ・Ⅱ 学級経営論 特別活動の指導法 国語Ⅰ(書写を含む) 教育実習指導 教育実習Ⅰ(小学校) 教育実習Ⅰ(幼稚園) 介護等体験	1-202
11	坂倉 真衣 Sakura, Mai msakura@edu.miyazaki-mic.ac.jp	講師 Lecturer	博士（感性学）	理科Ⅰ・Ⅱ 理科教育法Ⅰ・Ⅱ 生活 生活科教育法 生命と科学 環境教育論 教育の方法と技術	3-4F

12	白石 知子 Shiraishi, Tomoko tshiraishi@edu.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	学士 (教育)	家庭科教育法 家庭 教育実習 指導 教育実習 I (小学校)	1-209
13	杉田 康之 Sugita, Yasuyuki ysugita@edu.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	学士 (教育)	教育実習指導 教育実習 I (小学 校) 教員実習 I・II (幼稚園) 介 護等体験	1-210
14	田川 一希 Tagawa, Kazuki ktagawa@edu.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	博士 (理学)	忍ヶ丘教養Ⅲ・Ⅳ 保育内容指導 法(環境) 環境と科学 保育実践 演習 保育実習指導 I 学習の 科学 保育実習 I a・I b	3-4F
15	保田 昌秀 Yasuda, Masahide myasuda@sky.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	博士 (工学)	情報処理 フレッシュマンセミナー	2-104 IR センター
16	山下 愛実 Yamashita, Megumi myamashita@edu.miyazaki- mic.ac.jp	助教 Research Associate	修士 (人文科 学)	忍ヶ丘教養Ⅲ・Ⅳ 保育原理 保 育者論 保育内容指導法(人間関 係) 保育実習指導 I 保育実習 I a I b	3-4F
17	渡邊 耕二 Watanabe, Koji kwatanabe@edu.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	博士 (学術)	忍ヶ丘教養 I・II 算数 I・II 算 数科教育法 I・II 数学と生活 教育の方法と技術 教職実践演習 (幼・小)	2-305

国際教養学部所属併任教員一覧

	氏名/Name	授業科目名/Courses
1	桑原 重雄 Kuwabara, Shigeo	フレッシュマン・セミナー
2	リチャーズ ポール Richards, Paul	英語コミュニケーションⅡ Special Studies in English II
3	ウォーターフィールド マーク Waterfield, Marc	英語コミュニケーションⅠ Special Studies in English I

教育学部非常勤講師一覧

	氏名/Name	授業科目名等/Courses
1	明石 芙美代 Akashi, Fumiyo	ピアノ・声楽Ⅰ
2	安東 桃子 Ando, Momoko	臨床心理学
3	有木 正浩 Ariki, Masahiro	子育て支援
4	遠藤 宏美 Endo, Hiromi	教育課程論 特別活動の指導法 総合的な学習の 時間の指導法
5	福島 裕子 Fukushima, Hiroko	保育内容総論

6	藤井 久美子 Fujii, Kumiko	国際社会論
7	藤本 将人 Fujimoto, Masato	社会Ⅰ・Ⅱ
8	藤田 篤 Fujita, Atsushi	おもちゃと絵本Ⅰ・Ⅱ
9	後藤 芳郎 Goto, Yoshiro	体育実技
10	浜月 春佳 Hamatsuki, Haruka	ピアノ・声楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
11	花畑 明美 Hanabata, Akemi	子どもの保健 子どもの健康と安全
12	日高 正博 Hidaka, Masahiro	体育 体育科教育法
13	東 清香 Higashi, Sayaka	ピアノ・声楽Ⅲ・Ⅳ
14	久松 尚美 Hisamatsu, Naomi (短大教員)	幼児理解
15	本田 奈留美 Honda, Narumi	ピアノ・声楽Ⅰ・Ⅱ
16	堀之内 信子 Horinouchi, Nobuko	おもちゃと絵本Ⅰ・Ⅱ
17	木村 匡登 Kimura, Masato (短大教員)	子ども家庭支援の心理学 子どもの家庭支援論
18	小林 博典 Kobayashi, Hironori	教育とICT活用の方法
19	工藤 道子 Kudo, Michiko	ことばと遊び
20	栗原 美妃 Kurihara, Miki	ピアノ・声楽Ⅰ・Ⅱ
21	松本 俊二 Matsumoto, Shunji	日本語表現
22	南園 加奈子 Minamizono, Kanako	ピアノ・声楽Ⅰ
23	御手洗 正文 Mitarai, Masafumi (短大教員)	プログラミング入門
24	椋木 香子 Mukugi, Kyoko	保育課程論 道徳教育の指導法
25	野崎 秀正 Nosaki, Hidemasa	教育心理学 保育の心理学 子どもの理解と援助 協同学習論
26	小川 美由紀 Ogawa, Miyuki , (短大教員)	乳児保育Ⅰ・Ⅱ
27	尾之上 高哉 Onoue, Takaya	保育内容指導法(言葉)
28	小澤 真美子 Ozawa, Mamiko (短大教員)	音楽と文化
29	小澤 拓大 Ozawa, Takuhiro (短大教員)	心理学概論
30	佐保 忠智 Saho, Tadanori	日本国憲法
31	佐々木 由喜子 Sasaki, Yukiko (短大教員)	音楽と遊び
32	菅 邦男 Suga, Kunio	国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 文学
33	高橋 千恵美 Takahashi, Chiemi	ピアノ・声楽Ⅰ・Ⅱ
34	高橋 秀代 Takahashi, Hideyo	ピアノ・声楽Ⅰ・Ⅱ
35	高橋 博 Takahashi, Hiroshi	社会福祉 子ども家庭福祉 社会的養護Ⅰ・Ⅱ 社会的養護内容
36	立元 真 Tatsumoto, Shin	生徒指導・進路指導
36	土田 悦子 Tsuchida, Etsuko	ピアノ・声楽Ⅰ・Ⅱ
37	湯田 拓史 Yuda, Hirofumi	教育制度論
38	横山 裕 Yokoyama, Yutaka	倫理学
39	吉村 功太郎 Yoshimura, Kotaro	社会科教育法Ⅰ・Ⅱ

国際教養学部専任教員一覧

	氏名・電子メール Name/Email	職名 Title	学位 Degree	教授分野 Teaching Fields	研究室 Office
1	アダチ ジェイソン Adachi, Jason jadachi@sky.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	M.A., University of Hawaii	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	2-205
2	ボンド エリック Bond, Erik ebond@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., University of Oklahoma	社会学 Sociology	1-212
3	チョ ウンス Cho, Eunsoo echo@sky.miyazaki- mic.ac.jp	特任助教 Research Associate	B.A., Hankuk University of Foreign Studies	第二言語としての日 本語 Japanese as a Foreign Language	1-205
4	チョ ソンヒ Cho, Sunghye scho@sky.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	Ph.D., Syracuse University	政治学 Political Science	1-406
5	ディアス アンソニー Diaz, Anthony adiaz@sky.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	M.S., California State University, Fullerton	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-407
6	ダン グレゴリー Dunne, Gregory gdunne@sky.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	Ph.D., University of Missouri	米・英文学 American and British Literature	2-306
7	早瀬 博範 Hayase, Hironori hhayase@sky.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	Ph.D., Hiroshima University	米・英文学 American and British Literature	1-208
8	早瀬 郁子 Hayase, Ikuko ihayase@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Kyushu University	第二言語としての日 本語 Japanese as a Foreign Language	1-331
9	ヘッド エレン Head, Ellen ehhead@sky.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	M.A., University of St. Andrews	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-206
10	ハワード アン Howard, Anne ahoward@sky.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	Ph.D., Macquarie University	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-304
11	ヒメネス フェリックス Jimenez Botta, Felix A. fjimenez@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Boston College	歴史学、宗教学 History, Religion	1-211
12	笠井 綾 Kasai, Aya akasai@sky.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	Ph.D., California Institute of Integral Studies	心理学 Psychology	1-405
13	川越 勇二 Kawagoe, Yuji ykawagoe@sky.miyazaki- mic.ac.jp	特任教授 Professor	B.Ed., Hiroshima University	日本語表現 Japanese Expression	1-409

14	小林 太 Kobayashi, Futoshi fkobayas@sky.miyazaki- mic.ac.jp	教授 Professor	Ph.D., University of Texas at Austin	心理学 Psychology	1-410
15	桑原 重雄 Kuwabara, Shigeo skuwabara@sky.miyazaki- mic.ac.jp	講師 Lecturer	M.A., Hosei University	政策学 Policy Studies	1-327
16	ムオドコフスキー パウ エル Mlodkowski, Pawel pmlodkowski@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Jagiellonian University	経済学 Economics	1-402
17	モーク カタリーナ Mork, Cathrine cmork@sky.miyazaki-mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	B.A., M.L.I.S., McGill University	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-303
18	オチ デボラ Occhi, Debra docchi@sky.miyazaki-mic.ac.jp	教授 Professor	Ph.D., University of California, Davis	人類学 Anthropology	2-206
19	パッソス アンデルソン Passos, Anderson apassos@sky.miyazaki- mic.ac.jp	国際教養 学部長 Dean of Faculty	Ph.D., Kagoshima University	情報技術 Information Technology	1-305
20	リチャーズ ポール Richards, Paul prichards@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Indiana University	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-330
21	ロダ ブレンダン Rodda, Brendan brodda@sky.miyazaki-mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	M.A., Macquarie University	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-411
22	シュミット レベッカ Schmidt, Rebecca rschmidt@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	M.A., Macquarie University	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-401
23	スタンリー イアン Stanley, Iain istanley@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Queensland University of Technology	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	2-106
24	ヴ マンティエン Vu, Manh Tien mvu@sky.miyazaki-mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Osaka University	経済学 Economics	1-201
25	ウォーターフィールド マーク Waterfield, Marc mwaterfield@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	Ph.D., Kumamoto University	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-408
26	山本 忠クレイグ Yamamoto, Tadashi Craig cyamamoto@sky.miyazaki- mic.ac.jp	准教授 Assistant Professor	M.A., University of Southern Queensland	第二言語としての英 語教育 English as a Foreign Language	1-328
27	矢野 健二 Yano, Kenji kyano@sky.miyazaki-mic.ac.jp	教授 Professor	B.A., Kokugakuin University	キャリア教育 Career Education	2-104 キャリア教 育センター

教育学部所属併任教員一覧

	氏名/Name	授業科目名等/Courses
1	安東 末廣 Ando, Suehiro	特別支援教育概論 教育相談
2	石濱 博之 Ishihama, Hiroyuki	英語科教育法 I・II・IV
3	河原 国男 Kawahara, Kunio	教職概論、教育原理
4	中原 邦博 Nakahara, Kunihiro	特別活動論
5	白石 知子 Shiraishi, Tomoko	事前・事後指導、教育実習
6	杉田 康之 Yasuyuki, Sugita	介護等体験、教育実習

国際教養学部非常勤講師一覧

	氏名/Name	授業科目名等/Courses
1	遠藤 宏美 Endo, Hiromi	教育課程論 総合的な学習の時間の指導法
2	後藤 芳郎 Goto, Yoshiro	体育実技
3	平井 悠 Hirai, Yu	ティーチングアシスタント、ASC
4	井藤 哉 Ito, Hajime	会計学 1、2 簿記
5	ハーン キリル Khan, Kirill	韓国研究
6	児島 直美 Kojima, Naomi	日本語研究 B、C
7	待木 美奈子 Machiki, Minako	キャリア・デザイン
8	松元 雅子 Matsumoto, Masako	日本語表現 4
9	ムグルッサ メロディー Muguersza, Melody	自然・生命科学概論 地球環境
10	佐保 忠智 Saho, Tadanori	日本国憲法
11	清 智利 Sei, Chitoshi	道徳教育論
12	シンプソン アラン Simpson, Alan	経済学概論
13	砂川 眞 Sunagawa, Makoto	国際政治経済論 グローバル・スタディの基礎 2
14	立元 真 Tatsumoto, Shin	生徒・進路指導論
15	蔡 佩芳 Tsai, Pei-fang	中国研究
16	和田 恵 Wada, Megumi	日本語 日本事情 日本語研究
17	湯田 拓史 Yuda, Hirofumi	教育制度論

職員一覧
Administrative Staff

氏名 Name	役職名・部署 Title/Department	
村上 昇 Murakami, Noboru	学長 President	
山下 恵子 Yamashita, Keiko	副学長（人事、総務、会計、本部担当） Vice-President (for Human Resources, General Affairs, Accounting, Headquarters)	
福田 亘博 Fukuda, Nobuhiro	副学長（教育・研究担当）/教育学部長 Vice-President (for Education and Research) / Dean of Education	教育学部 Faculty of Education
矢野 健二 Yano, Kenji	副学長（入試・広報・キャリア教育担当） Vice-President (for Admissions, Public Relations, and Career Education)	キャリア教育センター長 Director of Career Education Center
保田 昌秀 Yasuda, Masahide	副学長（教務、IR 担当） Vice-President (for Academic Affairs and IR)	IR センター長 Director of IR Center
西村 直樹 Nishimura, Naoki	副学長（国際連携担当） Vice-President (for International Relations)	グローバル教育センター長 Director of Global Education Center
ウォーカー ロイド Walker, Lloyd	副学長（地域連携担当） Vice-President (for Community Relations)	地域連携センター長 Director of Community Relations Center
パッソス アンデルソン Passos, Anderson	国際教養学部長/ICT マネージャー Dean of Faculty/ICT Manager	国際教養学部 Faculty of International Liberal Arts
河野 豪 Kawano, Tsuyoshi	事務局長 Director of Administration	総務部 Office of General Affairs
山崎 聖二 Yamasaki, Seiji	総務部長 Director of General Affairs	
香川 玲子 Kagawa, Reiko	総務課長（兼）学長補佐 Manager of General Affairs/ Assistant to the President	
山本 郷子 Yamamoto, Kyoko	会計課係長 Assistant Manager of Accounting	
藤江 麻依子 Fujie, Maiko	総務課係長（兼）会計課 Assistant Manager of General Affairs /Accounting Staff	
平田 和幸 Hirata, Kazuyuki	技術員（兼）学生課 Engineer/Student Affairs Staff	
北林 真由子 Kitabayashi, Mayuko	入試広報部主査 Assistant Manager of Admissions and PR	
田中 胤己 Tanaka, Tsugumi	入試広報部書記 Admissions and PR Staff	
河原 国男 Kunio kawahara	（兼）学生部長 Director of Student Affairs	学生部 Office of Student Affairs
渡邊 耕二 Watanabe, Koji	（兼）学生課長 Manager of Student Affairs	
ウォーターフィールド マーク Waterfield, Marc	（兼）学生課長 Manager of Student Affairs	
永春 留美 Nagaharu, Rumi	学生部書記 Student Affairs Staff	
柏田 純子 Kashiwada, Junko	教務係長 Assistant Manager of Academic Affairs	

外山 雅士 Toyama, Masashi	教務課主査 Assistant Manager of Academic Affairs	教務部 Office of Academic Affairs
工藤 彩希 Kudo, Saki	教務課書記 Academic Affairs Staff	
清田 典雄 Kiyota, Norio	キャリア教育センター主査 Assistant Manager of Career Education Center	キャリアサポートセンター Career Support Center
ウォーカー 祐貴子 Walker, Yukiko	グローバル教育センター副長(兼)入試広報部 Vice Director of Center for Global Education/Office of Admissions and PR	グローバル教育センター Global Education Center
オルセン多香子 Takako Olsen	グローバル教育センター書記 Global Education Center Staff	
白石 知子 Shiraishi, Tomoko	学生教職支援センター長 Director of Teacher Training Support Center	学生教職支援センター Teacher Training Support Center
宮下 禎久 Miyashita, Yoshihisa	情報管理センター主査 Assistant Manager of Information Management Center	情報管理センター Information Management Center
荒木 玲子 Araki, Sachiko	保健管理センター主査 Assistant Manager of Health Center	保健管理センター Health Center
山元 詩織 Yamamoto, Shiori	保健管理センターカウンセラー (長期休暇) Counselor of Health Center	
ヘンスリー千春 Hensley Chiharu	保健管理センターカウンセラー (非常勤) Counselor of Health Center	
那須 礼 Nasu, Aya	事務補佐員 Administrative Assistant	総務部 Office of General Affairs
酒井 温子 Sakai, Atsuko	事務補佐員 Administrative Assistant	学生部 Office of Student Affairs
井野 真紀 Ino, Maki	事務補佐員 Administrative Assistant	入試広報部 Office of Admissions & PR
黒木 亜美子 Kuroki, Amiko	非常勤職員 (国際交流センター清掃業務) Part-time Staff (Cleaning Staff of International Exchange Center)	国際交流センター International Exchange Center

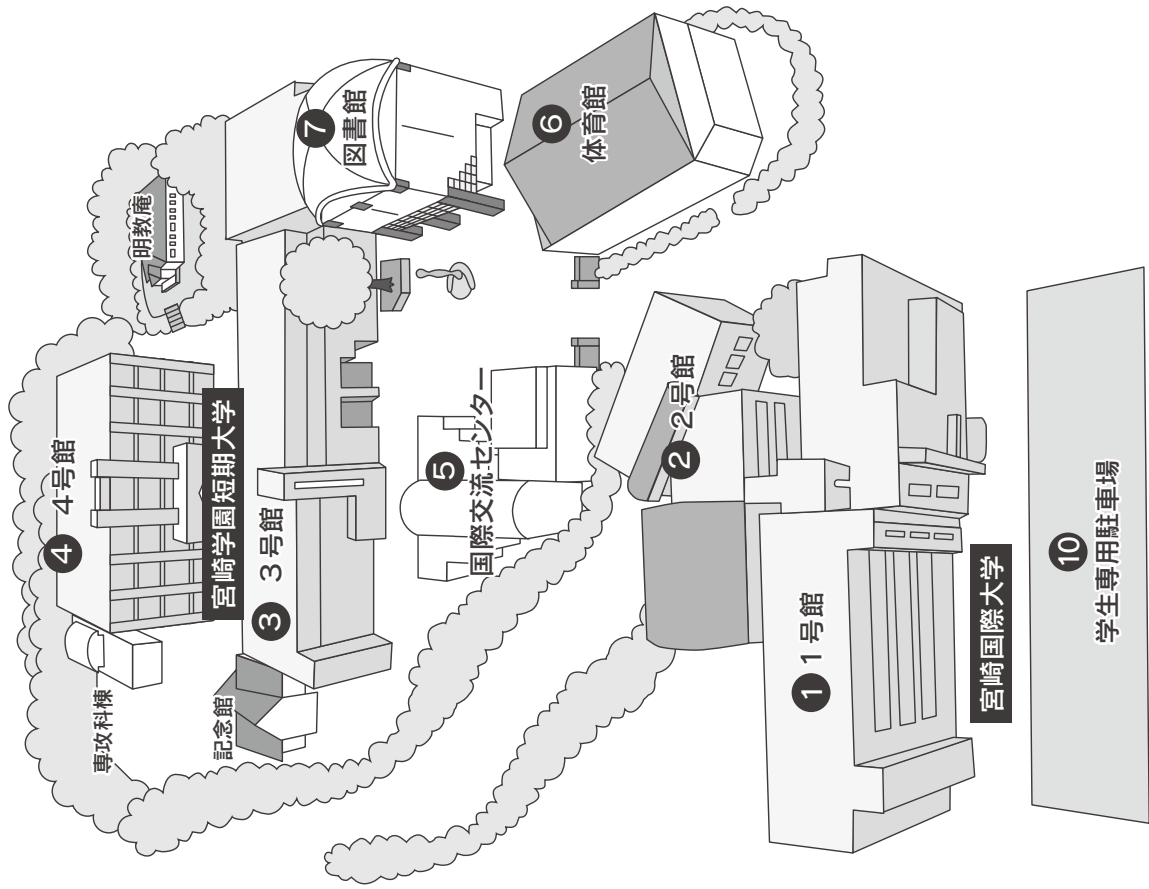
宮崎学園図書館職員一覧
MEI Library Staff

氏名 Name	役職名 Title
河原 国男 Kawahara, Kunio	館長 Director
高橋 明美 Takahashi, Akemi	課長事務取扱(短大総務部長) Section Chief (Director of General Affairs)
小橋 智子 Kobashi, Tomoko	司書(非常勤) Librarian (Part-time)
増田 菜穂 Masuda, Nao	司書 Librarian
松永 直美 Matsunaga, Naomi	司書 Librarian
松田 奈々 Matsuda, Nana	書記 Clerk
河野 静香 Kawano, Shizuka	書記 Clerk
見戸 澄子 Mito, Sumiko	非常勤職員 Part-time Staff
中村 香織 Nakamura, Kaori	非常勤職員 Part-time Staff
高木 亜美 Takagi, Ami	非常勤職員 Part-time Staff

VIII キャンパス案内図

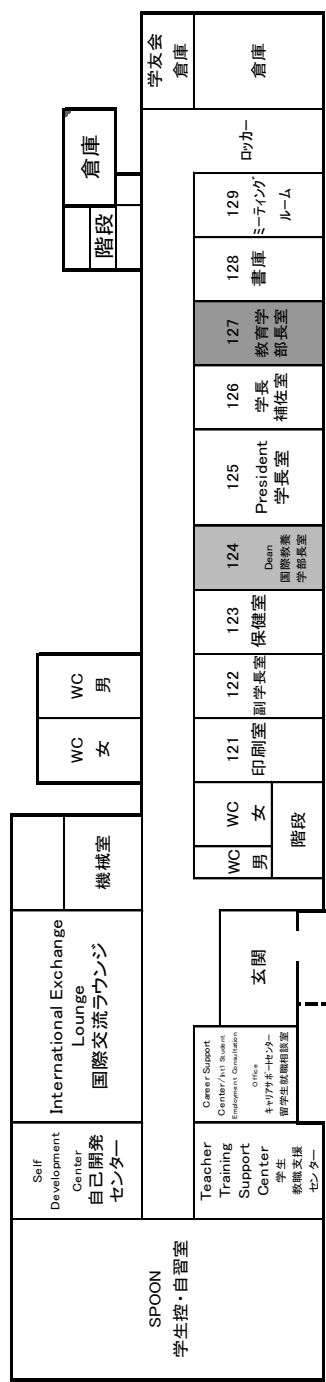
キャンパス案内図

- | | |
|---|---|
| ① 1号館
Building1 | ⑥ 体育館
Gymnasium |
| ② 2号館
Building2 | ⑦ 図書館
Library |
| ③ 3号館
Building3 | ⑧ 運動場
Athletic Field |
| ④ 4号館
Building4 | ⑨ 教職員駐車場
Faculty and staff Parking lot |
| ⑤ 国際交流センター
International Exchange Center | ⑩ 学生専用駐車場
Student Parking lot |



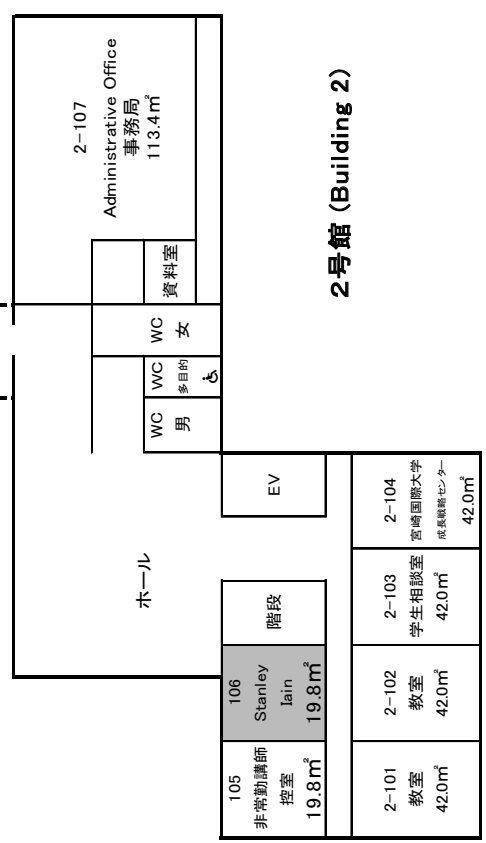
1階平面図
Floor Map (1F)

1号館 (Building 1)



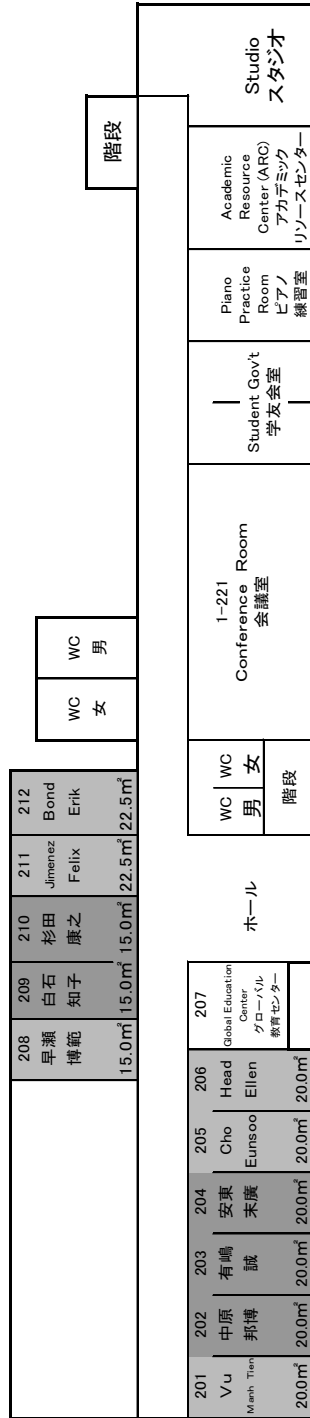
- 教育学部専用
- 国際教養学部専用
- 両学部共用

2号館 (Building 2)

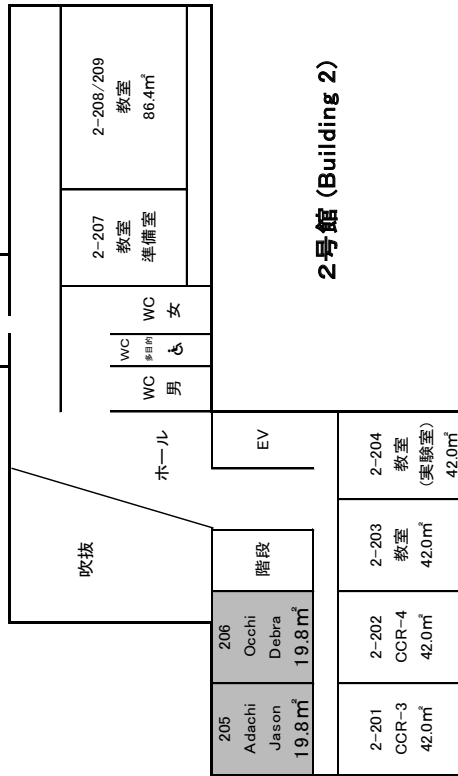


2階平面図
Floor Map (2F)

1号館 (Building 1)



通路

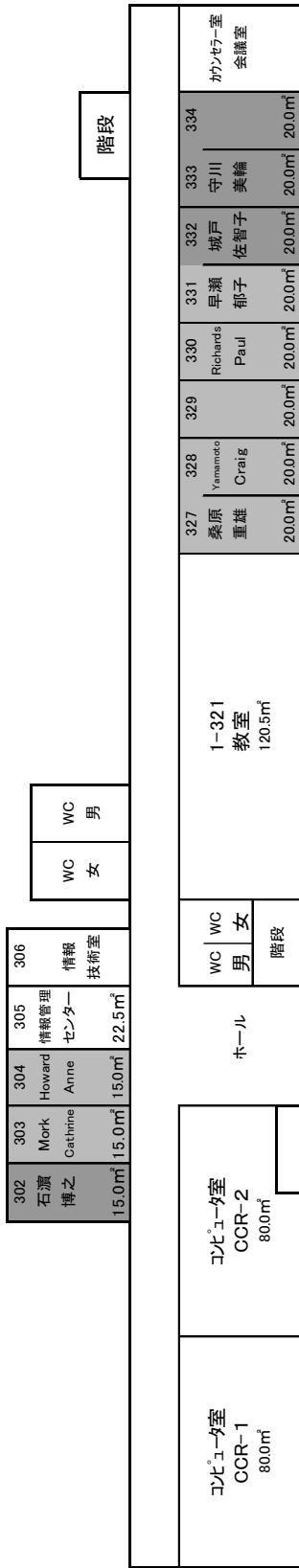


2号館 (Building 2)

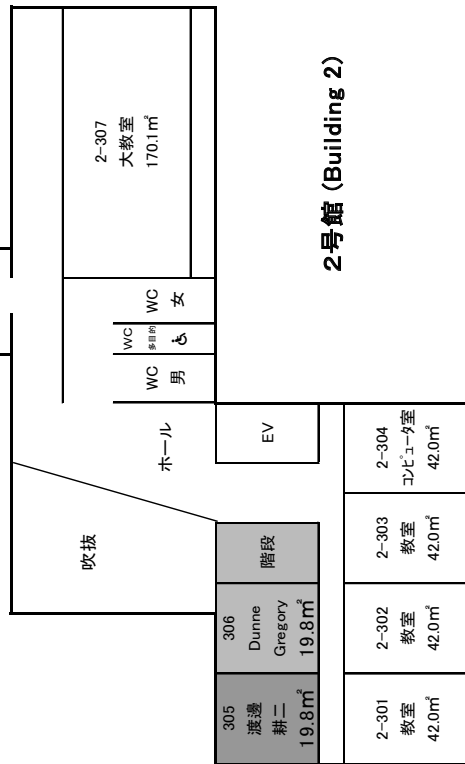
- 教育学部専用
- 国際教養学部専用
- 両学部共用

3階平面図
Floor Map (3F)

1号館 (Building 1)



通路



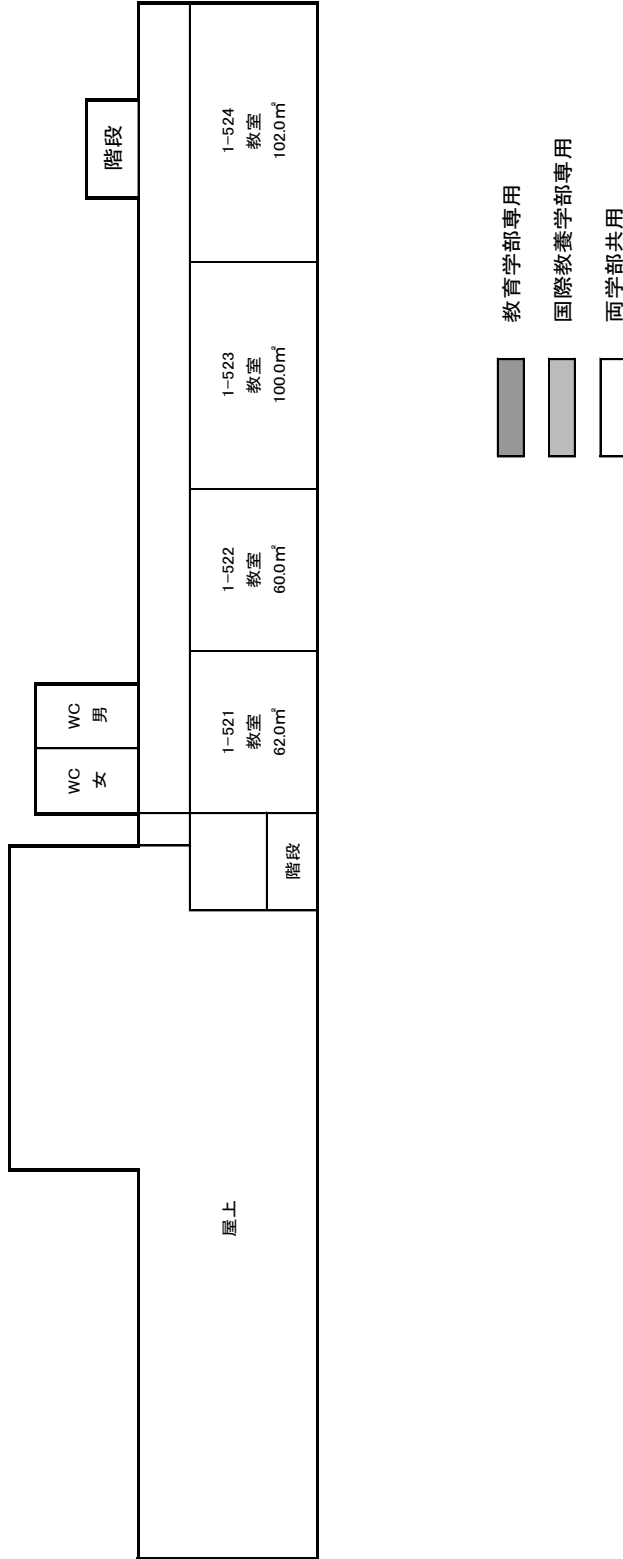
2号館 (Building 2)

- 教育学部専用
- 国際教養学部専用
- 両学部共用

5階平面図

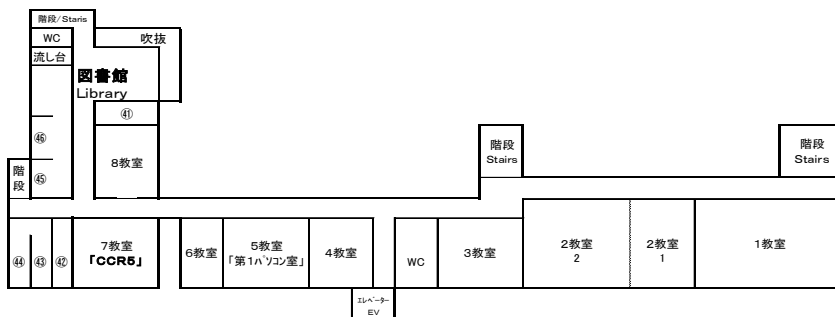
Floor Map (5F)

1号館 (Building 1)



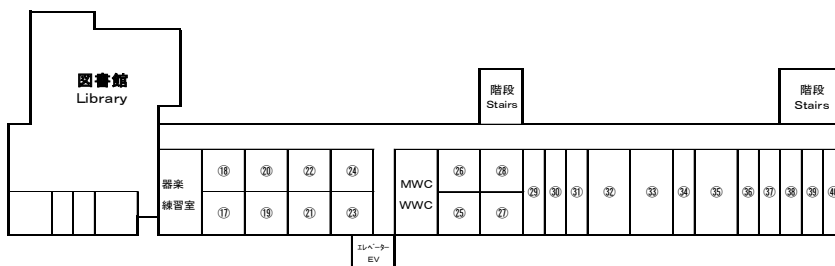
3号館 Building 3

○4階/4F (次ページに詳細有り)

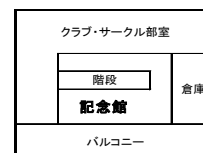
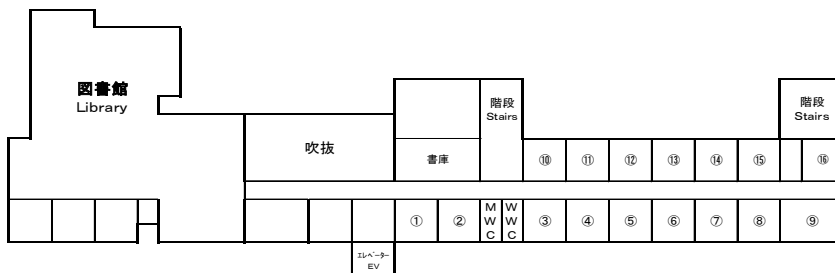


- ①~⑩ 短大教員研究室
- ⑪ 第1レッスン室
- ⑫
- ⑬ 第15
- ⑭~⑳ 短大教員研究室
- ㉑~㉒ 大学教員研究室

○3階/3F



○2階/2F



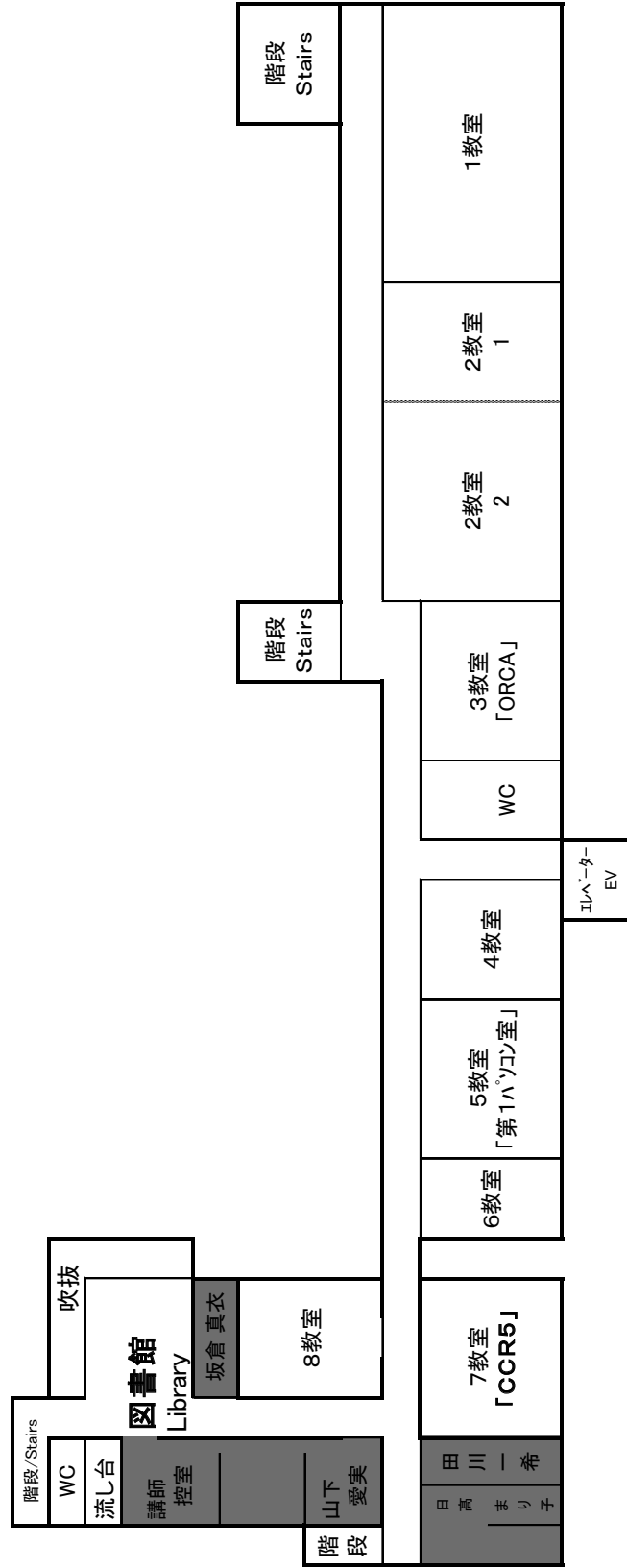
○1階/1F



3号館

Building 3

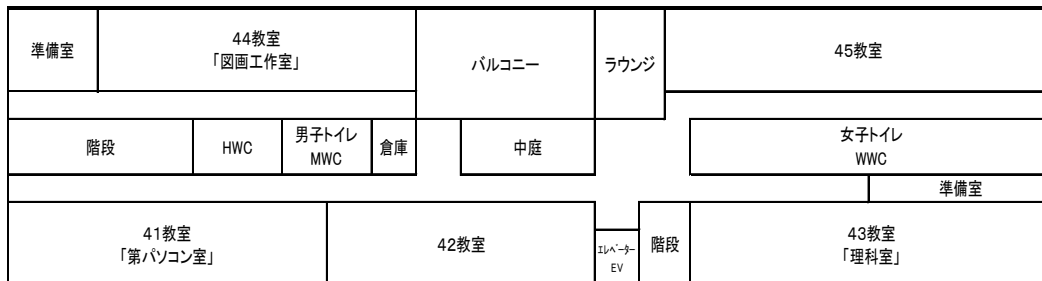
○4階/4F



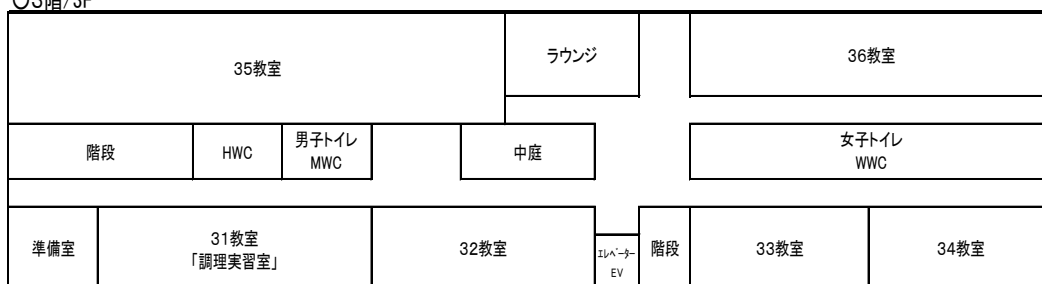
4号館

Building 4

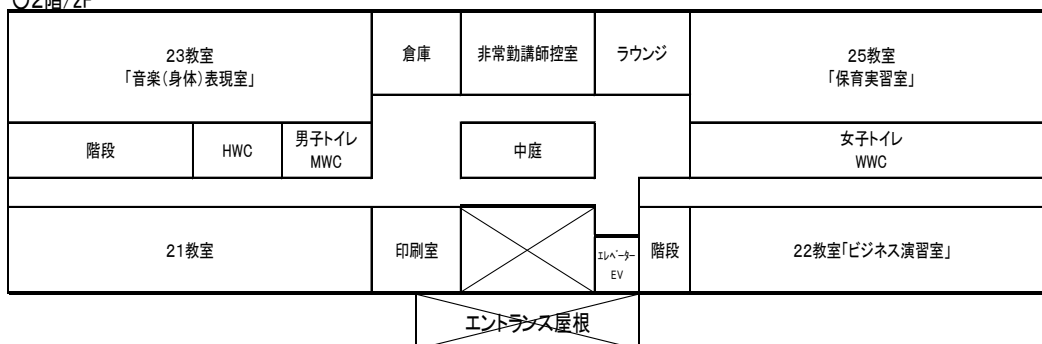
○4階/4F



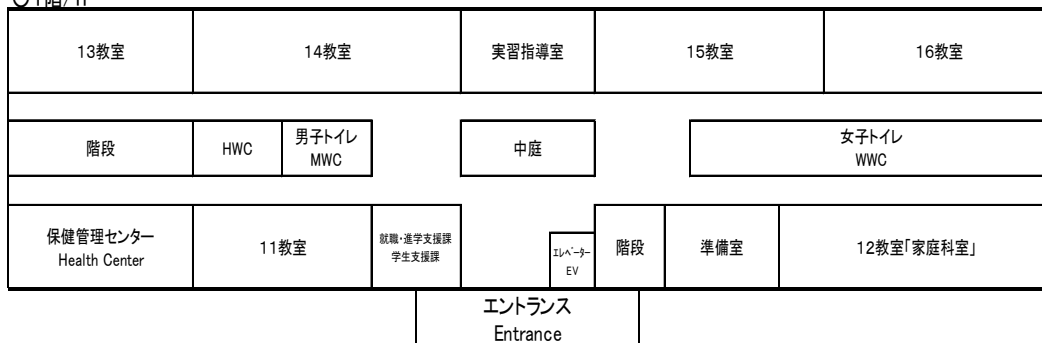
○3階/3F



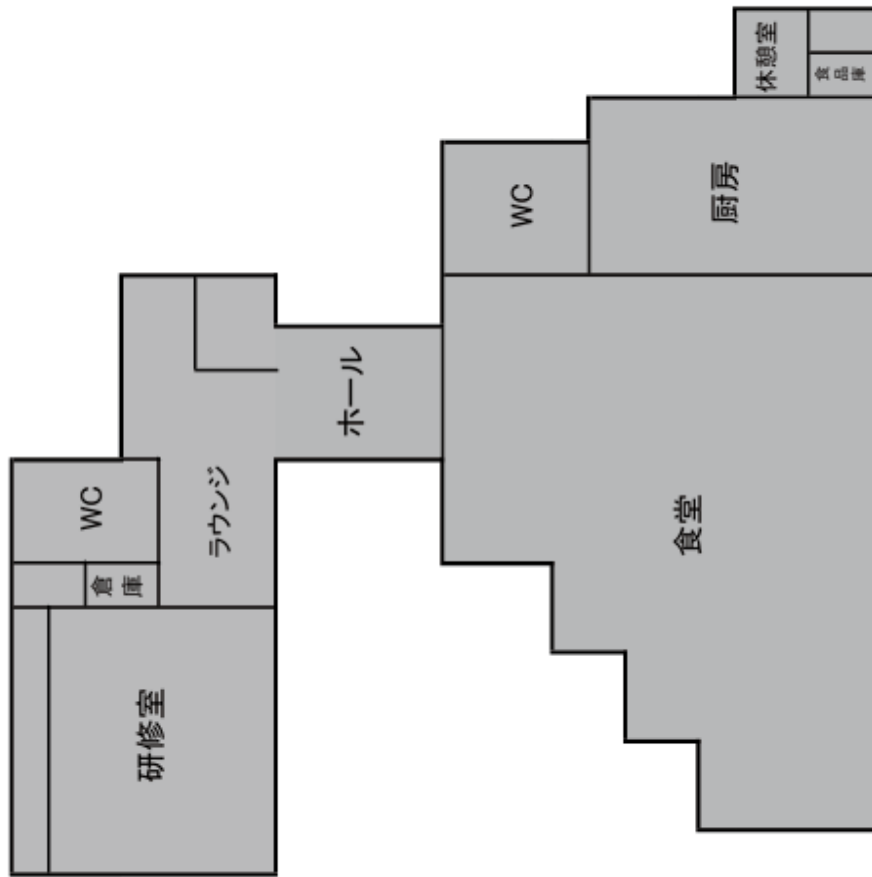
○2階/2F



○1階/1F



国際交流センター 1階平面図
International Exchange Center Floor Map (1F)



諸 様 式

Excused Absence Form

公欠・忌引届

Student ID 学籍番号		Name 名前	
---------------------------	--	-------------------	--

公欠の 事由	①実習についての打合せなど	実習先
	②就職試験及びそれに準ずるもの	就職先名
	③学校保健安全法（インフルエンザ等）による出席停止の場合	病名
	④天災（洪水、地震等）に被災した場合	被災内容
	⑤文化及び体育等の課外活動への参加を学部長が認めた場合	部活名・遠征先
	⑥その他やむを得ない事情と学長が認めた場合	事情
Contact 連絡先	Contact # / 電話番号（携帯） — —	
Period 期間	From : (Month) / (Date) To : (Month) / (Date)	Day(s) / Suspense 日間 / 未 定

忌引	本人との関係				
	場所				
	Period 期間	From (Month) / (Date) To (Month) / (Date)	Day(s) / Suspense 日間 / 未 定		

Course Title 欠席授業名	Name of Instructor(s) 担当教員名	Signature 担当教員署名

Dean 学部長	Academic Affairs 学務部	Student Affairs 学生部

MIYAZAKI INTERNATIONAL COLLEGE

DROP / ADD (CHANGE OF SCHEDULE)

辞退 / 追加 (時間割り変更届)

Circle one: SPRING(前期) / FALL(後期)

Year(年度) : _____

(1st / 2nd / 3rd / 4th) ID(学籍番号) No. _____
(circle one)(○を付ける)

Student's name(学生氏名): _____
(please print) (date)(日付)

I want to **drop**: (course no.) _____ (title) _____ (Day/Time) _____
(辞退) (科目番号) (授業科目名) (曜日/時間)

Instructor signature(担当教員の署名): _____
(date)(日付)

Adviser signature(担任の署名): _____
(date)(日付)

I want to **drop**: (course no.) _____ (title) _____ (Day/Time) _____
(辞退) (科目番号) (授業科目名) (曜日/時間)

Instructor signature(担当教員の署名): _____
(date)(日付)

Adviser signature(担任の署名): _____
(date)(日付)

=====

I want to **add**: (course no.) _____ (title) _____ (Day/Time) _____
(追加) (科目番号) (授業科目名) (曜日/時間)

Instructor signature(担当教員の署名): _____
(date)(日付)

Adviser signature(担任の署名): _____
(date)(日付)

I want to **add**: (course no.) _____ (title) _____ (Day/Time) _____
(追加) (科目番号) (授業科目名) (曜日/時間)

Instructor signature(担当教員の署名): _____
(date)(日付)

Adviser signature(担任の署名): _____
(date)(日付)

=====

Registrar(教務係り): _____
(date)(日付)

The student's schedule is not changed until this form has been signed by the registrar.

この用紙に教務係りが署名するまで、学生の時間割りは変更できません。